

築池遺跡(第1～4次発掘調査)

十三束第2遺跡(第2次発掘調査)

—県営農地整備事業下水流2期地区—

2004. 3

宮崎県都城市教育委員会

## 序

都城市では平成元年に「人が元気、まちが元気、自然が元気」という標題を掲げ、ウエルネス都市宣言を行い市政にとりくんでおります。そのなかで、豊かな歴史や自然を後世に伝えていくことが、現代に生きる我々の重要な務めだと考えています。

都城市教育委員会では開発行為に伴い、やむをえず現状保存ができない埋蔵文化財については、事前に発掘調査を実施し、記録保存を行っています。当報告書は県営農地保全整備事業において実施された発掘調査報告で、調査の結果、貴重な成果をあげることができました。また、本書が文化財保護への理解と認識を深める一助となり、さらに研究資料として活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から本書刊行にいたるまで宮崎県北諸県農林振興局、宮崎県教育庁文化課をはじめとする関係各位のご理解とご協力を賜りましたことに対し厚く御礼申し上げます。

平成16年3月  
都城市教育委員会  
教育長 北村秀秋

## 例　　言

1. 本書は都城市下水流町において平成12～15年度に宮崎県北諸県農林振興局の委託を受け、都城市教育委員会が実施した築池遺跡第1～4次調査の発掘調査報告書である。
2. 現場における遺構の実測は、作業員の協力を得て矢部喜多夫が行い、そのほか第1次調査では大盛祐子、第2次調査では市文化課嘱託職員下田代清海、原田亜紀子、外山隆之、鹿児島大学学生藤井大祐、第3次調査では市文化課職員横山哲英、鹿児島大学学生藤井大祐、第4次調査では市文化課職員兼畠光博、同嘱託職員立神勇志、寺田庸平(別府大学卒業生)の協力を得た。特に下田代には多大な協力を得た。また、第2、3次調査地下式横穴墓出土人骨の実測・取上げについては、山口県土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム館長松下孝幸氏に依頼した。
3. 第1次調査出土人骨については鹿児島大学歯学部竹中正巳氏、第2、3次調査出土人骨については松下孝幸氏に正稿を賜った。
4. 出土した遺物の実測は整理作業員が行い、製図は矢部、一部水元美紀子が実測・製図を行った。また、一部(株)埋蔵文化財サポート・システムに実測・製図を委託した。
5. 遺構・遺物写真は矢部が撮影した。
6. 本書で用いている方位は磁北である。
7. 本書(築池遺跡)の執筆は矢部があたった。
8. 本書(築池遺跡)で使用した遺構の略記号は以下のとおりである。

築池遺跡第1次調査：Tk2000　同第2次調査：Tk2001　同第3次調査：Tk2002　同第4次調査：Tk2003  
SA：竪穴住居跡　SB：掘立柱建物跡　SC：土坑　SD：溝状遺構　SX：地下式横穴墓
9. 発掘調査で出土した遺物(人骨を除く)と記録(図面・写真)は都城市教育委員会で保管している。

## 本文目次

I	はじめに	1
1	調査に至る経緯	1
2	調査の組織	1
3	遺跡の位置と環境	2
II	調査の記録	4
1	調査の経過	4
2	築池遺跡第1・2次調査	5
3	築池遺跡第3次調査	42
4	築池遺跡第4次調査	66
5	まとめ	75
III	人骨編	99
1	築池遺跡第1次発掘調査	100
2	築池遺跡第2・3次発掘調査	103

## 挿図目次

第1図	築池遺跡上層柱状圖	2
第2図	遺跡位置図	3
第3図	築池遺跡・十三東第2遺跡調査区域図	4
第4図	築池遺跡（第1・2次発掘調査）遺構分布図	6
第5図	築池遺跡第1・2次東側調査区域遺構配置図	7
第6図	1号堅穴住居跡（SA01）	11
第7図	1号堅穴住居跡（SA01）内出土遺物実測図	12
第8図	2号堅穴住居跡（SA02）および土壙断面図	14
第9図	2号堅穴住居跡（SA02）内出土遺物実測図	14
第10図	3号堅穴住居跡（SA03）	16
第11図	3号堅穴住居跡（SA03）内出土遺物実測図	16
第12図	4号堅穴住居跡（SA04）	17
第13図	4号堅穴住居跡（SA04）内出土遺物実測図-1	18
第14図	4号堅穴住居跡（SA04）内出土遺物実測図-2	19
第15図	5号埴周溝内土器出土状況および上層断面図	22
第16図	Tk2000-1号地下式横穴墓（Tk2000-SX01）	23
第17図	Tk2000-1号地下式横穴墓（Tk2000-SX01）内出土遺物	24
第18図	Tk2001-2号地下式横穴墓（Tk2001-SX02）	25
第19図	Tk2001-2号地下式横穴墓（Tk2001-SX02）内出土遺物	26
第20図	Tk2001-3号地下式横穴墓（Tk2001-SX03）・1号溝状遺構（Tk2001-SD01）	27
第21図	1号溝状遺構（Tk2001-SD01）	28
第22図	Tk2001-3号地下式横穴墓（Tk2001-SX03）	29
第23図	Tk2001-3号地下式横穴墓（Tk2001-SX03）・1号溝状遺構（Tk2001-SD01）内出土遺物実測図	30

第24図	Tk2001-6号地下式横穴墓 (Tk2001-SX06)・2号溝状遺構 (Tk2001-SD02).....	31
第25図	Tk2001-6号地下式横穴墓 (Tk2001-SX06) .....	32
第26図	Tk2001-6号地下式横穴墓 (Tk2001-SX06) 内出土遺物実測図 .....	33
第27図	Tk2001-4, 7号地下式横穴墓 (Tk2001-SX04, 07) 配置図 .....	35
第28図	Tk2001-4, 7号地下式横穴墓 (Tk2001-SX04, 07) .....	39
第29図	Tk2001-4, 7号地下式横穴墓 (Tk2001-SX04, 07) 内出土遺物 .....	40
第30図	Tk2001-5号地下式横穴墓 (Tk2001-SX05) .....	41
第31図	Tk2001-5号地下式横穴墓 (Tk2001-SX05) 内出土遺物実測図 .....	42
第32図	Tk2001-8, 9, 10号地下式横穴墓 (Tk2001-SX08, 09, 10) 配置図 .....	43
第33図	Tk2001-8, 9, 10号地下式横穴墓 (Tk2001-SX08, 09, 10) .....	44
第34図	Tk2001-8, 9, 10号地下式横穴墓 (Tk2001-SX08, 09, 10) 内出土遺物実測図 .....	45
第35図	その他の遺構 .....	46
第36図	築池遺跡第3次調査 (Tk2002) 遺構分布図 .....	48
第37図	築池遺跡第3次調査 (Tk2002) 東側調査区 .....	49
第38図	Tk2002-1, 2号溝 (Tk2002-SD01, 02) 内出土遺物 .....	50
第39図	Tk2002-1, 5号地下式横穴墓 (Tk2002-SX01, 05) .....	51
第40図	Tk2002-1, 5号地F式横穴墓 (Tk2002-SX01, 05) 内出土遺物実測図 .....	52
第41図	Tk2002-2号地下式横穴墓 (Tk2002-SX02) 土層断面図および竪坑内出土遺物実測図 .....	53
第42図	Tk2002-2号地下式横穴墓 (Tk2002-SX02) .....	54
第43図	Tk2002-3号地下式横穴墓 (Tk2002-SX03) .....	55
第44図	Tk2002-4号地下式横穴墓 (Tk2002-SX04) .....	56
第45図	Tk2002-6, 7, 8号地下式横穴墓 (Tk2002-SX06, 07, 08) 付近出土遺物出土状況 .....	58
第46図	Tk2002-6, 7, 8号地下式横穴墓 (Tk2002-SX06, 07, 08) 付近出土遺物実測図 .....	59
第47図	Tk2002-6号地下式横穴墓 (Tk2002-SX06) .....	60
第48図	Tk2002-7, 8号地下式横穴墓 (Tk2002-SX07, 08) 竪坑内出土遺物実測図 .....	61
第49図	Tk2002-7号地下式横穴墓 (Tk2002-SX07) .....	62
第50図	Tk2002-8号地下式横穴墓 (Tk2002-SX08) .....	63
第51図	Tk2002-6, 7, 8号地下式横穴墓 (Tk2002-SX06, 07, 08) 内出土遺物実測図 .....	64
第52図	その他の遺構 .....	65
第53図	築池遺跡第4次調査 (Tk2003) 遺構分布図 .....	67
第54図	Tk2003-1号溝 (Tk2003-SD01), Tk2003-1号地下式横穴墓 (Tk2003-SX01) および河内遺物実測図 .....	68
第55図	Tk2003-3号地下式横穴墓 (Tk2003-SX03) および周辺遺物出土状況 .....	69
第56図	Tk2003-3号地下式横穴墓 (Tk2003-SX03) .....	70
第57図	Tk2003-3号地下式横穴墓 (Tk2003-SX03) 竪坑内出土遺物実測図 .....	71
第58図	Tk2003-3号地下式横穴墓 (Tk2003-SX03) 玄室内出土遺物実測図 .....	72
第59図	その他の遺構 .....	73
第60図	Tk2003-2号地下式横穴墓 (Tk2003-SX02) .....	77

## 表 目 次

第1表 出土遺物観察表-1 .....	20
第2表 出土遺物観察表-2 .....	21
第3表 出土遺物観察表-3 .....	24
第4表 出土遺物観察表-4 .....	34
第5表 出土遺物観察表-5 .....	40
第6表 出土遺物観察表-6 .....	45
第7表 出土遺物観察表-7 .....	46
第8表 出土遺物観察表-8 .....	59
第9表 出土遺物観察表-9 .....	71
第10表 地下式横穴墓観察表 .....	74

## 写 真 図 版 目 次

写真図版 1 Tk2000周溝 SX01 .....	79
写真図版 2 Tk2001周溝 SA01 SA02 SX02 .....	80
写真図版 3 Tk2001SD01 SX03 .....	81
写真図版 4 Tk2001SX06 SD02 SX07 .....	82
写真図版 5 Tk2001SX07 SX04 SX05 .....	83
写真図版 6 Tk2001SX05 SX08 SX09 SX10 .....	84
写真図版 7 Tk2001SX09 SX03 SD03 SC01 .....	85
写真図版 8 Tk2002SD01 SD02 SX01 SX05 SC01 .....	86
写真図版 9 Tk2002SX02 SX03 SX04 SX06付近 .....	87
写真図版10 Tk2002SX07,08検出前 SX06 .....	88
写真図版11 Tk2002SX07 .....	89
写真図版12 Tk2002SX08 SC01 SC02 SB01 Tk2003SC02 .....	90
写真図版13 Tk2003主な遺構・遺物出土状況 .....	91
写真図版14 掘載遺物-1 .....	92
写真図版15 掘載遺物-2 .....	93
写真図版16 掘載遺物-3 .....	94
写真図版17 掘載遺物-4 .....	95
写真図版18 掘載遺物-5 .....	96
写真図版19 掘載遺物-6 .....	97
写真図版20 掘載遺物-7 .....	98

# I はじめに

## 1 調査に至る経緯

宮崎県北諸県農林振興局では、平成元年度から都城市下水流町（下水流2期地区）において、農地侵食防止工事として県営農地保全整備事業を実施している。平成12年度工事予定箇所が、県指定志和池（村）古墳群を含む築池遺跡内に予定された。そのため、平成11年度に宮崎県文化課により確認調査が行われ、工事区間に内に遺跡の存在が確認された。遺跡の保存に対する協議がはじまり、平成12年度都城市教育委員会が主体となり、本調査を実施することで合意に至った。次年度以降の工事箇所については、前年度に確認調査や地ドレーダー等の探査を行った後協議を行い、下記のとおり都合4ヶ年において発掘調査を実施した。

年 度	調 査 名	調査面積	平成14年度	築池遺跡第3次調査	700m <sup>2</sup>
平成12年度	築池遺跡第1次調査	80m <sup>2</sup>	平成15年度	築池遺跡第4次調査	800m <sup>2</sup>
平成13年度	築池遺跡第2次調査	500m <sup>2</sup>		十三東第2遺跡第2次調査	190m <sup>2</sup>

## 2 調査の組織

築池遺跡（第1～4次）および十三東第2遺跡（第2次）の発掘調査は下記の組織で実施した。

調査主体者 都城市教育委員会

調査責任者 教育長 長友久男（平成14年6月30日まで）

北村秀秋

調査事務局 文化課

課長 内村 一男（平成13年度まで）

井尻 賢治（平成14年度から）

課長補佐 盛満 和夫（平成12年度まで）

坂元 昭夫（平成13年度から）

文化財係長 堀之内克夫（平成12年度）

奥田 正幸（平成13年度）

松下 述之（平成14年度）

文化財調査担当副主幹 矢部喜多夫（平成15年度）

調査担当者 築池遺跡 主査 矢部喜多夫（平成12～15年度）

（平成15年度より副主幹）

十三東第2遺跡 主事 久松 亮

調査指導 宮崎県文化課 主任主事 東 慎章（平成11年度）

（試掘・協議等） 主査 飯田博之（平成12～15年度）

外業作業員（築池遺跡第1～4次調査、十三東第2遺跡第2次調査）

桜 ハナ 桜 ツネ 坊地トミ 広村ミキ 内村好子 椎屋松子 藤井大祐 東 春夫

荒ヶ田安夫 鴻 松雄 馬籠恵子 庄屋幸子 寺田庸平 津曲節子 岩本 泉 河野春信

平山甲子郎 徳丸ヒサ子 小山田福子 岩切数秋 城村ミキ 竹中美代子 山口一夫

中原貞良 中原忠珍 立山君子 岩切ユキ 南スミ子 蒲生ミツ子 藤田フヂ子

整理作業員（築池遺跡第1～4次調査、十三東第2遺跡第2次調査）

水光弘子 奥登根子 伊鹿倉康子 谷口和代 児玉信子 前田町子 渡司ちさ子

大坪真知子 吉留優子 丸崎千鶴子

### 3 遺跡の位置と環境

十三東第2遺跡と築池遺跡は都城市下水流町字十三東、築池に所在し、付近一帯は宮崎県指定文化財志和池古墳群や築池地下式横穴墓が出土する古墳時代の墓域として知られている。十三東第2遺跡は都城市北都志和池地区のシラス台地標高155mほど、築池遺跡もシラス台地上ではあるが、十三東第2遺跡より一段低い標高140mほどに立地し、大淀川の氾濫源である東側水田面との比高差は約10mほどである。

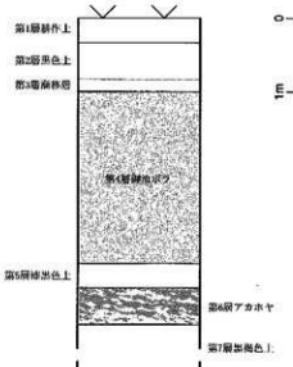
築池遺跡の主要な遺跡である築池地下式横穴墓群の発掘史をひも解くと、昭和初期に地下式出土と言わわれている陶質土器が発見保管されている。また、当地区における最初の発掘は昭和48年に行われて、続いて昭和52年、53年と各々1基ずつ調査が実施され、昭和52年には出土品の取上げを主とした緊急措置も行われている。その後、昭和59年、平成3年（1991）にそれぞれ1基発見調査されている。ここまでは、いわゆる農作業等により偶発的に発見されたものであるが、平成4年（1992）遺跡中央を走る県道山田・高城線の拡幅工事に伴う発掘調査において、20基の地下式横穴墓と2基の土壌が確認され始めて面的な調査が実施された。それから、平成6年（1基）、7年（4基）、9年（1基）、10年（1基）、11年（1基）、12年（1基）、15年（1基）と自然崩落により発見された地下式の調査が行われている。今回報告する築池遺跡は、農地保全整備事業に先立つ調査で、平成12年度から4ヶ年にわたり調査したもので、平成12年度1基、13年度9基、14年度8基、15年度2基が発見され、このほか、縄文後期末や弥生後期の堅穴住居跡等も検出した。また、十三東第2遺跡では縄文晚期を中心とした遺構・遺物が出土している。

次に、周辺の遺跡について紹介すると、松ヶ迫、屏風谷遺跡、下蘭遺跡、堂山遺跡等は縄文早期の遺跡で、松ヶ迫では連続土坑や集石造構、堂山遺跡では集石造構等が出土し、下蘭遺跡では手向山式の壺形土器が崖断面で採集されている。十三東第2遺跡（第2次調査）は縄文晚期を中心とした遺跡であるが、築池遺跡（第2次調査）でも後期末の堅穴住居跡が出土しており、同時期の遺跡は築池遺跡内に散発的に存在すると思われる。古墳時代の遺跡は、当遺跡の東南方向に平原地下式横穴墓群が発見調査（昭和44年）され、南西方向には山ノ田第1遺跡（第2次調査）で地下式横穴墓1基を含む古墳時代の住居跡が調査（平成6年）されている。このほか市外ではあるが、大淀川を挟んだ対岸の高城町には牧ノ原古墳群、やや北に位置する香桜寺遺跡、北には高崎町横尾・原村上・塚原地下式横穴墓群が対峙している。また、集落遺跡では、妙見原遺跡等が確認されている。

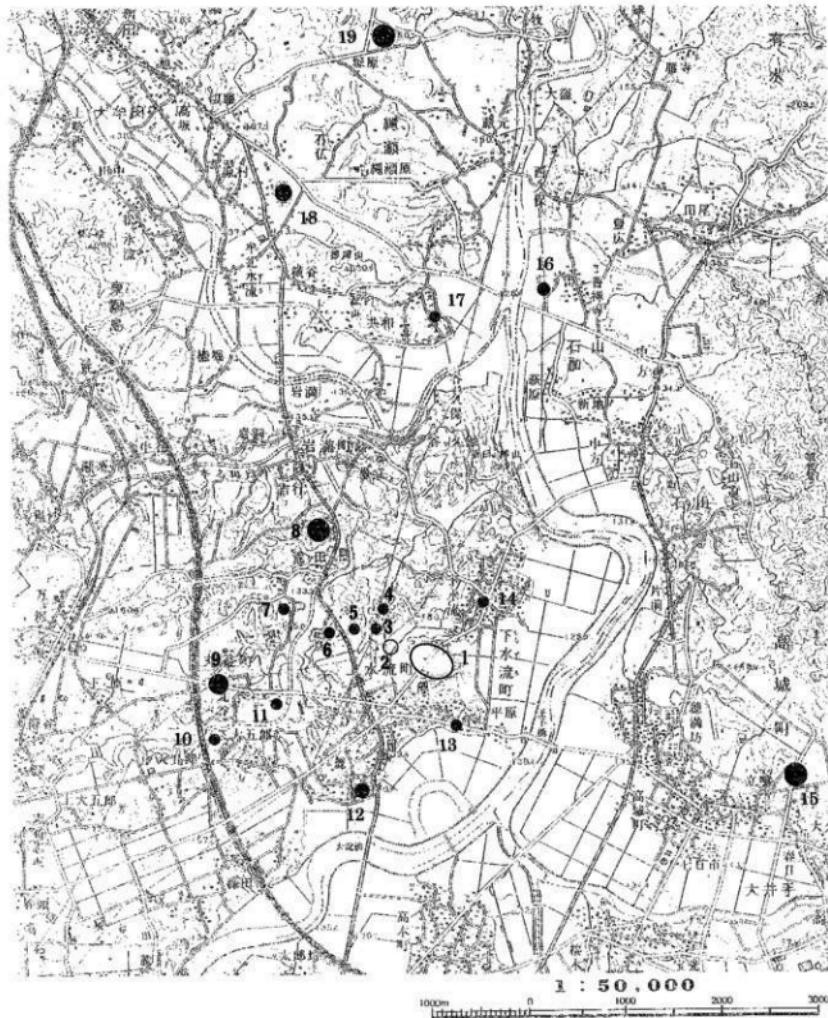
丸谷川流域においては、下大五郎、前畠遺跡等で弥生から古墳時代の集落を中心とした遺跡が出土している。

中世期では、志和池の名称が永楽4年（1432）の文書にみられ、連郭式山城の志和池城跡の一一部が市指定文化財として現在に姿を留めている。

築池遺跡の基本土層層序は、第1層耕作土、第2層黒色土、第3層漸移層、第4層御池ボラ層、第5層漆黒色土、第6層アカホヤ、第7層黒褐色土と続く。第2層が遺物包含層で、同下部ないし漸移層上位が遺構検出面である。また、地下式横穴墓の堅坑・玄室は第4層御池ボラ層内に完全に収まるかたちで構築されている。



第1図 築池遺跡土層柱状図



- 1 築池遺跡 2 十三東第2遺跡(第2次) 3 十三東第2遺跡(第1次) 4 松ヶ迫遺跡 5 屏風谷第1遺跡(第2次)  
 6 屏風谷第1遺跡(第1次) 7 下藪遺跡 8 堂山遺跡 9 山ノ田第1遺跡 10 下大五郎遺跡 11 前畠遺跡  
 12 志和池城(本丸)跡 13 平原地下式横穴墓群 14 妙見原遺跡 15 高城牧ノ原古墳群 16 香椎寺遺跡  
 17 横尾地下式横穴墓群(綱瀬地下式横穴墓群) 18 原村上地下式横穴墓群 19 高崎塚原地下式横穴墓群

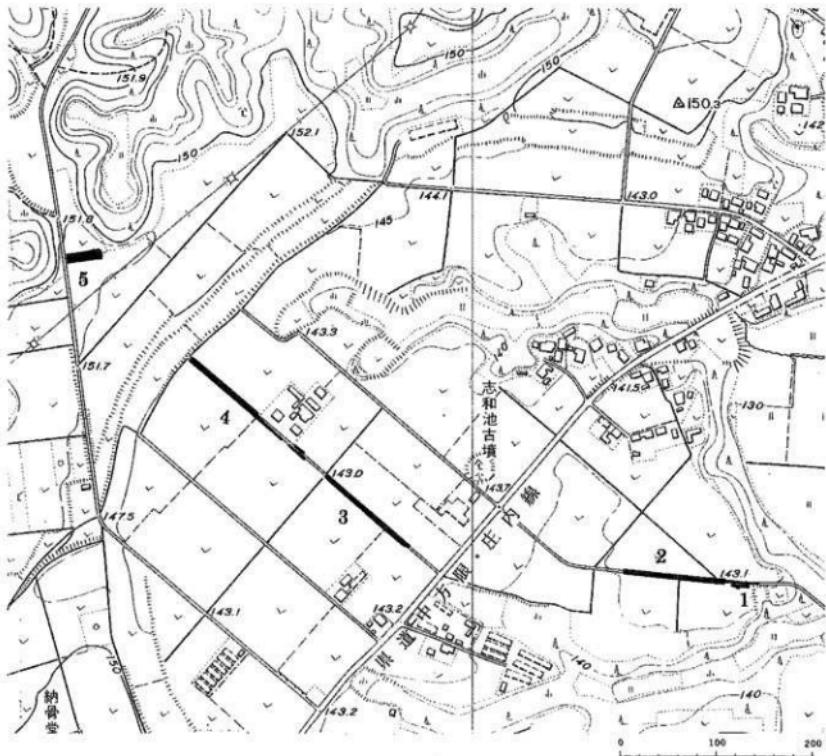
第2図 遺跡位置図

## II 調査の記録

### 1 調査の経過

4年間の調査を年次ごとに、平成12年度（第1次調査：Tk2000）、平成13年度（第2次調査：Tk2001）、平成14年度（第3次調査：Tk2002）、平成15年度（第4次調査：Tk2003）と整理する。また、本書掲載の地下式横穴墓は、暦年ごとに親番号を設け、そのなかで調査順に枝番号を付している。具体例を示すと、平成13年度においてTk2001-2号から番号を付している。欠番が生じているのは当調査以外で先に1号という調査例があることを意味している。また、Tk2003では1号と3号の2基が当事業で調査し、この1号と3号の調査間に1基別に調査している。

今回の調査では、竪穴住居跡4基、地下式横穴墓20基、周溝1条、土坑4基、溝状遺構5条、掘立柱建物跡等が出土している。以下、年度ごとにその報告を行いたい。



1 築池遺跡2000年調査区域(Tk2000) 2 築池遺跡2001年調査区域(Tk2001) 3 築池遺跡2002年調査区域(Tk2002)  
4 築池遺跡2003年調査区域(Tk2003) 5 十三東第2遺跡(第2次調査・F地点)

第3図 築池遺跡・十三東第2遺跡調査区域図

## 2 築池遺跡第1・2次調査 (Tk2000・Tk2001)

第1次と第2次調査の一部は面的なつながりがあるため、一括して報告する。

### (1) 繩文時代

#### 1号竪穴住居跡 (SA01) (第6・7図)

周溝の内区より出土。平面形態は東西方向がやや長い円形を呈し、長軸2.6m短軸2.4m検出面より深さ20cm弱を測る。柱穴は中央に一穴で浅い。埋土は暗黒色土（硬質・やや粘質）で遺構下部につれて黄ボラが多くなる。出土遺物は磨研の深鉢で、胴部で屈曲し口縁が外反気味に立ち上がるもの（3,5）とほぼ直線的に立ち上がるもの（1,2）がある。また、屈曲部に浅い沈線を施すもの（1,2）がある。底部（8）は上げ底気味である。

#### 1号土坑 (SC01) (第5図)

SA01の西側で、SA02に切られた形で出土。平面は略台形状を呈す。長辺1.6m短辺1.4m、深さはSA02床面より40cmを測る。埋土はSA01と同様で出土遺物なし。

### (2) 弥生時代

#### 2号竪穴住居跡 (SA02) (第8・9図)

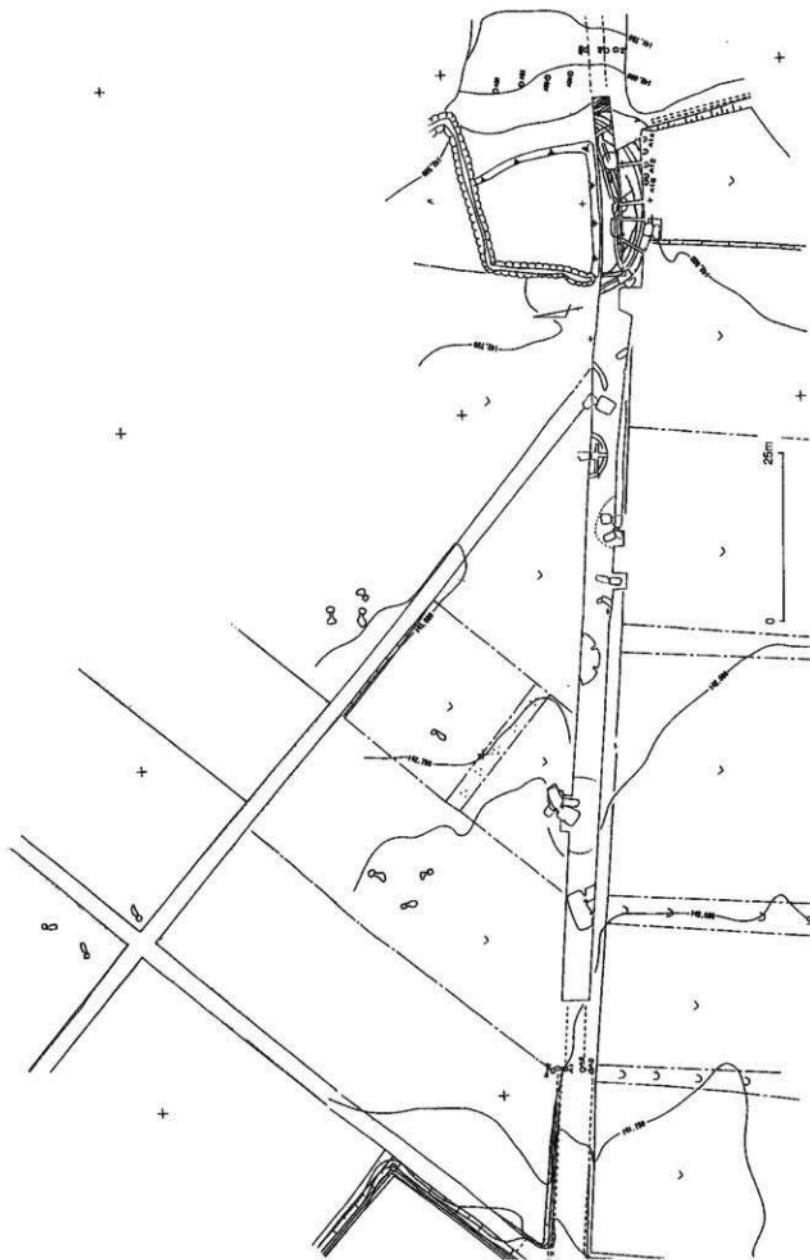
周溝に切られる形で出土。全容は把握できないが、推定8m前後の円形の花弁形住居跡である。床面は検出面より25cm下がる。埋土は第2層黒色土で全体に黄ボラを含む。柱穴は複数確認できたが、主柱穴は中央4穴と思われる（2穴のみ確認）。また、張出し部分の一部で壁帶溝が出土している。出土遺物は周溝に切られており、遺構内より出土した遺物は少ない。9, 10, 11, 13は壺形土器で、9は胴部が張らず縦線をもたず外反する。10, 11は口縁部がくの字に外反する。13は胴部片で胴部最大径がほぼ中央にある。12は高坏の脚部片である。14は磨製石器で先端が一部欠損している。石材は塙基性凝灰質頁岩で両面に擦痕がみられる。

#### 3号竪穴住居跡 (SA03) (第10・11図)

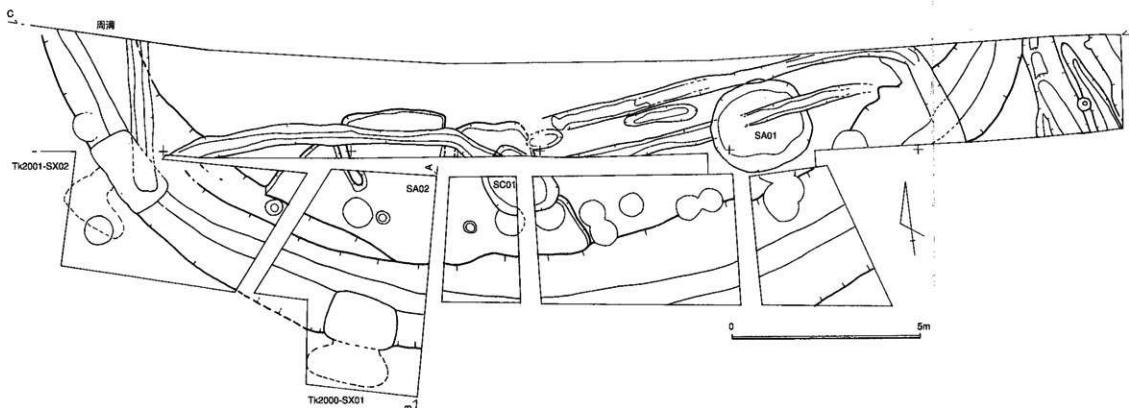
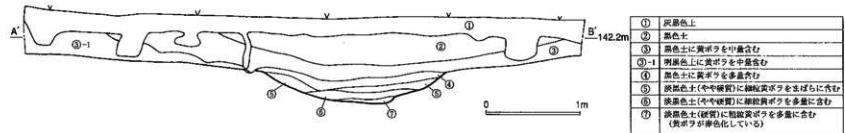
Tk2001調査区中央やや西側で出土。遺構は北側調査区外へ延びているため全掘していない。推定8m前後の円形の花弁形住居跡である。調査範囲内において3つの間仕切り壁をもつ。検出面から床面までは30cmほどである。埋土は第2層黒色土で全体に黄ボラを含む。主柱穴は1穴しか確認していないが、中央部分に小ピットが点在する。15は壺で推定口径22.6cm口縁部がくの字に折れやや外反気味に立ち上がる。16は壺で口径14cm外面縦方向のミガキ、内面工具ナデ頭部下指押さえが残る。17は鉢で推定口径13.7cm、口唇が微妙に肥厚する。18-21は底部で19は壺、ほかは壺の底部と思われる。22, 23複合口縁壺の口縁部と思われる。口縁に獣波状文を施す。

#### 4号竪穴住居跡 (SA04) (第12・13・14図)

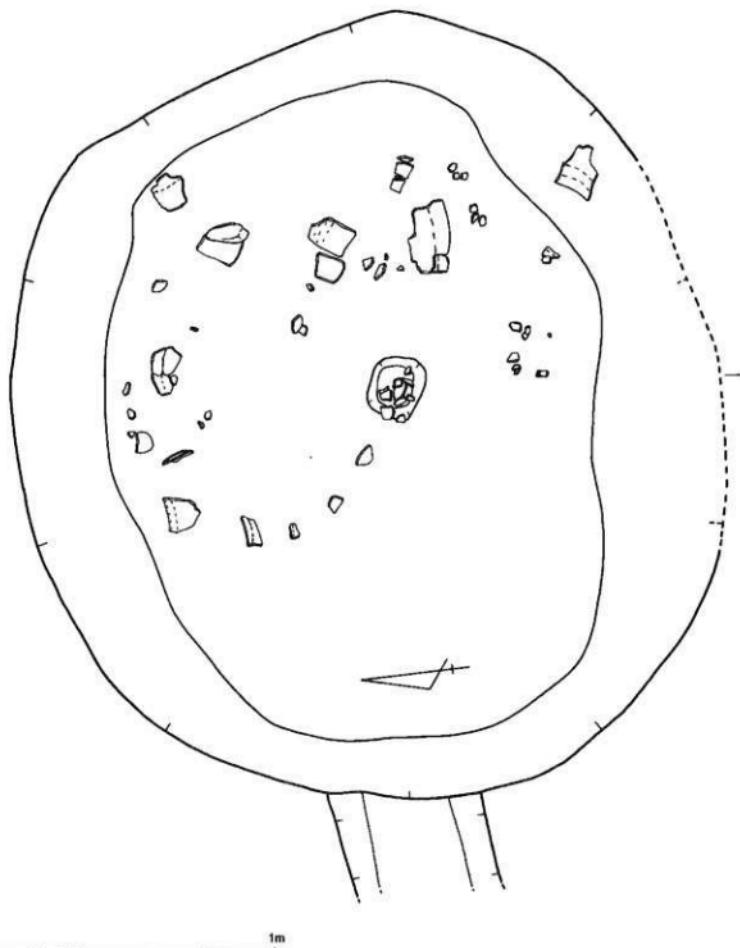
Tk2001調査区西側で出土。遺構は南側調査区外へ延びているため全掘していない。1辺5.4mほどの方形の竪穴住居跡で、間仕切り壁が2ヶ所あるH型の方形プランと思われる。主柱穴南側で方形に落ち込みがみられる。検出面から床面までは30cmほどで主柱穴は2穴である。埋土はSA02, 03同様第2層黒色土で全体に黄ボラを含む。出土遺物は壺形土器を主体にかなりの量である。壺は口縁がくの字に明瞭に折れるタイプ（24, 25, 28, 34, 38, 40, 41, 44）と屈曲するが緩慢な（縦線をもたない）タイプ（26, 27, 30, 33, 35, 65, 66）、そして若干折れるがそのまま直線的に立ち上がるもの（29, 32, 36, 39）に分類できる。何れも破片が多い。27は最大径が胴上部で屈曲部直下よりカキアゲ痕が残る。29は小型で口縁がわずかに折れる。31は小型で屈曲部から器壁が薄くなりやや外反気味に立ち上がる。32は口縁でわずかに屈曲する。屈曲部はハケメの際に工具を押し当て沈線状にしている。33は屈曲部で器壁をカキアゲ



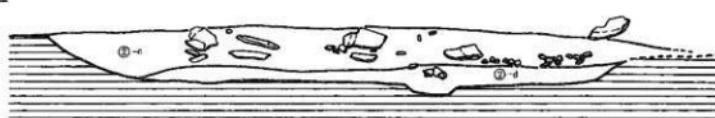
第4図 染池遺跡（第1・2次発掘調査）遺構分布図



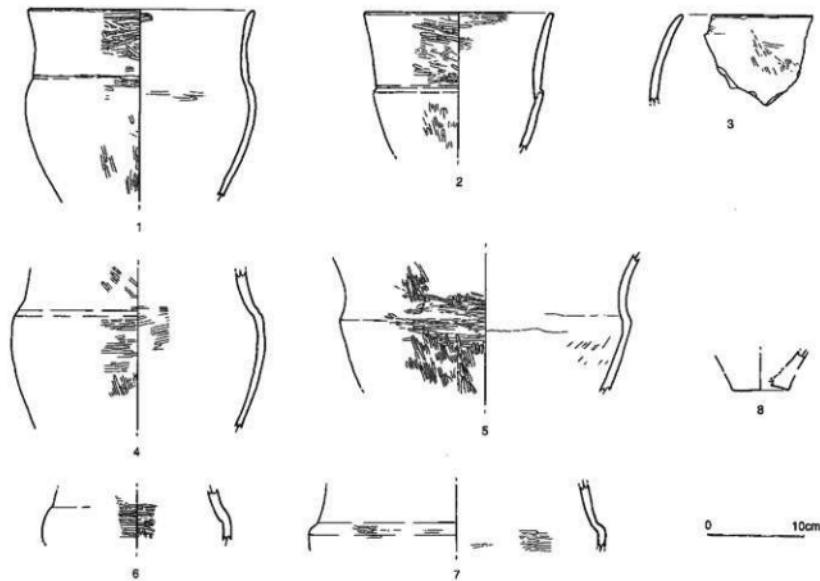
第5図 菜池遺跡第1・2次東側調査区域遺構配図



②-a	墨色土に1cm以下の大ボラを多く含む(硬質・やや粘質)
②-d	墨色土に1.5cm以下の大ボラを多く含む(硬質)



第6図 1号竪穴住居跡 (SA01)



第7図 1号竪穴住居跡 (SA01) 内出土遺物実測図

による段差が生じている。34は底部が小さくすわりが悪く、口縁が最大径で寸胴である。内底に工具による押さえ痕がある。35は小型の甕で口縁がわずかに曲がり立ち上がる。36は口縁下にヘラ状の刻目を施した貼り付け突帯をもちわざかに外へ開く。突帯下は縦方向のハケメ。39は口縁下にカキメが屈曲を意識するかのように沈線状をなしわざかに外開きする。40は口縁がくの字に外反し、屈曲部にカキアゲ痕がみられる。42, 43は鉢形有孔土器で、42は口縁2ヶ所に対峙するかたちで突起をもち突起下に穿孔をみられ、底部に単孔を施す。43は小型で口縁がやや外反すると思われる。底部に単孔あり。45は底部の大きさを推定すると鉢形有孔土器の可能性がある。48は甕の底部で上げ底である。55は甕の底部で器壁は厚くしっかりしている平底である。56は小型の甕の底部で上げ底をなし砂粒が多く粗い。57は小型の甕と思われるが不明である。66は唯一図面上完形で口縁は緩やかに屈曲し立ち上がる。胴部は長胴化し底部はやや上げ底である。67は器台で受部径20.0cm、脚部径20.3cmとほぼ等しく、器高20.0cmで上段3個下段3個の円形の透かしをもつ。68は大型の高壺で壺部はポール状、脚部は緩やかに裾が広がり、口径26.6cm、脚部径19.8cm、推定器高20.4cmを測る。胎土に砂粒を含むが焼成は良好で色調は他の土器と異なり暗茶褐色である。46, 47, 69は複合口縁壺で複合口縁に櫛描波状文を施す。

### (3) 古墳時代

#### 周溝（第5図）

第1・2次東側調査区、具体的には志和池5号墳隣地である。5号墳に帰属する周溝とそれに寄生する地下式横穴墓2基（Tk2000-SX01, Tk2001-SX02）が出土した。周溝は全体の1/3ほど調査を行い、結果周溝の走行から直径30mほどで、溝幅2~3m検出面から深さ0.3~0.4mを測る。周溝の埋土は第2層を基調として下部にいくほど黄ボラを多く含み、溝底は硬化している。東側周溝内溝底より20cm前後から口縁部と胴下部から底部が欠損した壺形土器（70）と壺の口縁（71）が出土している。

#### Tk2000-1号地下式横穴墓（Tk2000-SX01）（第16・17図）

東側調査区周溝内に豊坑をもち、玄室を周溝外部に築く。豊坑は周溝が20cmほど埋まつた段階で溝底と側面に掘り込まれている。豊坑の平面プランは横長で、羨門は黒色粘質土ブロックで閉塞され、羨道はほとんどなく玄室は両袖の平入りタイプである。人骨は頭位を東に向かた1体埋葬（仰臥伸展葬）である。赤色顔料が腰骨から大腿骨にかけて付着し、壮年前期の男性と所見がでている。玄室内奥壁より人骨に添うように東に鐵身を向け鐵鎌が7本出土している。72, 73は圭頭鎌、74, 75, 76, 77, 78は片刃の長頭鎌と思われる。

#### Tk2001-2号地下式横穴墓（Tk2001-SX02）（第18・19図）

Tk2001-SX02はTk2000-SX01の西に位置し、周溝内に豊坑をもち周溝外部に玄室を築く。Tk2000-SX01同様周溝に寄生している。平面プランは豊坑が横長、羨門は黒色粘質土ブロックで閉塞され、羨道は短く玄室は片袖の平入りタイプである。人骨は頭位を北西に向かた1体埋葬（仰臥伸展葬）で、所見では女性（年齢不明）である。出土遺物は人骨右手首付近から小玉が133個出土した。実測した小玉は素材から滑石製35個とガラス玉に分けられ、ガラス玉は色調からマリンブルー14、スカイブルー4、緑色67、黄色2、紫色1、濃紺10個で、内実測数は128個である。

#### Tk2001-3号地下式横穴墓（Tk2001-SX03）・1号溝状遺構（Tk2001-SD01）（第20~23図）

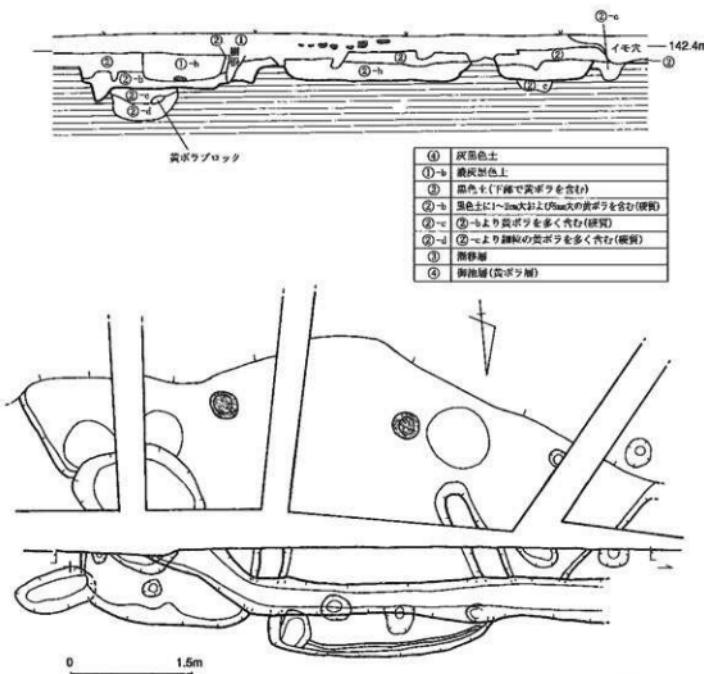
Tk2001-SX03は大型の地下式横穴墓で、北側土層断面図を観察すると左右に粗粒黄ボラ混じりの黒色土埋土が溝状の断面をもち、中央でやや高まりを呈する土層の延長線上に3号地下式横穴墓が位置している。1号溝状遺構は完掘していないが検出状況から豊坑部分が土橋状になりTk2001-SX03を廻る周溝状遺構ではないかと考えられる。1号溝状遺構は埋土が黄ボラと黒色土が同量ないし黄ボラのみで堆積し、溝幅0.8m、深さ0.2mほどを測る。溝端部で倒立した状態の高塙（207）が出土した。Tk2001-SX03は平面プランが玄室に対し縱長の豊坑（2.45×1.95×1.4m）で、羨道0.7m、玄室は片袖平入りタイプである。羨門は黒色粘質土ブロックによる閉塞である。人骨は頭位を東に向かう壁際に1体埋葬（仰臥伸展葬）され、所見では壮年女性との結果がでている。顔面に赤色顔料が残存している。出土遺物は玄室のみで直刀（208）1振、骨鎌（212, 213, 214, 215, 216, 217）6本、鐵鎌（209, 210, 211）3本、獸骨製の精びめ（218）？等が人骨左側に添うように副葬されていた。

#### Tk2001-4、7号地下式横穴墓（Tk2001-SX04, 07）（第27~29図）

Tk2001-SX06の西側に位置する。4, 7号地下式横穴墓の豊坑検出面より20cmほど上の黒色土層中で粗粒黄ボラが円形状に散在し中心部分がやや高まりを呈していた。それを掘下げていくと2基の豊坑を確認した。当時の掘り込みは黄ボラ堆積レベルと思われる。この粗粒黄ボラは自然堆積では存在せず、玄室・豊坑を掘った残土の一部で墓域の存在を表していると思われる。Tk2001-SX04は平面プランが縱長の豊坑で、羨道がほとんどなく玄室は両袖の平入り型である。羨門は黒色粘質土ブロックで閉塞され、玄室左奥壁で7号と玄室が一部切り合っている（築造当時は薄壁一枚存在していた可能性もある）。人骨は



第9図 2号竪穴住居跡 (SA02) 内出土遺物実測図



第8図 2号竪穴住居跡 (SA02) および土壙断面図

確認できなかったが、奥壁側に鉄錆（240、241）、堅坑上部で高坏片（237、238、239）が出土している。Tk2001 - SX07は堅坑の平面プランはほぼ正方形で、羨門閉塞黒色粘質土ブロック手前から完品の高坏（246、247）、マリ形土器（244）、鉢（245）がまとまって出土している。玄室は両袖の平入りタイプで人骨1体を確認した。玄室内からは刀子（242）、胸部付近から針状の鉄製品（243）が出土した。遺物の出土位置から複数埋葬の可能性がある。4号と7号では玄室の床面レベルで段差がある。2基の地下式は時期差がほとんどないと思われる。

#### Tk2001 - 5号地下式横穴墓（Tk2001 - SX05）（第30・31図）

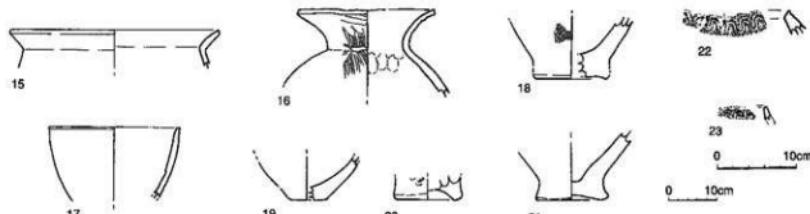
Tk2001 - SX04の西側に位置する。平面プランは堅坑が縦長、羨門黒色粘質土ブロック、羨道が短く、玄室は右に広がる片袖の妻入り型である。人骨1体を堅坑側に頭位に向かって確認した。所見では成年女性である。玄室内に刀子（250）が胸部付近、アカガイ製の貝輪（249）を入れたマリ形土器（248）がその傍から出土した。

#### Tk2001 - 6号地下式横穴墓（Tk2001 - SX06）・2号溝状構造（Tk2001 - SD02）（第24～26図）

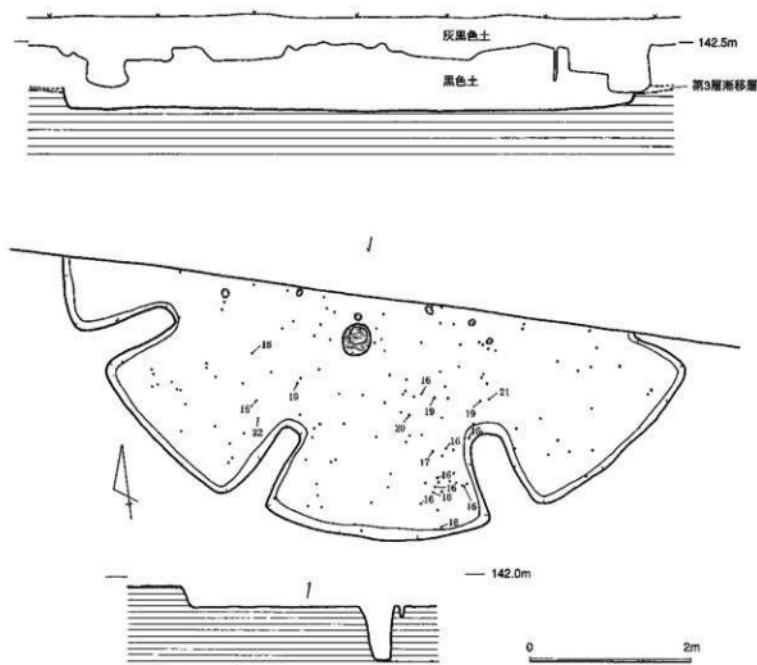
Tk2001 - SX03の西側に位置する。事前に地下レーダー探査をおこなっており、この成果により地下式の存在が予見できたため発見調査に至った。2号溝状構造は第2層黒色土埋土（黄ボラを含まない）の溝で検出面レベルにおいてほぼ溝底部分に近く辛うじて検出できた。検出面より溝底は深さ5cm程度である。北側土層断面で掘込み面を確認しようとしたが第2層と見極めがつかなかった。平面プランはTk2001 - SX06を中心に半円を描き、推定ではあるが周溝状に展開しSX06に付随するものと考える。Tk2001 - SX06は地下レーダー反応が明瞭であるため御池ボラ層にトレチを設け、調査区内に辛うじて玄室奥がかり調査できた。堅坑は完全に調査区外であったため未調査である。平面プランは堅坑からみて右に張出す片袖の妻入り型である。埋葬人骨は2体（仰臥伸展葬）で、片袖側に埋葬されている方を1号、もう一つを2号とした。両方とも頭位を堅坑方向（北）に向いている。妻入り型で複数埋葬は県の調査内容が不明であるが、管見の知る限りではこの築池では初見である。また、1号は女性（年齢不明）、2号は男性（年齢不明）との結果に加え、2号人骨は足根骨が両側脛骨の間に配置されており、足首を切断し移置したと考えられる所見がでている。遺物は1号に伴う鉄剣（236）、2号には鉄錆（長頸瓶）11本（219～229）、朱玉6個（230～235）が出土している。鉄剣は堀壁に沿って、鉄錆は奥壁側に、朱玉は人骨下半身を囲うように位置している。羨門閉塞は黒色粘質土ブロックである。

#### Tk2001 - 8, 9, 10号地下式横穴墓（Tk2001 - SX08, 09, 10）（第32～34図）

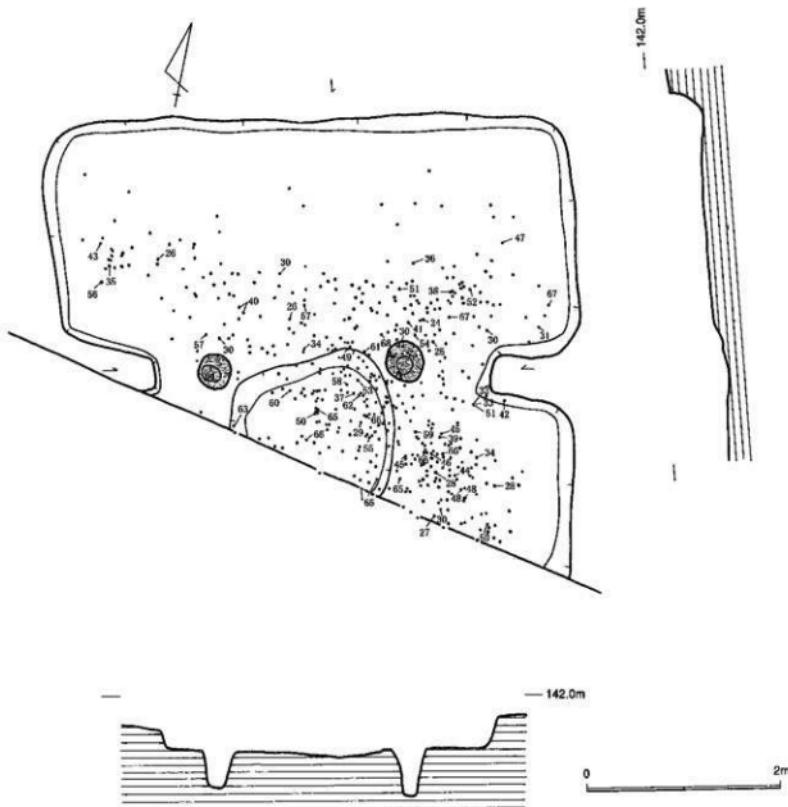
SA04の東側に位置する。Tk2001 - SX08, 09, 10号地下式横穴墓の堅坑検出前の状況は、Tk2001 - SX04、07地下式横穴墓同様第2層黒色土中に粗い黄ボラが一様に堆積し、5cmコンタの等高線では堅坑付近が中心におよそ12m幅で緩やかな高まりをみせる。塵（251、252）はこの粗粒ボラを含む黒色土下部、言い換えると8号の堅坑掘込み最上位で出土した。8号地下式の堅坑は縦長で、長辺推定2.9m短辺2.5m、検出面より深さ2.5mの大型である。9号地下式の堅坑は8号堅坑内にはいり込んでおり、そのプランは横長で堅坑西側上場と下場が一部確認できた。推定長辺（東西方向）2.4m、短辺（南北方向）1.5m、検出面より深さ2.1mほどを測る。10号地下式の堅坑は縦長で推定長辺1.5m、短辺1.2m、検出面より最深部1.3mほどである。堅坑は手前側部分（羨門に対する側）が緩やかに傾斜し、その手前壁面に黒色粘質土ブロックを積み重ねている。これらは羨門閉塞用ブロックを準備していたと思われるが、使用できなかつたため残ったと思われる。玄室については、8号が東側に広がる片袖の妻入り型（長辺3.3m、短辺1.7m）で、片袖側に入骨らしき有機質を確認した。9号は平入り型で長軸については不明（1.8m+@）、短軸（幅）は1.4mほどと推測される。8号との切り合い部分では20cmほどの段差がある。玄室より鉄剣1



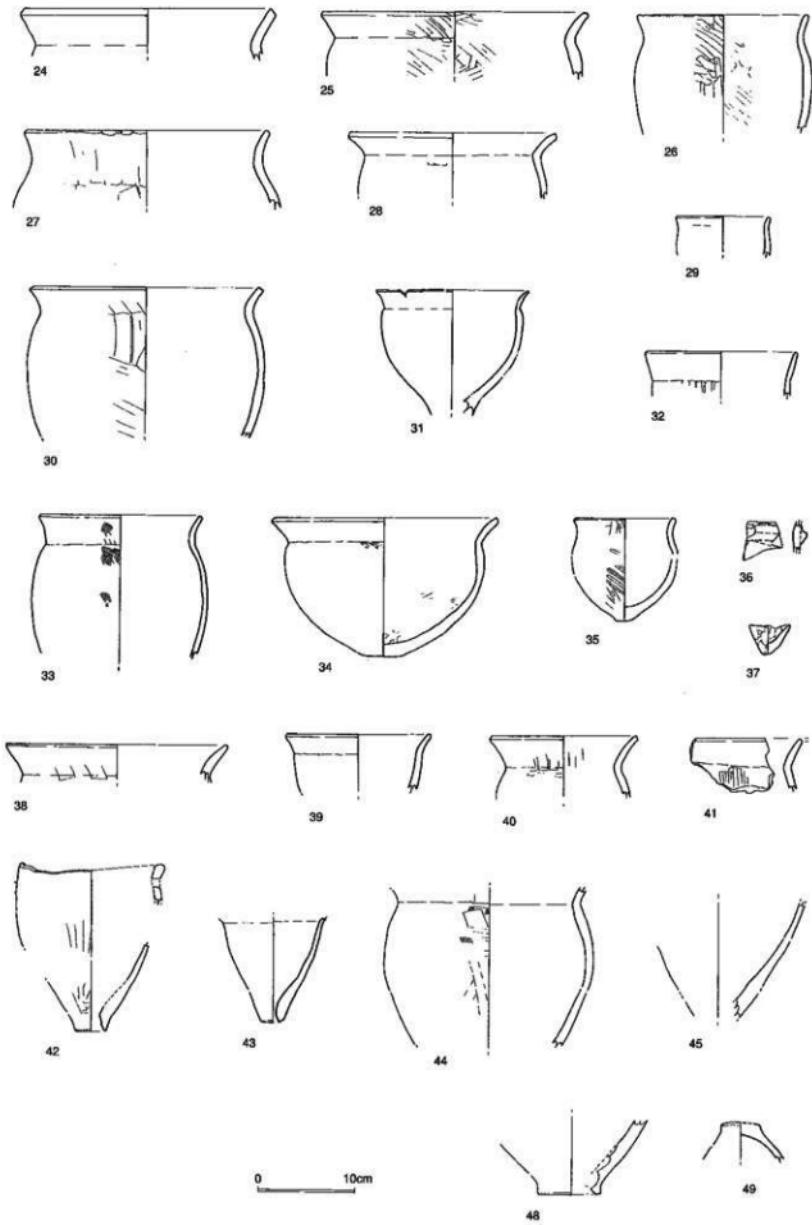
第11図 3号竪穴住居跡 (SA03) 内出土遺物実測図



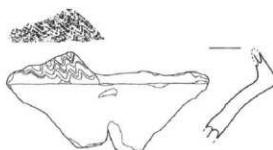
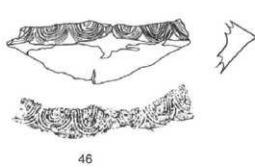
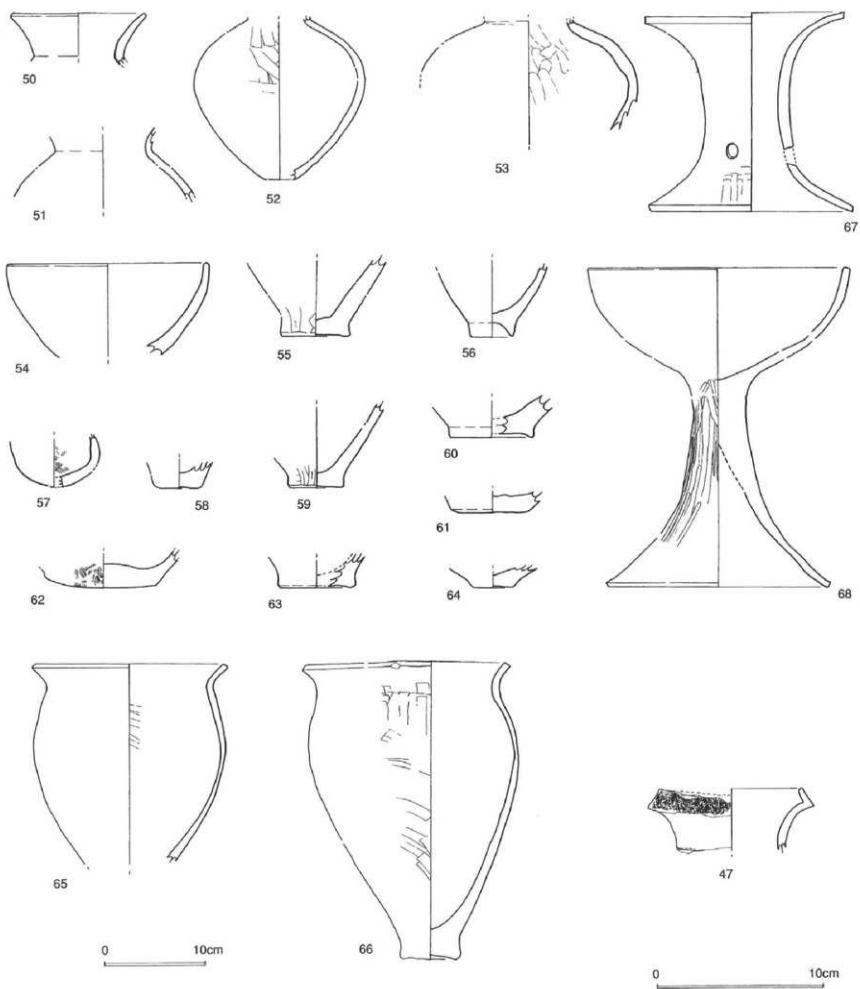
第10図 3号竪穴住居跡 (SA03)



第12図 4号豊穴井筒路 (SA04)



第13図 4号竪穴住居跡 (SA04) 内出土遺物実測図一



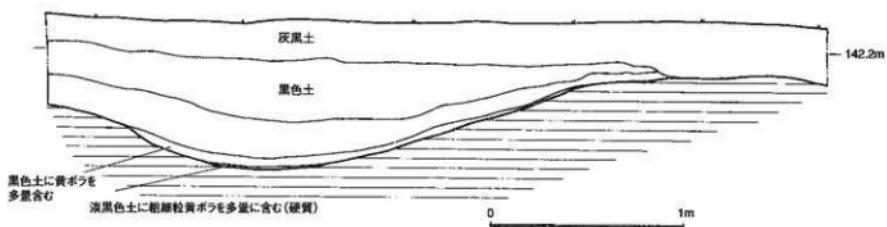
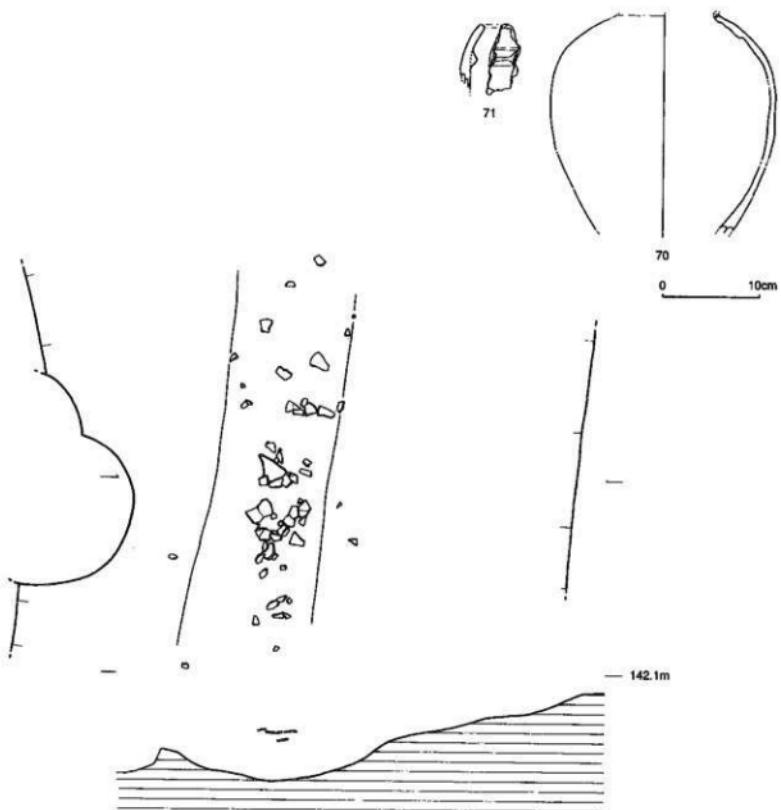
第14図 4号竪穴住居跡 (SA04) 内出土遺物実測図—2

掲載番号	遺物名	種別部位	法量(cm) ( )は推定			断面	調査等
			口径	底径	高さ		
1	SA01	漆器 口縁～胴部	24.0	—	—	5mm以下の砂粒を含む	外・丁寧なミガキ 内・横方向の細いミガキ
2	SA01	漆器 口縁～胴部	20.0	—	—	2mm以下の砂粒を含む	外・ミガキ 内・横方向の粗いミガキ
3	SA01	漆器 山縁部	—	—	—	4mm以下の砂粒を含む	外・ミガキ 内・粗いミガキ
4	SA01	漆器 脇部	—	—	—	4mm以下の砂粒を含む	外・ミガキ 内・ミガキ
5	SA01	漆器 脇部	—	—	—	4mm以下の砂粒を含む	外・丁寧なミガキ 罫上塗スッペイ 内・ナデ
6	SA01	漆器 脇部	—	—	—	1mm以下の砂粒を含む	外・丁寧なミガキ 罫上塗スッペイ 内・ミガキ
7	SA01	漆器 脇部	—	—	—	4mm以下の砂粒を含む	外・ミガキ 内・ミガキ
8	SA01	漆器 底部	—	6.0	—	2mm以下の砂粒を含む	
9	SA02	漆 口縁部	12.6	—	—	2mm以下の砂粒を含む	外・削めのハケメ
10	SA02	漆 口縁部	—	—	—	ごく微小の砂粒を含む	外・内・塵丸
11	SA02	漆 山縁部	15.6	—	—	4mm以下の砂粒を含む	外・内・ナデ
12	SA02	漆 脇部	—	—	—	4mm以下の砂粒を含む	外・ミガキ
13	SA02	漆 脇部	—	—	—	2mm以下の砂粒を含む	外・削めのハケメ
15	SA03	漆 口縁部	22.6	—	—	ごく微小の砂粒を含む	外・口縁側ナデ、胴部横方向の工具ナデ 内・ナデ
16	SA03	漆 口縁～胴部	14.0	—	—	4mm以下の砂粒を含む	外・縦方向の粗いハケメ 内・工具ナデ
17	SA03	漆 口縁～胴部	13.7	—	—	4mm以下の砂粒を含む	外・ナデ 内・ナデ
18	SA03	漆 底部	—	8.0	—	3mm以下の砂粒を含む	外・横方向のハケメ 内・ナデ 漆化物の付着あり
19	SA03	漆 底部	—	3.6	—	5mm以下の砂粒を含む	外・工具ナデ 内・工具ナデ
20	SA03	漆 底部	—	3.6	—	3mm以下の砂粒を含む	外・ハケメ
21	SA03	漆 底部	—	7.2	—	5mm以下の砂粒を含む	外・工具ナデ、内・ナデ 漆化物の付着あり
22	SA03	漆 斜合口縁	—	—	—		外・樹脂液状変
23	SA03	漆 斜合口縁	—	—	—	ごく微小の砂粒を含む	外・樹脂液状変
24	SA04	漆 口縁部	(26.6)	—	—	5mm以下の砂粒を含む	外・内・ナデ
25	SA04	漆 山縁部	(27.8)	—	—	5mm以下の砂粒を含む	外・内・削めの粗いハケメ、屈曲部カキアゲ状
26	SA04	漆 口縁～胴部	(18.0)	—	—	4mm以下の砂粒を含む	外・内・削めのハケメ、外ーススの付着あり
27	SA04	漆 口縁部	(25.6)	—	—	5mm以下の砂粒を含む	外・内・工具ナデ、屈曲部にカキアゲ痕が残る
28	SA04	漆 口縁部	(21.8)	—	—	4mm以下の砂粒を含む	外・粗曲彎下工具ナデ 白練工具によるおさ太痕あり
29	SA04	漆 口縁～胴部	(10.0)	—	—	3mm以下の砂粒を含む	外・内・ナデ
30	SA04	漆 山縁～胴部	(22.4)	—	—	2mm以下の砂粒を含む	外・ハケメ 漆化部に斜めに擦沈跡あり 内・ナデ
31	SA04	漆 口縁～胴部	(16.0)	—	—	4mm以下の砂粒を含む	外・内・ナデ
32	SA04	漆 口縁部	(16.0)	—	—	ごく微小の砂粒を含む	外・口縁ナデ 沈捺下ハケメ 内・横ナデ
33	SA04	漆 口縁～胴部	(17.0)	—	—	3mm以下の砂粒を含む	外・横方向のハケメ 内・ナデ
34	SA04	漆	(23.7)	4.0	14.4	3mm以下の砂粒を含む	外・ハケメ 内・ナデ
35	SA04	漆	(10.7)	2.0	(10.7)	3mm以上の砂粒を含む	外・ハケメ 内・ナデ
36	SA04	漆 脇部	—	—	—	3mm以下の砂粒を含む	白練下に貼り付け突巻3cm間隔で斜めに削目あり
37	SA04	ミニチュア土器	4.2	0.6	3.2	2mm以下の砂粒を含む	外・内・ナデ

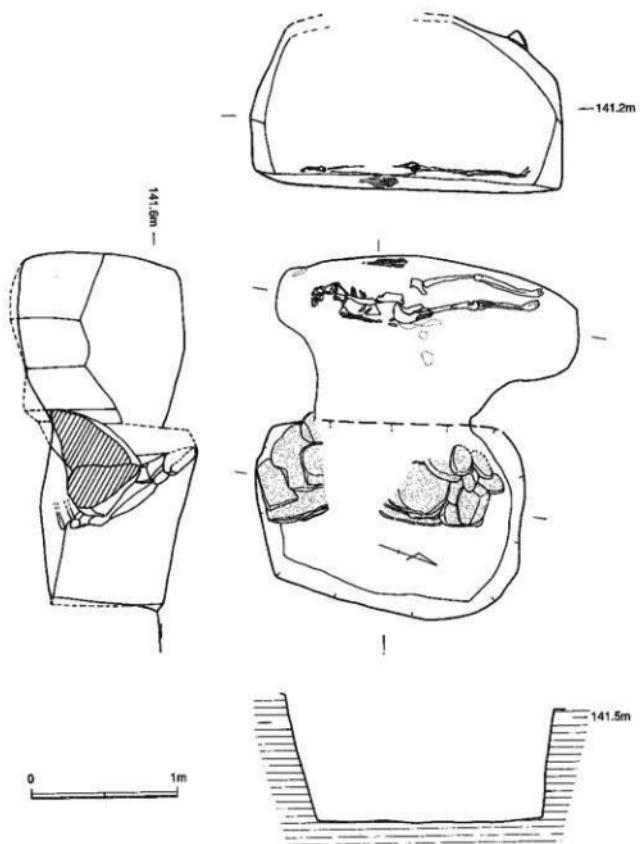
第1表 出土遺物観察表-1

掲載番号	遺物名	發掘部位	法量(cm) ( )は推定			胎土	調査等
			口径	底径	高さ		
38	SA01	壺 口縁部	(23.0)	—	—	4mm以下の砂粒を含む	外、内—ナダ 外器画スス付着
39	SA01	壺 口縁～胴部	(15.2)	—	—	4mm以下の砂粒を含む	外—胴部方向のミガキ 内—ナダ
40	SA04	壺 口縁～胴部	(15.6)	—	—	2mm以下の砂粒を含む	外—胴部ハケメ 脇部に工具によるカキアゲ痕
41	SA04	壺 口縁部	—	—	—	ごく微小の砂粒を含む	外—胴部ハケメ 脇部カイメ 口縁ナダ
42	SA04	鉢形有孔土器	(15.1)	(3.2)	(19.5)	4mm以下の砂粒を含む	外—ハケメ 内—茎ハケメ
43	SA01	鉢形有孔土器	—	(2.4)	—	2mm以下の砂粒を含む	外—ハケメのちナダ 内—ナダ
44	SA04	壺 脇部	—	—	—	3mm以下の砂粒を含む スス付着	外—縦、斜め方向のハケメ 脇曲部—根ハケメ 内—部ハケメ
45	SA04	壺or鉢形有孔土器	—	—	—	3mm以下の砂粒を含む	外—胴部下—茎ミガキ(岸丸大) 内—ハケメのちナダ
46	SA01	壺 縫合口縁	—	—	—	4mm以下の砂粒を含む	外—縫合口縁部に鉛によるコンパス文
47	SA04	壺 縫合口縁	(8.5)	—	—	ごく微小の砂粒を含む	外—ハケメのちナダ 縫合口縁部—縫接痕状文 内—ナダ
48	SA04	壺 底部	—	(6.6)	—	5mm以下の砂粒を含む	外—ハケメのちナダ 内—茎部または底託
49	SA04	壺	—	4.1	—	3mm以下の砂粒を含む	外—ナダ 内—ナダ 工具押しあて痕あり
50	SA04	壺 口縁	(13.6)	—	—	3mm以下の砂粒を含む	外、内—ナダ
51	SA01	壺 脇部	—	—	—	2mm以下の砂粒を含む	外、内—座持
52	SA04	壺 脇部	—	(2.6)	—	3mm以下の砂粒を含む	外—ハケメ 内—ハケメのらナダ 内外とも座持
53	SA04	壺 脇部	—	—	—	2mm以下の砂粒を含む	外—ハケメのち丁寧なナダ
54	SA04	浅鉢	(19.7)	—	—	5mm以下の砂粒を含む	輪積み痕あり 外、内—ナダ
55	SA04	壺 底部	—	(7.1)	—	5mm以下の砂粒を含む	外—縦方向の工具ナダ 内—ナダ
56	SA04	壺 底部	—	(4.0)	—	3mm以下の砂粒を多含む	外—ナダ 内—座持
57	SA04	小壺 ?	—	—	—	3mm以下の砂粒を含む	外—ナダ 内—ハケメ
58	SA04	壺 底部	—	3.8	—	3mm以下の砂粒を含む	外、内—ナダ
59	SA04	壺 底部	—	5.5	—	4mm以下の砂粒を含む	外—ハケメ内—炭化物付着
60	SA04	壺 底部	—	(8.2)	—	4mm以下の砂粒を含む	外、内—ナダ
61	SA04	壺 底部	—	6.2	—	5mm以下の砂粒を多含む	
62	SA04	壺 底部	—	11.1	—	4mm以下の砂粒を含む	外—ハケメ
63	SA04	壺 底部	—	(7.0)	—	4mm以下の砂粒を含む	外、内—ナダ
64	SA04	壺 底部	—	(3.8)	—	2mm以下の砂粒を含む	外—ナダ
65	SA04	壺	(19.5)	—	—	8mm以下の砂粒を含む	外—ハケメのちナダ 内—ナダ
66	SA04	壺	(20.8)	29.7	6.1	3mm以下の砂粒を含む	外—ハケメ、スス付着 内—ナダ
67	SA04	器台	20.0	20.0	20.3	4mm以下の砂粒を含む	外—全体に擦耗下部ハケメ 内—裏持
68	SA04	高環	(26.6)	(32.0)	(22.5)	3mm以下の砂粒を含む	外—环部ナダ、脚部ミガキ
69	SA04	壺 縫合口縁	—	—	—	ごく微小の砂粒を含む	外—ナダ 縫合口縁部—縫接痕状文 内—ナダ
70	周溝	壺 脇部	—	—	—	3mm以下の砂粒を含む	外—工具ナダ 内—ナダ
71	周溝	壺 口縁部	—	—	—	3mm以下の砂粒を含む	外—口縁下に貼付痕衝2cm測定でヘラによる剥突

第2表 出土遺物観察表-2



第15図 5号墳周溝内土器出土状況および上層断面図



第16図 Tk2000 - 1号地下式横穴墓 (Tk2000 - SX01)

振(261)、刀子1(259)、管玉1(260)、高坏4(255, 256, 257, 258)、壺1(253)、マリ形土器1(254)が出士している。10号の玄室は8号玄室の東側側壁が一部オーバーハング状にえぐれ、10号地下式の東側玄室の一部が残存し、平入り型と思われる。

9号同様切り合ひ部分は8号床面と30cmほど段差がある。10号地下式横穴墓は玄室まで造り終えたが、黒色粘質土ブロックの残存から玄室が崩落し放棄したと思われる。

その他の遺構 (第35図)

### 2号土坑 (Tk2001-SC02)

Tk2001-SX03の南東に位置する。長辺2.2m、短辺0.8m、検出面より深さ1.1mの隅丸方形である。埋土は黒色土を基調とし黄ボラが混じり粘質で硬化している。

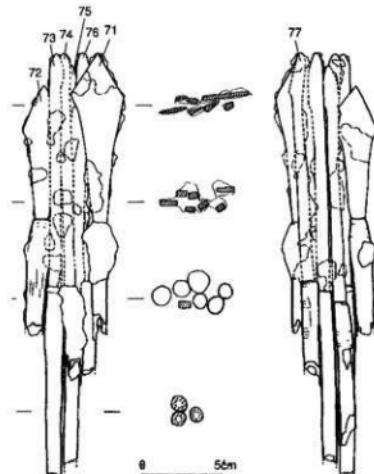
出土遺物はないが埋土から古墳時代の土塙墓の可能性がある。

### 3号溝状造構 (Tk2001-SD03)

Tk2001-SX05の西側に位置する。造構は南側調査区外に延びており全容は把握できなかった。全長1.8m(調査範囲)、最大幅1.0m、検出面より深さ1.15mを測る。北側溝先端で黒色土埋土の土坑と切り合っている。出土遺物なし。

中・近世～近代

5号墳に伴う周溝周辺から出土している溝は中世、近世および近代の所産である。



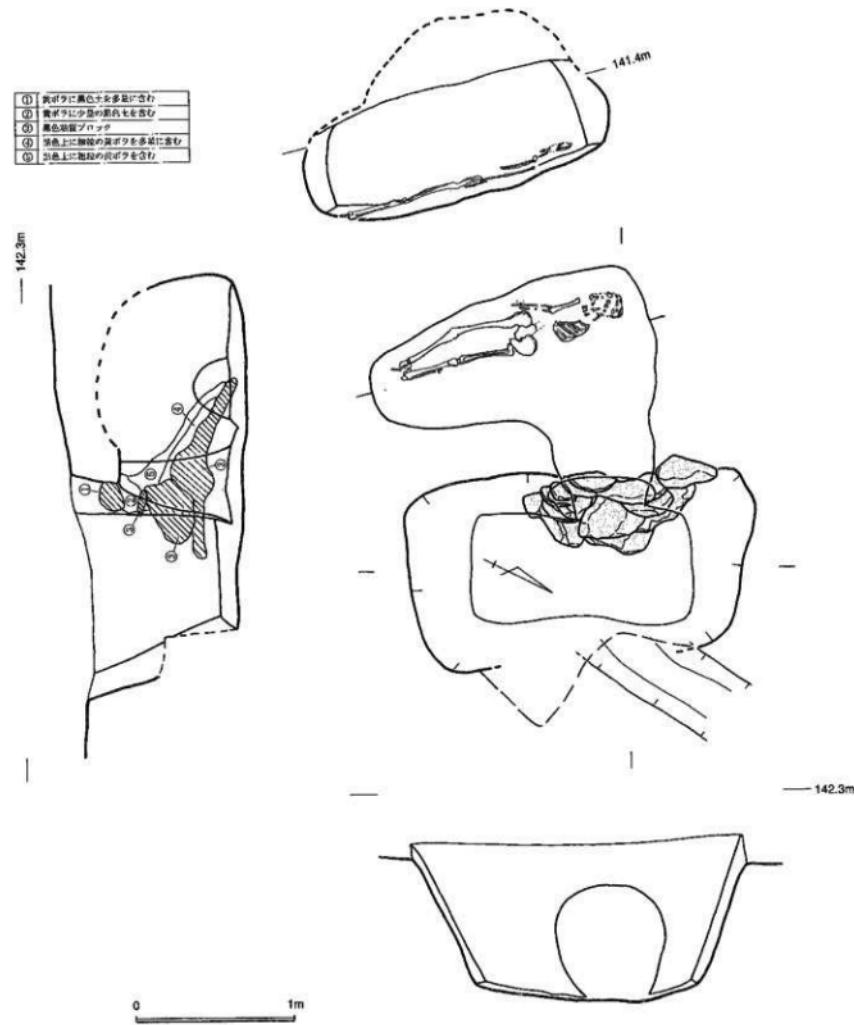
第17図 Tk2000-1号地下式横穴墓  
(Tk2000-SX01)内出土遺物

辨別番号	遺構名	種類	法量( )は推定			備考
			全長(m)	幅(m)	重量(g)	
72	Tk2000 SX01	鉄錠	10.5	3.3	—	圭頭錠
73	Tk2000 SX01	鉄錠	8.2	(3.1)	—	半頭錠
74	Tk2000 SX01	鉄錠	14.4	(0.9)	—	長頭錠
75	Tk2000 SX01	鉄錠	14.4	(0.9)	—	長頭錠
76	Tk2000 SX01	鉄錠	14.7	(1.0)	—	長頭錠
77	Tk2000 SX01	鉄錠	14.8	(1.0)	—	長頭錠
78	Tk2000 SX01	鉄錠	14.2	(1.0)	—	長頭錠
209	Tk2001 SX03	鉄錠	16.9	4.2	60.3	半頭錠
210	Tk2001 SX03	鉄錠	10.4	3.3	33.4	圭頭錠
211	Tk2001 SX03	鉄錠	13.2	1.2	20.3	長頭錠
212	Tk2001 SX03	骨錠	(11.0)	1.0	4.4	
213	Tk2001 SX03	骨錠	(11.8)	1.0	3.6	
214	Tk2001 SX03	骨錠	(10.3)	1.2	4.6	
215	Tk2001 SX03	骨錠	(9.0)	1.0	3.2	
216	Tk2001 SX03	骨錠	(8.5)	1.0	3.2	

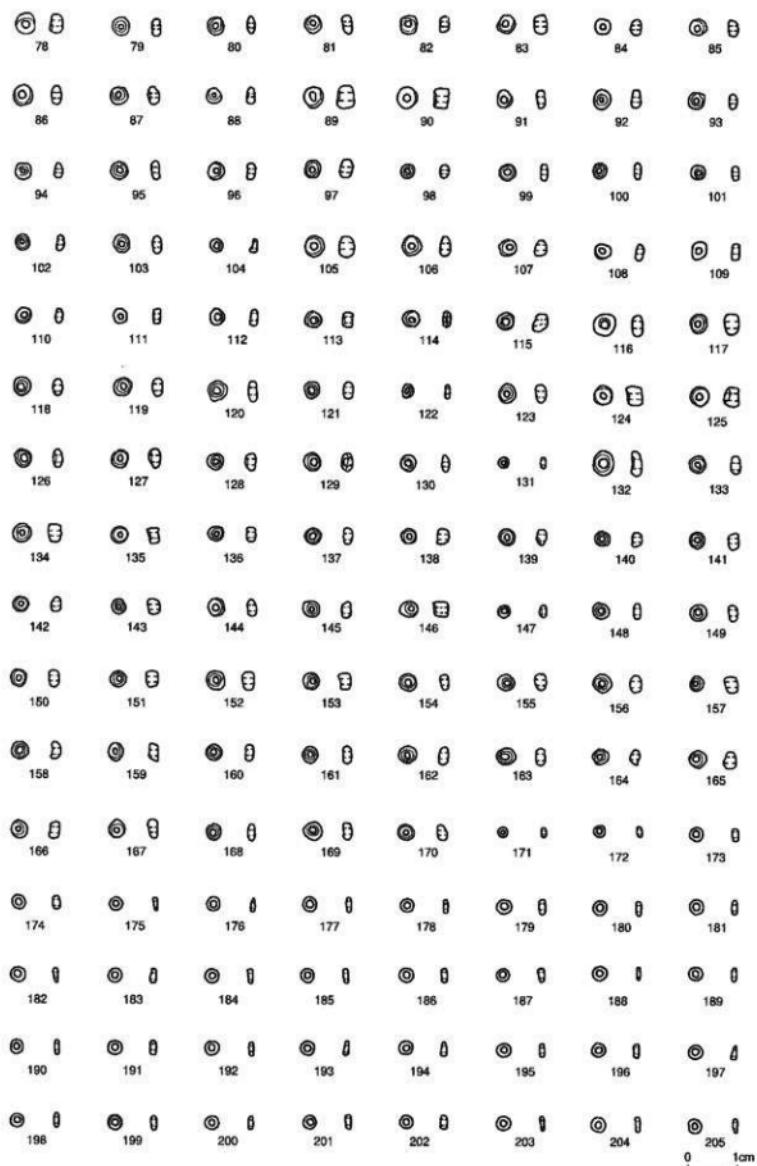
辨別番号	遺構名	種類	法量( )は推定			備考
			全長(m)	幅(m)	重量(g)	
217	Tk2001 SX03	骨錠	(4.3)	0.9	0.9	
219	Tk2001 SX06	鉄錠	—	—	—	長頭錠
220	Tk2001 SX06	鉄錠	10.9	(0.8)	—	長頭錠
221	Tk2001 SX06	鉄錠	—	—	—	長頭錠
222	Tk2001 SX06	鉄錠	(9.0)	0.9	—	長頭錠
223	Tk2001 SX06	鉄錠	11.0	(0.8)	15.5	長頭錠
224	Tk2001 SX06	鉄錠	—	—	13.7	長頭錠
225	Tk2001 SX06	鉄錠	11.0	(0.8)	14.6	長頭錠
226	Tk2001 SX06	鉄錠	10.8	(0.8)	11.9	長頭錠
227	Tk2001 SX06	鉄錠	12.0	(1.0)	13.4	長頭錠
228	Tk2001 SX06	鉄錠	—	(0.8)	8.5	長頭錠
229	Tk2001 SX06	鉄錠	—	(0.8)	6.2	長頭錠
240	Tk2001 SX04	鉄錠	20.4	2.6	34.1	圭頭錠
241	Tk2001 SX04	鉄錠	(8.9)	2.8	24.4	圭頭錠

第3表 出土遺物観察表-3

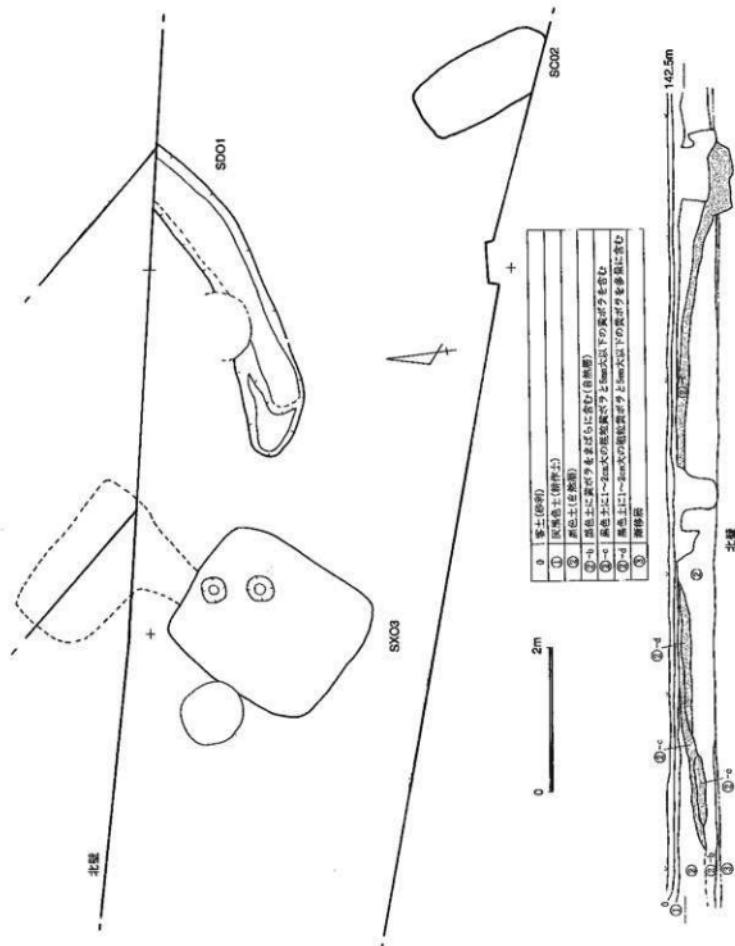
- |   |                  |
|---|------------------|
| ① | 黄ボラに黒色十字多量に含む    |
| ② | 黄ボラに少量の黒色を含む     |
| ③ | 黒色斑状ブタツ          |
| ④ | 黒色上に無数の黄ボラを多量に含む |
| ⑤ | 少島上に複数の白ボラを含む    |



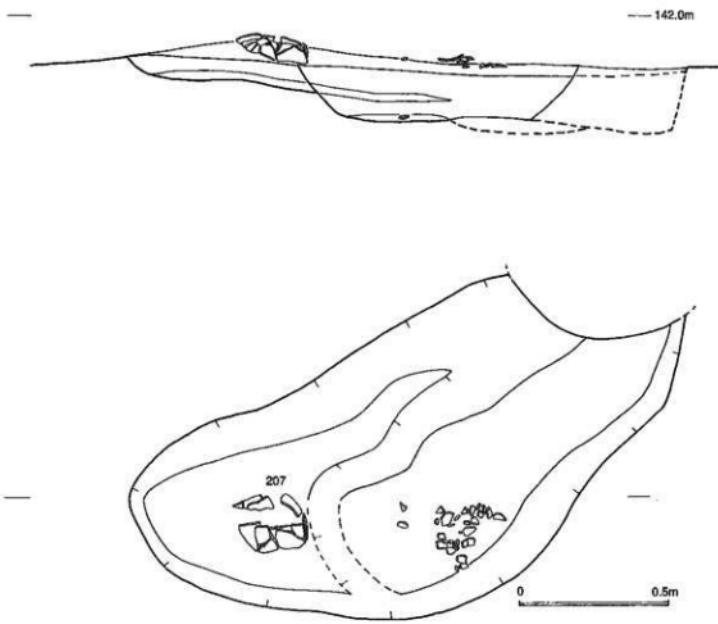
第18図 Tk2001・2号地下式横穴墓 (Tk2001・SX02)



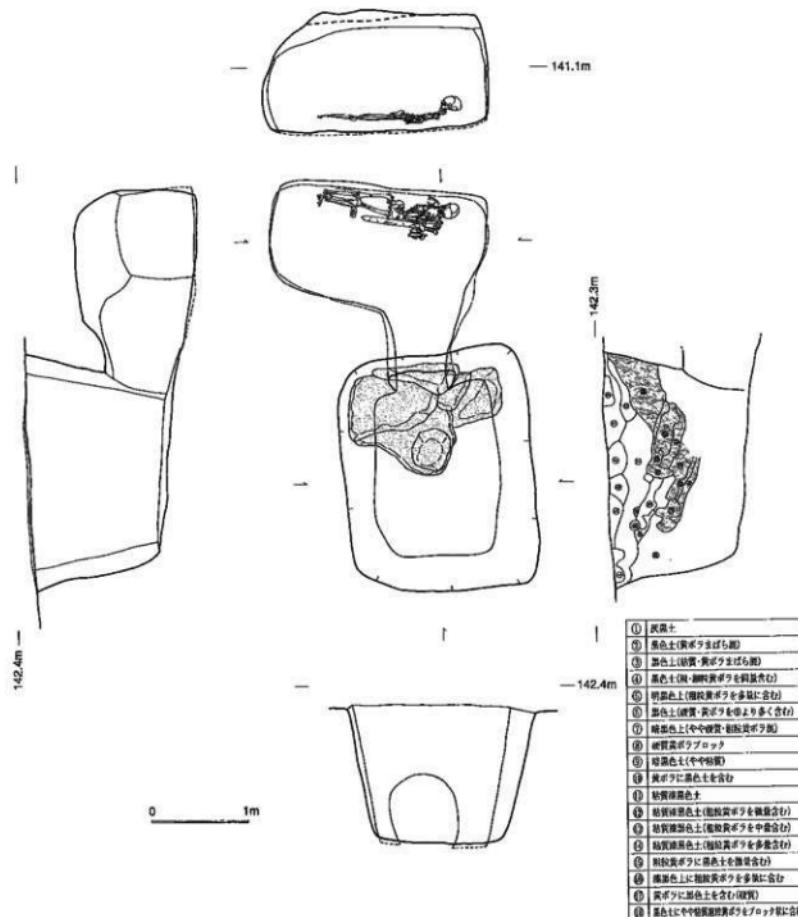
第19図 Tk2001-2号地下式横穴墓(Tk2001-SX02)内出土遺物



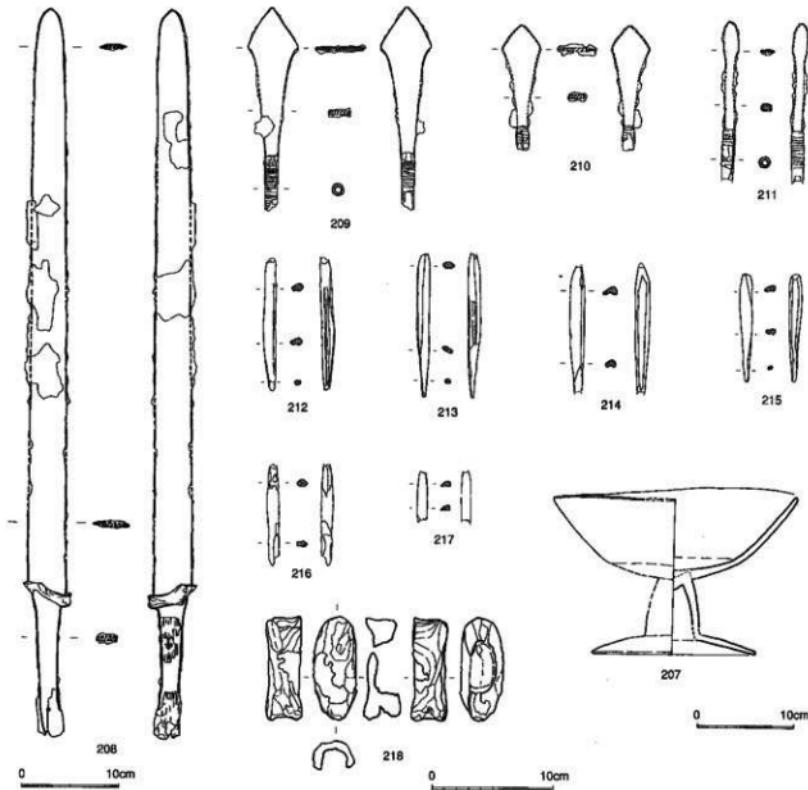
第20図 Tk2001-3号地下式横穴墓 (Tk2001-SX03)・1号溝状造構 (Tk2001-SD01)



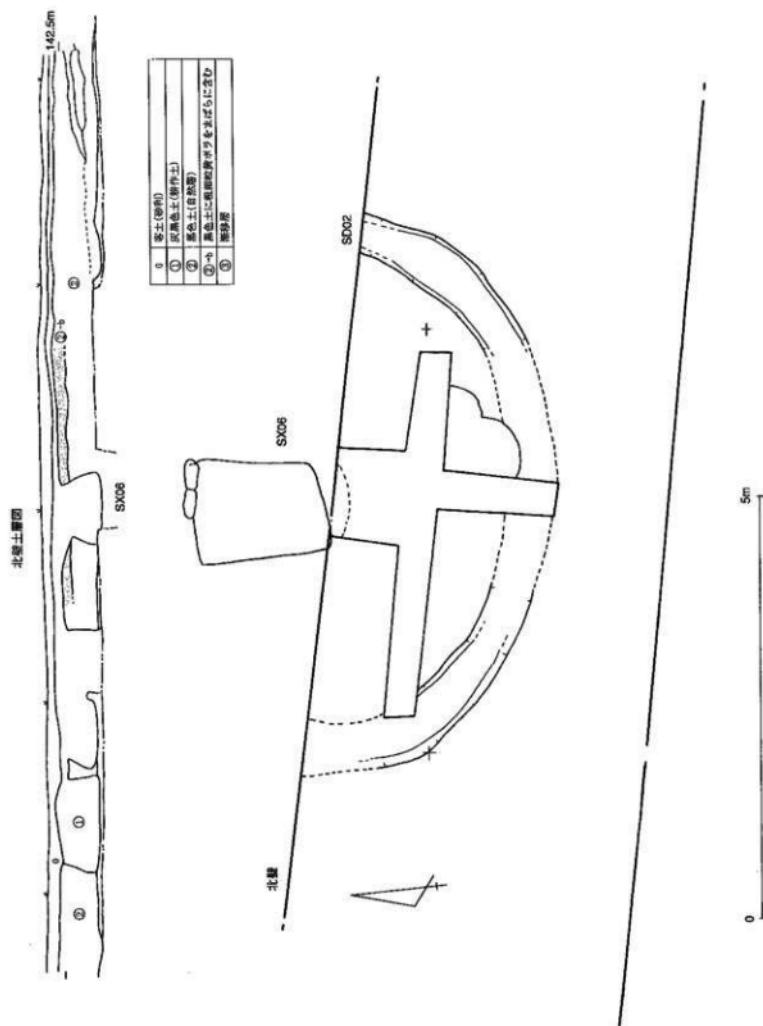
第21図 1号溝状遺構 (Tk2001 - SD01)



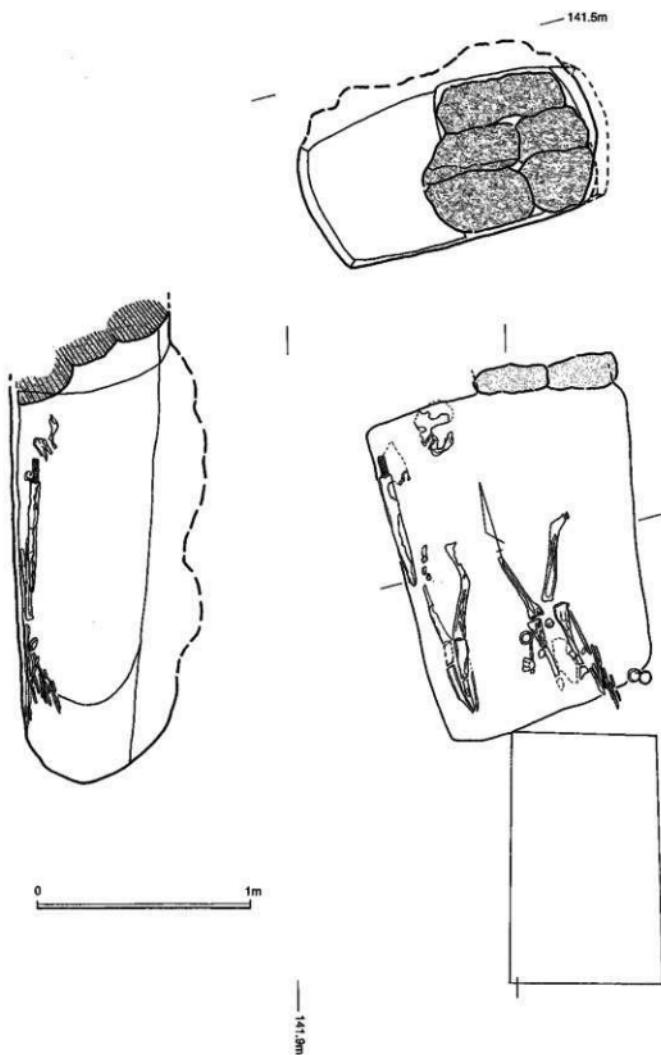
第22図 Tk2001-3号地下式横穴墓 (Tk2001-SX03)



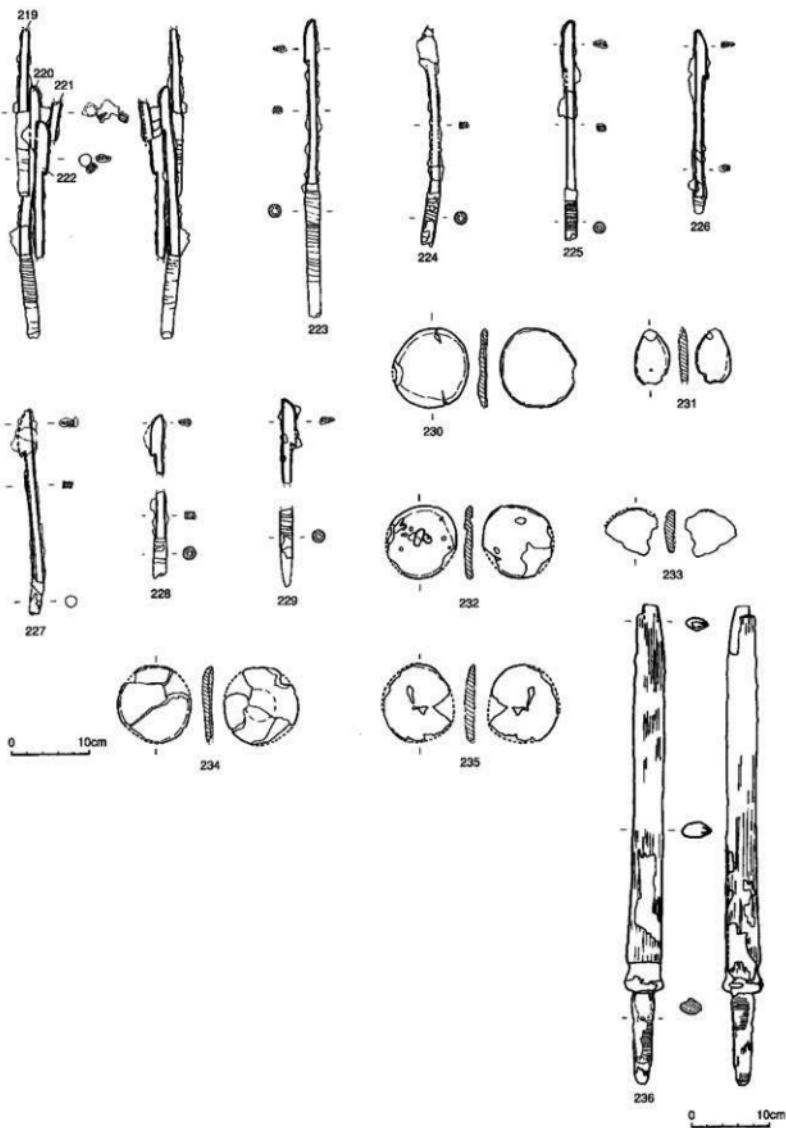
第23図 Tk2001-3号地下式横穴墓(Tk2001-SX03)・1号溝状遺構(Tk2001-SD01)内出土遺物実測図



第24図 Tk2001-6号地下式横穴墓(Tk2001-SX06)・2号溝状造構(Tk2001-SD02)



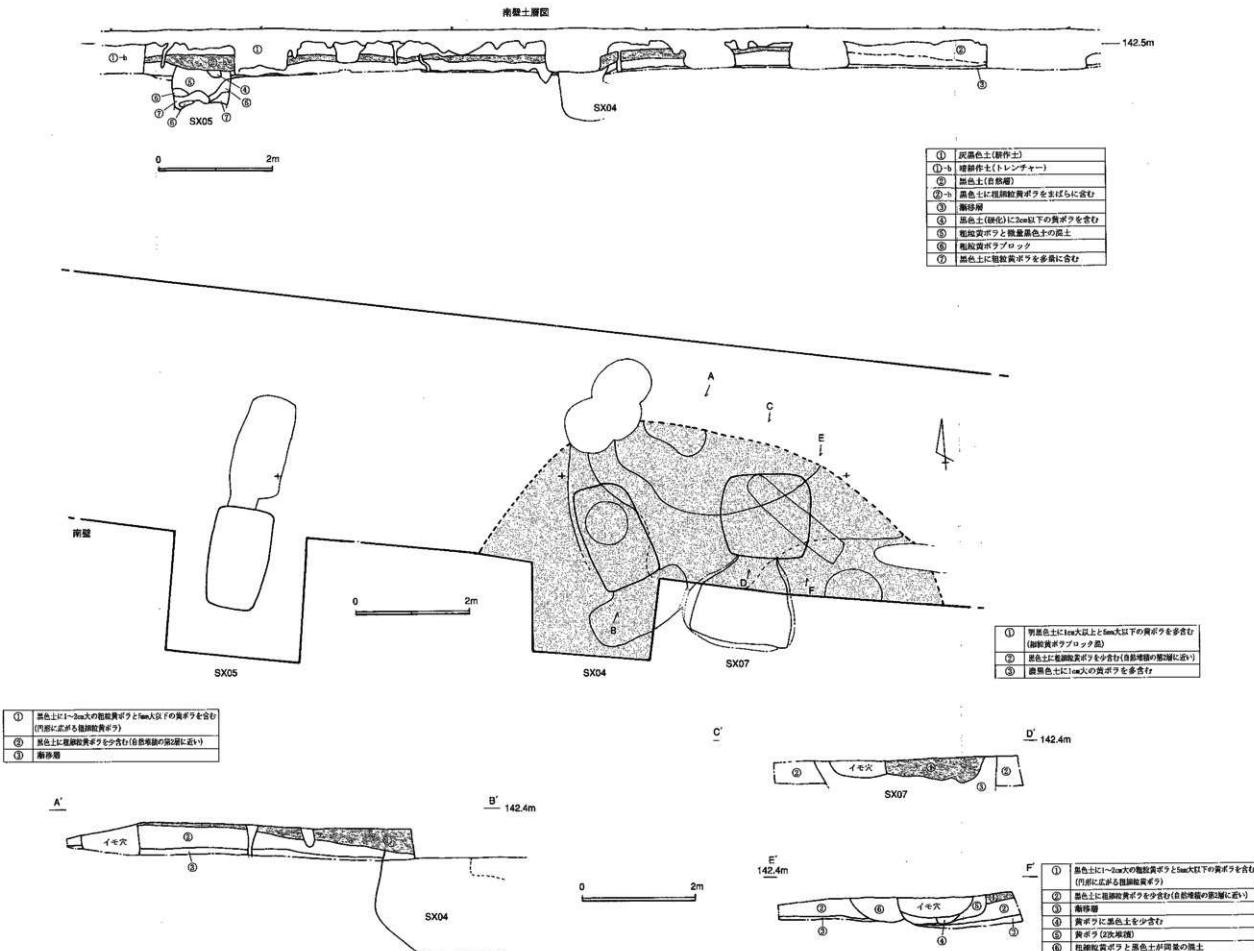
第25図 Tk2001-6号地下式横穴墓 (Tk2001-SX06)



第26図 Tk2001-6号地下式横穴墓(Tk2001-SX06)内出土遺物実測図

指標 番号	年 代 遺構名	種別部位	法 肋 (cm)			胎 上	調 整 等
			口 径	底 径	高 底		
207	Tk2001 SD01	高環 土師器	26.0	17.3	17.0	微小の砂粒を含む	外-ミガキ-部摩耗
237	Tk2001 SX04	高環 壁部 土師器	12.6	-	-	微小の砂粒を含む	外-ミガキ-部摩耗
238	Tk2001 SX04	高環 腹部 土師器	-	-	-	微小の砂粒を含む	外-ミガキ-部摩耗
239	Tk2001 SX04	高環 脚部 土師器	-	19.6	-	微小の砂粒を含む	外-ミガキ-部摩耗
244	Tk2001 SX07	マリ 土師器	12.7	3.5	7.7	4mm以下の砂粒を含む	外-ミガキ 内-ナデ 摩耗
245	Tk2001 SX07	鉢 土師器	14.5	5.9	10.2~ 10.7	微小の砂粒を含む	外、内-ナデ
246	Tk2001 SX07	高環 土師器	10.9~ 15.7	11.2	10.9~ 12.7	4mm以下の砂粒を含む	外-ヨコ方向のナデ 一部ヨコ方向のミガキ 内-ナデ
247	Tk2001 SX07	高環 土師器	16.8	10.4	14.6~ 15.1	4mm以下の砂粒を含む	外、内-ナデ
248	Tk2001 SX05	マリ 土師器	11.7	3.5	6.2	微小の砂粒を含む	外-ミガキ 内-ナデ
251	Tk2001 SX08	壺 須恵器	11.1	-	-		外-口縁、腹部擦接波状文
252	Tk2001 SX08	壺 土師器	7.0	3.0	9.8	2mm以下の砂粒を含む	外-口縁横ナデ 脊部ハケメのちナデ
253	Tk2001 SX09	壺 土師器	9.8	3.5	15.0	1mm以下の砂粒を含む	外、内-ナデ
254	Tk2001 SX09	マリ 土師器	11.8	2.2	7.3	微小の砂粒を含む	外-上部横ナデ 下部ミガキ 内-ハケメ
255	Tk2001 SX09	高環 土師器	18.7	13.0	14.6	微小の砂粒を含む	外 壱部-(上部)横ナデ(下部)ナデのちミガキ 脚部-ナデ 内-壹部 横ナデ ミガキ ナデ
256	Tk2001 SX09	高環 土師器	13.9	9.9	10.9	2mm以下の砂粒を含む	外 壱部-横ナデ 脚部-ナデのちミガキ 内 壱部-ナデ
257	Tk2001 SX09	高環 土師器	17.5	12.1	15.7	2mm以下の砂粒を含む	外、内-ナデ
258	Tk2001 SX09	高環 土師器	22.7	13.8	18.5	3mm以下の砂粒を含む	外、内-ナデ
262	Tk2002 SD01	壺 土師器	13.0	-	-	微小の砂粒を含む	外-ナデ 内-ナデ
263	Tk2002 SD01	壺 土師器	-	-	-	微小の砂粒を含む	外-ナデ摩耗 内-摩耗 丸底
264	Tk2002 SD01	壺 須恵器	-	-	-		外-格子目タタキ 内-同心円あて具痕
265	Tk2002 SD01	壺 須恵器	-	-	-	外観に2条の自然縫の流れ痕あり	外-格子目タタキ 内-同心円あて具痕
266	Tk2002 SD01	黄褐色台 須恵器	-	-	-		外-2段の輪構造状況、透かし
267	Tk2002 SD02	壺 土師器	16.5	-	-	3mm以下の砂粒を含む	外、内-ミガキ 丹塗り
268	Tk2002 SD02	壺 土師器	-	-	4.0	微小の砂粒を含む	外、内-ミガキ 丹塗り
269	Tk2002 SD02	壺 土師器	-	3.5	-	微小の砂粒を含む	外-横方向のミガキ 丹塗り
270	Tk2002 SX01	壺 土師器	12.4	-	-	4mm以下の砂粒を含む	外-ナデ-部摩耗 内-風化摩耗

第4表 出土遺物観察表-4

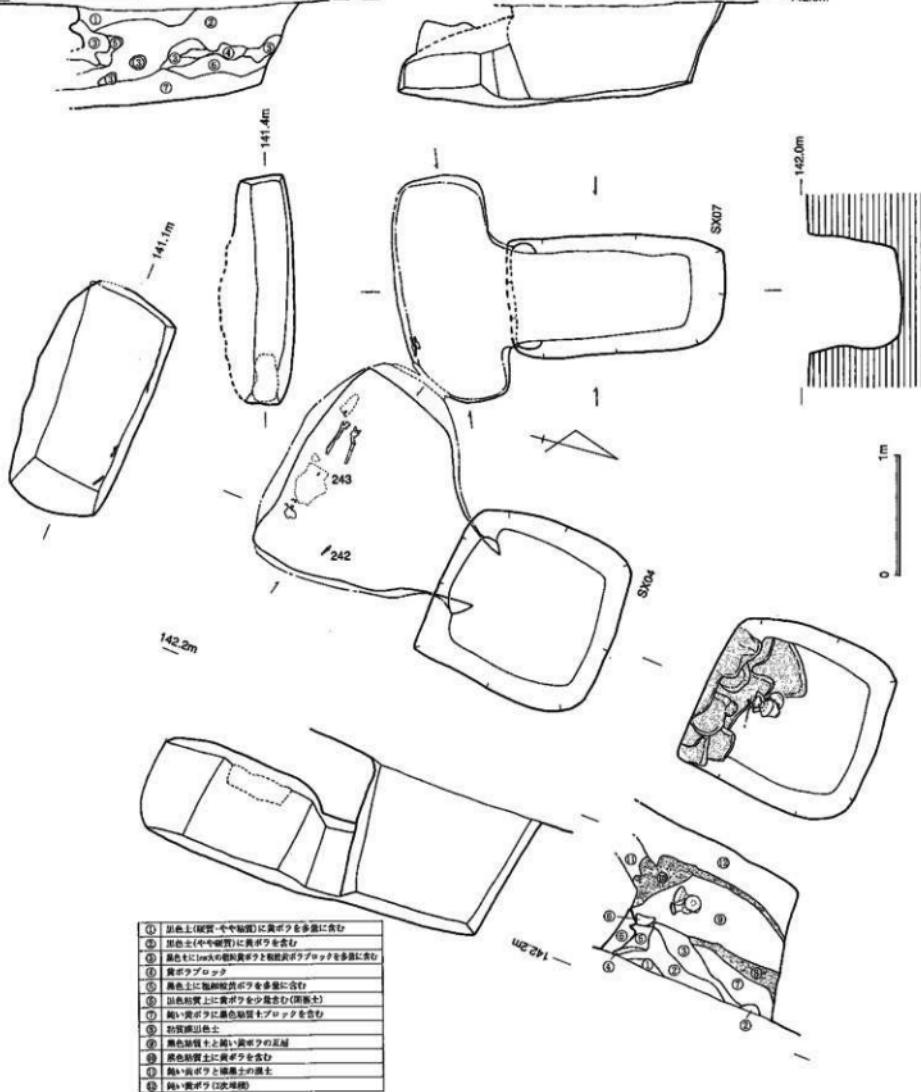


第27図 Tk2001・4, 7号地下式横穴墓 (Tk2001・SX04, 07) 配置図

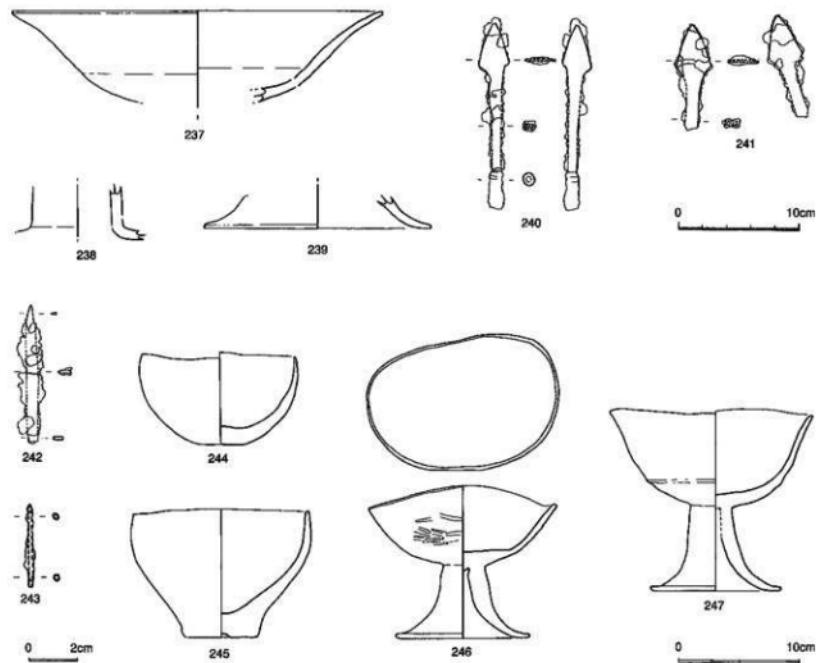
- ① 黒色土に1cm大の黄ボラを多く3cm大以下の細粒黄ボラを含む
- ② 黒色土に1cm大の黄ボラと3cm大以下の細粒黄ボラを多量含む
- ③ 暗褐色土(やや粘質)に1cm大以下の細粒黄ボラを多量含む
- ④ 細粒黄ボラに黑色土を含む
- ⑤ やや明褐色土(粘質)に黄ボラを③より多く含む
- ⑥ 黑色土(やや粘質)に細粒黄ボラブロックを含む
- ⑦ 黒い黄ボラ

142.0m

142.0m



第28図 Tk2001-4, 7号地下式横穴墓(Tk2001-SX04, 07)

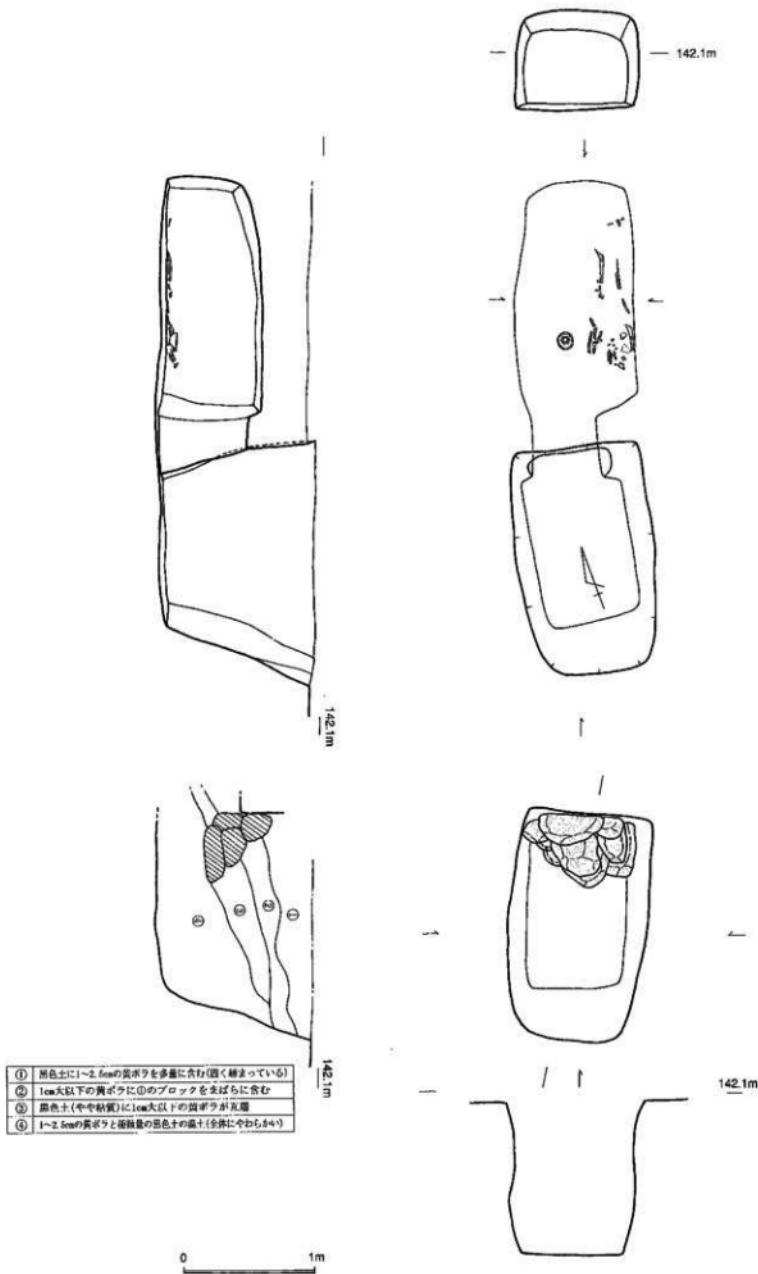


第29図 Tk2001-4, 7号地下式横穴墓 (Tk2001-SX04, 07) 内出土遺物

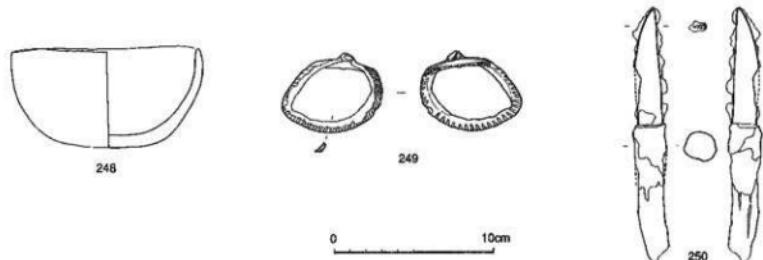
辨団 番号	遺構名	種類	法量( )は推定			備考
			全長(cm)	幅(cm)	重量(g)	
318	Tk2002 SX01	鉄錐	6.7	(3.0)	51.2	長三角形錐
319	Tk2002 SX05	鉄錐	10.0	2.0	27.2	柳葉錐
321	Tk2002 SX05	鉄錐	—	—	8.7	長頭錐?
345	Tk2002 SX06	鉄錐	5.3	2.4	13.0	方頭錐
346	Tk2002 SX06	鉄錐	5.2	2.9	11.2	方頭錐
347	Tk2002 SX06	鉄錐	6.5	2.4	14.9	三角形錐
348	Tk2002 SX06	鉄錐	6.5	1.5	8.0	三角形錐?
350	Tk2002 SX07	鉄錐	16.2	2.8	38.6	方頭錐
351	Tk2002 SX07	鉄錐	11.8	2.5	23.5	方頭錐
352	Tk2002 SX07	鉄錐	(7.7)	2.9	22.7	長三角形錐

辨団 番号	遺構名	種類	法量( )は推定			備考
			全長(cm)	幅(cm)	重量(g)	
353	Tk2002 SX07	鉄錐	11.5	0.9	20.4	長頭錐
354	Tk2002 SX07	鉄錐	—	0.9	9.5	長頭錐
355	Tk2002 SX07	鉄錐	11.0	1.0	25.6	長頭錐
356	Tk2002 SX07	鉄錐	11.0	0.9	23.4	長頭錐
357	Tk2002 SX07	鉄錐	7.2	0.7	4.5	長頭錐
358	Tk2002 SX07	鉄錐	11.3	0.9	25.0	長頭錐
359	Tk2002 SX07	鉄錐	11.0	0.9	21.2	長頭錐
365	Tk2002 SX08	鉄錐	8.7	4.6	46.6	無頭錐
366	Tk2002 SX08	鉄錐	9.6	0.9	13.7	長頭錐

第5表 出土遺物観察表-5



第30図 Tk2001-5号地下式横穴墓 (Tk2001-SX05)



第31図 Tk2001-5号地下式横穴墓 (Tk2001-SX05) 内出土遺物実測図

### 3 築池遺跡第3次調査 (Tk2002)

県道より西側部分120mほどを調査した。遺構は溝2条、地下式横穴墓8基、土坑2基、据立柱建物跡1軒が出土している。

#### (I) 古墳時代

##### Tk2002-1号溝 (Tk2002-SD01) (第37・38図)

北側調査区外から入り込み、くの字状に折れ南側調査区外へ延びる。溝底は屈曲部で段差（比高差0.2m）をもつ。溝幅2.0~1.8m、検出面より深さ0.6mないし0.3mを測る。埋土は黒色土（第2層）を基調に黄ボラとの互層や黒色土と黄ボラ混土等場所により異なり、溝幅を豊坑一辺とするTk2002-5号地下式横穴墓 (Tk2002-SX05) が寄生している。検出面付近で筒形器台（266）、須恵器胴部片（264、265）、楕円状（262）の土師器と小型の壺（263）が出土している。筒形器台は受部と脚部が欠損、受部直下の推定径は11cmほどで受部は短く外反すると思われる。現存では筒部に2条1単位の突帯が2段みられ、1段目には長方形透かし孔を2個、2段目には三角形透かし孔？を斜めに2個配置し、突帯間には櫛描波状文を施している。壺小片（265）は外器面に自然釉が重ねている。

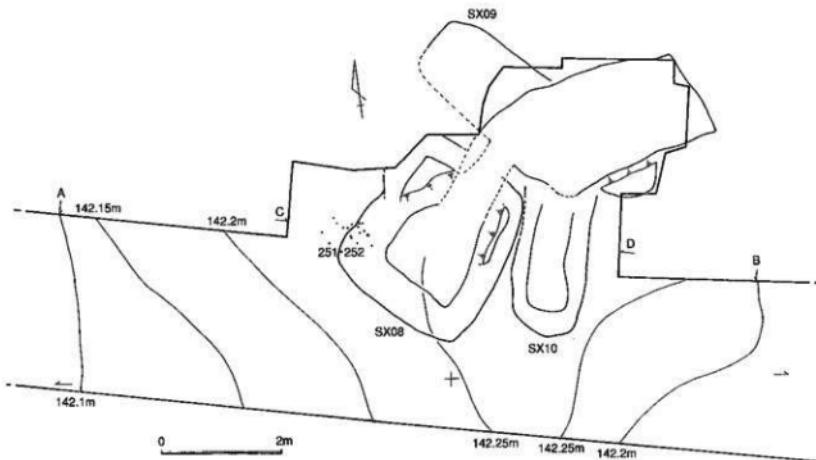
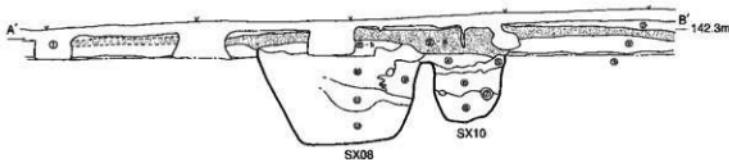
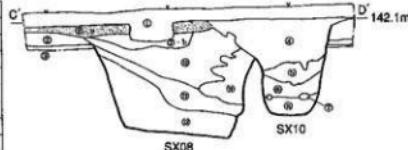
##### Tk2002-2号溝 (Tk2002-SD02) (第37・38図)

Tk2002-1号溝 (Tk2002-SD01) のおよそ12m西側に位置し、調査区域を緩やかにカーブしながら南側調査区外へと延びていく。溝幅2.0~1.8m、検出面より深さ0.6mを測る。溝内に豊坑をもつTk2002-1号地下式横穴墓 (Tk2002-SX01)、Tk2002-5号地下式横穴墓 (Tk2002-SX05) とTk2002-2号地下式横穴墓 (Tk2002-SX02) を確認した。埋土は1号溝と同様で、黒色土（第2層）を基調に黄ボラとの互層や黒色土と黄ボラ混土等場所により異なる。溝内より椀？（267）、壺？（268）、壺？（269）が出土している。SD01およびSD02は隣地に4号墳が存在するため周溝の可能性がある。

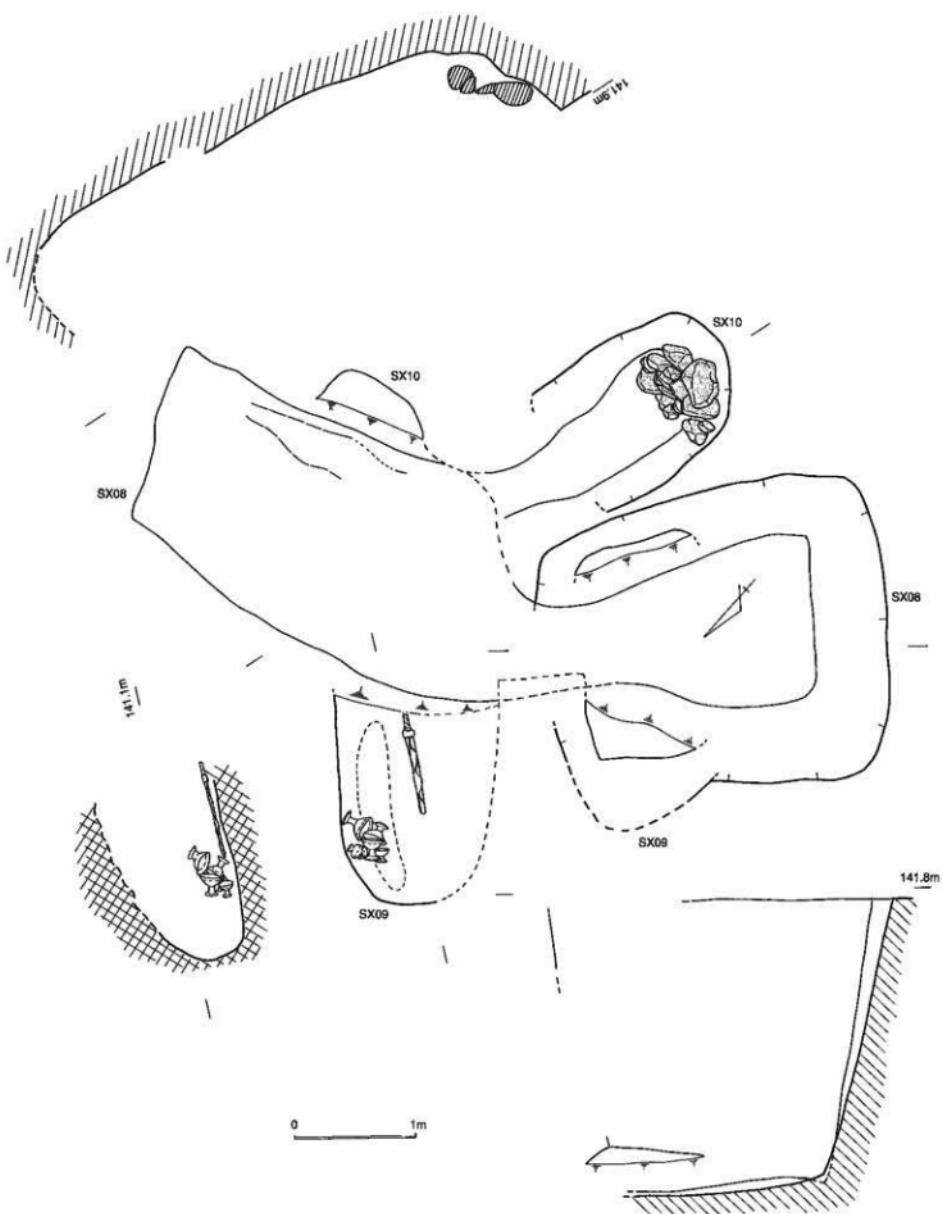
##### Tk2002-1号地下式横穴墓 (Tk2002-SX01) (第39・40図)

Tk2002-SD02の南壁側、豊坑西側ラインは2号溝内に納まっているが、豊門側の豊坑ラインは若干溝の上場を超えていている。豊坑はほぼ正方形（1辺1.4~1.5m）で溝底より深さ1.1m、東側に豊門をもち、玄室がやや左に曲がり左に片袖をもつ妻入り型の平面形態である。豊門は黒色粘質土ブロックによる閉塞で、豊門閉塞をはずすと後室・玄室部分に黒色土がおびただしく堆積していた。豊道と玄室の境付近から三角形鏡（318）1点、豊坑内より楕円（270）が出土している。

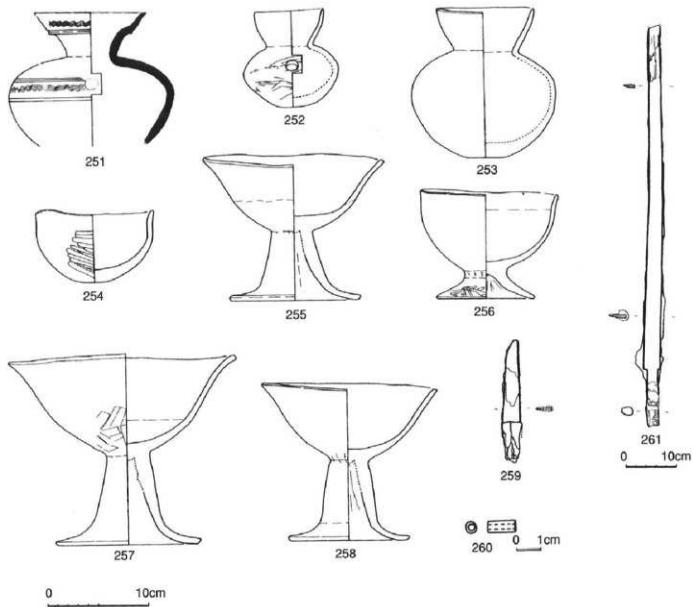
- ① 横作上 灰褐色土
- ② 黑色土
- ③ 黑色土に細粒黄ボラ多含む
- ④ 黑色土に粗粒黄ボラを含むより多く含む
- ⑤ 南移動
- ⑥ 灰褐色土(礫化)に粗粒黄ボラを多含む
- ⑦ 粗粒粗粒黄ボラブロック
- ⑧ 黑色土に粗粒黄ボラを含む(小黄ボラブロックあり)
- ⑨ 黄ボラブロック
- ⑩ 細質黑褐色土(黄ボラ層)
- ⑪ 黑色粗質土
- ⑫ 鮮い黄色粗粒粗粒ボラに黒色土を含む
- ⑬ 粗質黑色土に黄ボラをせんべんなく含む
- ⑭ やや明るい黄色粗粒粗粒ボラに黑色土を伴含む



第32図 Tk2001-8, 9, 10号地下式横穴墓 (Tk2001 - SX08, 09, 10) 配置図



第33図 Tk2001 - 8, 9, 10号地下式横穴墓 (Tk2001 - SX08, 09, 10)



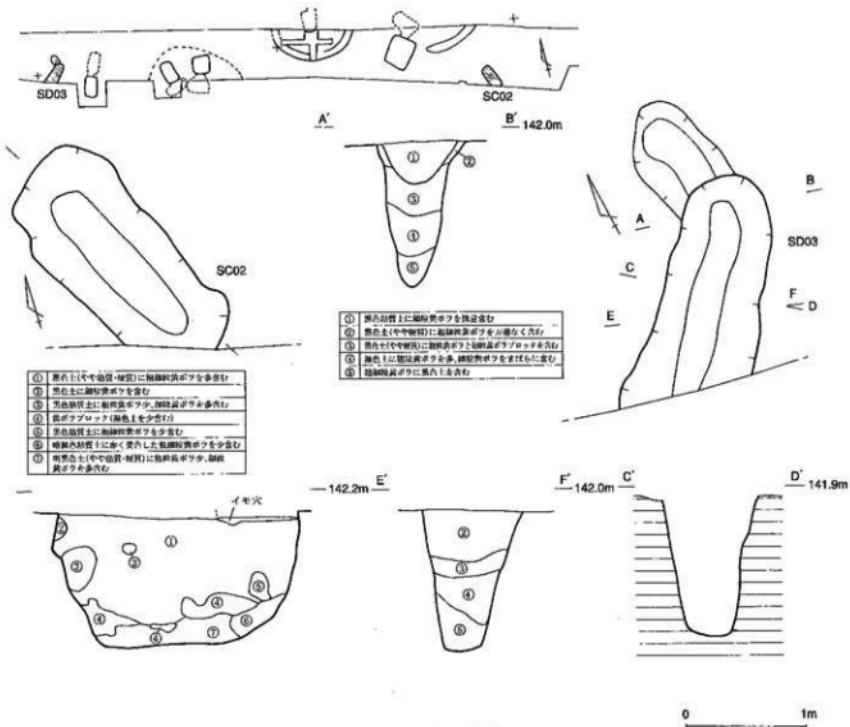
第34図 Tk2001-8, 9号地下式横穴墓 (Tk2001-SX08, 09) 内出土遺物実測図

插図 番号	遺構名	種類	法量( )は推定			備考
			全長(cm)	幅(cm)	重量(g)	
394	Tk2003 SX03	鉄錐	7.6	2.8	24.2	長三角形錐
395	Tk2003 SX03	鉄錐	7.0	2.6	23.1	長三角形錐
396	Tk2003 SX03	鉄錐	8.0	2.6	24.0	長三角形錐
397	Tk2003 SX03	鉄錐	12.4	2.6	23.6	長三角形錐
398	Tk2003 SX03	鉄錐	6.8	2.7	21.5	圭頭錐
399	Tk2003 SX03	鉄錐	5.5	(2.4)	14.8	圭頭錐
400	Tk2003 SX03	鉄錐	6.3	2.7	17.3	圭頭錐
401	Tk2003 SX03	鉄錐	6.8	2.6	18.4	圭頭錐

插図 番号	遺構名	種類	法量( )は推定			備考
			全長(cm)	幅(cm)	重量(g)	
402	Tk2003 SX03	鉄錐	6.4	2.5	14.0	圭頭錐
403	Tk2003 SX03	鉄錐	7.0	2.8	21.1	圭頭錐
404	Tk2003 SX03	鉄錐	6.7	2.7	19.3	圭頭錐
405	Tk2003 SX03	鉄錐	7.0	2.9	21.7	圭頭錐
406	Tk2003 SX03	鉄錐	7.0	2.4	19.0	圭頭錐
407	Tk2003 SX03	鉄錐	6.4	2.9	19.1	圭頭錐
408	Tk2003 SX03	鉄錐	7.5	2.4	23.4	圭頭錐
409	Tk2003 SX03	鉄錐	6.2	2.4	14.3	圭頭錐

第6表 出土遺物観察表-6



第35図 その他の遺構

環状の法縫は丸から口縫、底縫、器高とする

指 番 号	年度	遺構名	種別部位	法 縫(cm)			輪 上	調 整 等
				口 径	底 径	高 さ		
322	Tk2002	SX02	高杯 土師器	15.0	13.7	15.3	微小の砂粒を含む	外、内-ミガキ
323	Tk2002	SX02	壺 土師器	-	5.0	-	微小の砂粒を含む	外-ナデ崩れ 内-崩れ 手取り
325	Tk2002	提瓶 須恵器	6.5	-	-	-	-	外-口縫ナデ 剥離手持ちカキ目
326	Tk2002	环身 須恵器	11.8	14.0	-	-	-	外-上部ロクロナデ 下部ケズリ 内-ロクロナデ
327	Tk2002	环身 須恵器	12.0	14.1	4.2	-	-	外-上部ロクロナデ 下部ケズリ 内-ロクロナデ
328	Tk2002	环蓋 須恵器	14.5	-	3.6	-	-	外-ロクロナデ 上部ケズリ 内-ロクロナデ
329	Tk2002	环蓋 須恵器	14.1	-	-	-	-	外-ロクロナデ 上部ケズリ 内-ロクロナデ
330	Tk2002	环蓋 須恵器	14.0	-	-	-	-	外-ロクロナデ 上部ケズリ 内-ロクロナデ
331	Tk2002	环蓋 須恵器	13.6	-	(3.8)	-	-	外-ロクロナデ 上部ケズリ 内-ロクロナデ
332	Tk2002	环身 須恵器	14.0	12.4	4.0	微小の砂粒を含む	-	外-上部ロクロナデ 下部ケズリ 内-ロクロナデ
333	Tk2002	环身 土師器	13.0	15.0	4.1	3mm以下の砂粒を含む	-	外-ミガキ磨耗
334	Tk2002	壺 土師器	-	2.0	-	4mm以下の砂粒を含む	-	外-ミガキ?崩れ 内-ナデ
335	Tk2002	小型表 土師器	6.2	-	-	微小の砂粒を含む	-	外-磨耗 地上崩れ
336	Tk2002	碗 土師器	13.6	-	-	3mm以下の砂粒を含む	-	外-ミガキ 内-工具ナデ

第7表 出土遺物観察表-7

#### Tk2002 - 5号地下式横穴墓（Tk2002 - SX05）（第39・40図）

Tk2002 - SX01の北側に位置する。Tk2002 - 1号土坑（Tk2002 - SC01）に地下式の中心付近が破壊を受けている。竪坑は溝幅に納まりほぼ正方形（1辺1.6m前後）で溝底より深さ0.9mを測る。東側壁面に羨門をもち羨道は短く、両袖に広がる平入り型のプランである。羨門は黒色粘質土ブロックによる閉塞である。SC01の影響により天井部分が崩落し、玄室内に上砂が充填していた。このSX01とSX05は玄室を共有している状態であるが、共有しているとは考えられず先後関係を想定すると、Tk2002 - SX01の玄室が竪坑に対し左に振りすぎており、SX01はSX05の玄室を再利用したと思われる。玄室東側側壁前で刀子（320）、奥壁付近で鉄鎌（319、321）が出土。また、人骨らしき有機質が奥壁側に頭位を東に向けてわずかに確認でき、頸部付近にガラス玉47個が出土し、スカイブルー25点、マリンブルー22点である。さらに刀子の位置から埋葬入骨は2体の可能性がある。

#### Tk2002 - 2号地下式横穴墓（Tk2002 - SX02）（第41・42図）

Tk2002 - 2号溝（Tk2002 - SD02）内北側に位置する。竪坑はSD02内におさまり、縦長（1.7×1.5）隅丸長方形で溝底より深さ0.65mを測る。羨門は竪坑西側壁に設けられ黒色粘質土ブロックによる閉塞で、羨道は短く玄室は右側に広がる片袖型の妻入りタイプである。片袖側に頭部を竪坑方向へ向けた人骨片を確認した。また、腰骨付近から刀子（324）が出土。竪坑からは高坏（322）と培形土器？（323）が出土。（322）は外器面が丹塗りされている。

#### Tk2002 - 3号地下式横穴墓（Tk2002 - SX03）（第43図）

SD02の東1.3mほどに位置する。小型の地下式横穴墓で、竪坑は円形に近い不定形（径1.2m弱）と思われる。竪坑の深さは検出面より0.5m強で浅い。羨道は崩落により推定の域を越えないがクビレ程度と思われる。玄室は両袖型の平入りタイプで奥壁の両サイドがやや弧状にえぐられた形である。竪坑、玄室の高さ（深さ）が浅いため築造時の掘り方はかなり上位であったと思われる。出土人骨は1体で、女性・老年との所見が出ている。

#### Tk2002 - 4号地下式横穴墓（Tk2002 - SX04）（第44図）

SD01内に竪坑をもち東南方向に玄室を構築している。検出時においてすでに玄室天井は崩落していた。竪坑はほぼ正方形で一辺推定1.6m、検出面（溝底）より深さ1.1mを測る。羨道は0.3mほどで短く、玄室は両袖型の平入りタイプである。竪坑から玄室へなだらかに傾斜している。

#### Tk2002 - 1号土坑（Tk2002 - SC01）

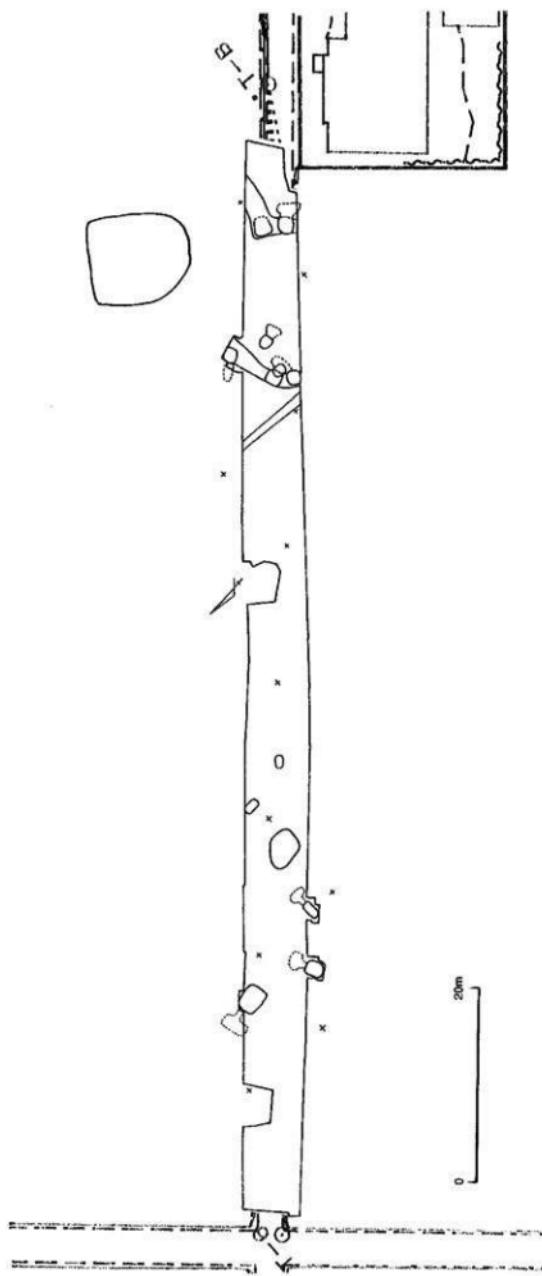
5号地下式横穴墓（SX05）の羨道・羨門付近にSX05を切って掘り込まれている。検出面で径1.8m弱の円形、深さ0.8mで断面では逆フラスク状をなす。埋土は濃黒色土に粗細粒黄ボラをまんべんなく含んでいる。出土遺物はなく、時期は不明であるが古墳時代以降である。

#### Tk2002 - 6号地下式横穴墓（Tk2002 - SX06）（第47・51図）

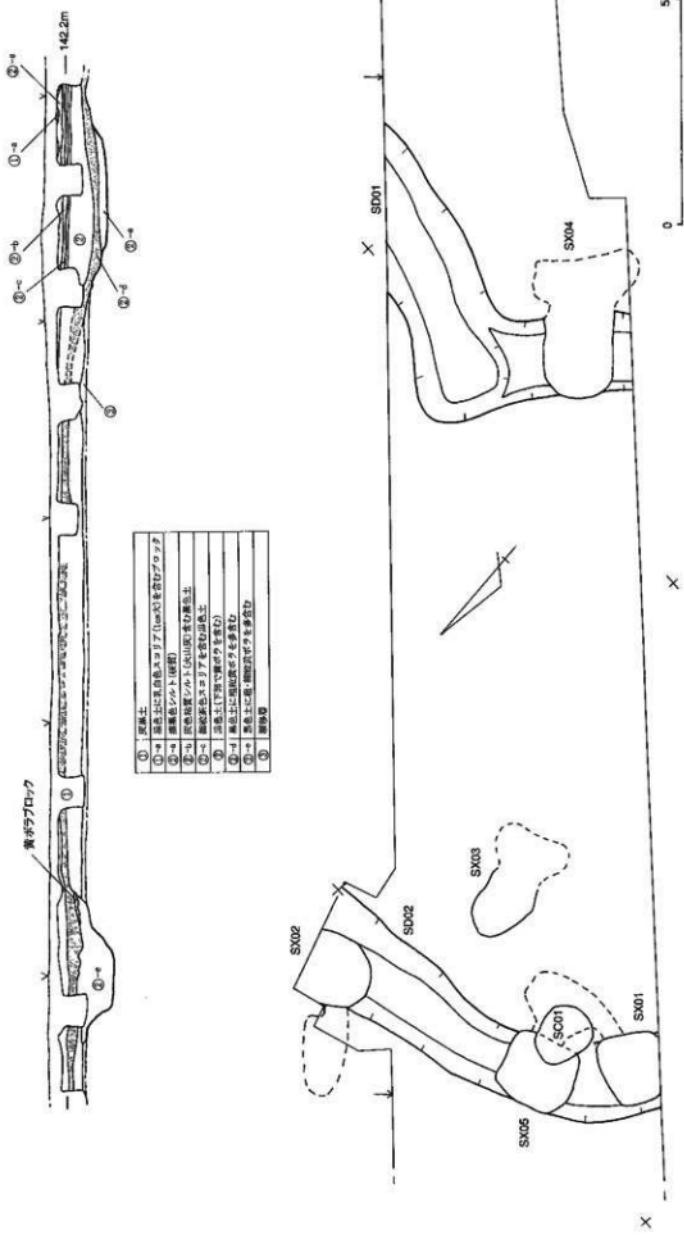
調査区中央より西、風倒木痕の西側に位置する。竪坑は玄室に対し縦長の長方形で長辺1.8m、短辺0.95m、検出面より深さ1.5m弱を測る。竪坑手前（羨門と対応側）の壁面は緩やかなS字状をなし竪坑床面の長辺は1.0mほどである。羨門は黒色粘質土ブロックで閉塞されている。羨道は0.9mほどでやや細長く、両袖の平入り型である。遺物は玄室内中央奥壁際に鎌身を南方向に向け出土している鉄鎌4点、方頭鎌（345、346）三角鎌（347）と関が角撫しの三角鎌？（348）、刀子（349）である。また、竪坑上位より楕状の土器（336）が出土している。

#### Tk2002 - 6・7・8号地下式横穴墓（Tk2002 - SX06・07・08）の付近（第45・46図）

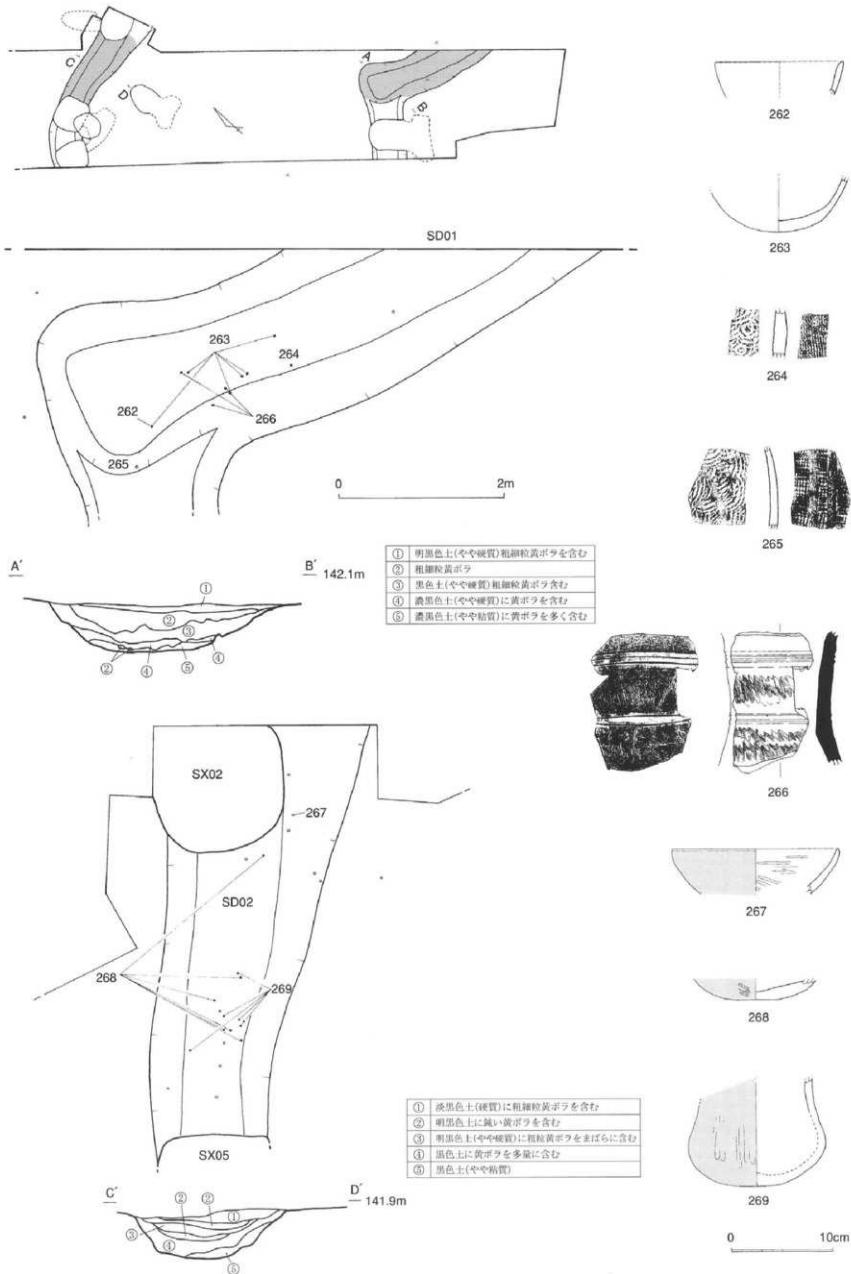
Tk2002 - SX06の北側に第2層中に粗細粒黄ボラを多く含む層③が円形状存在する。粗細粒黄ボラは白



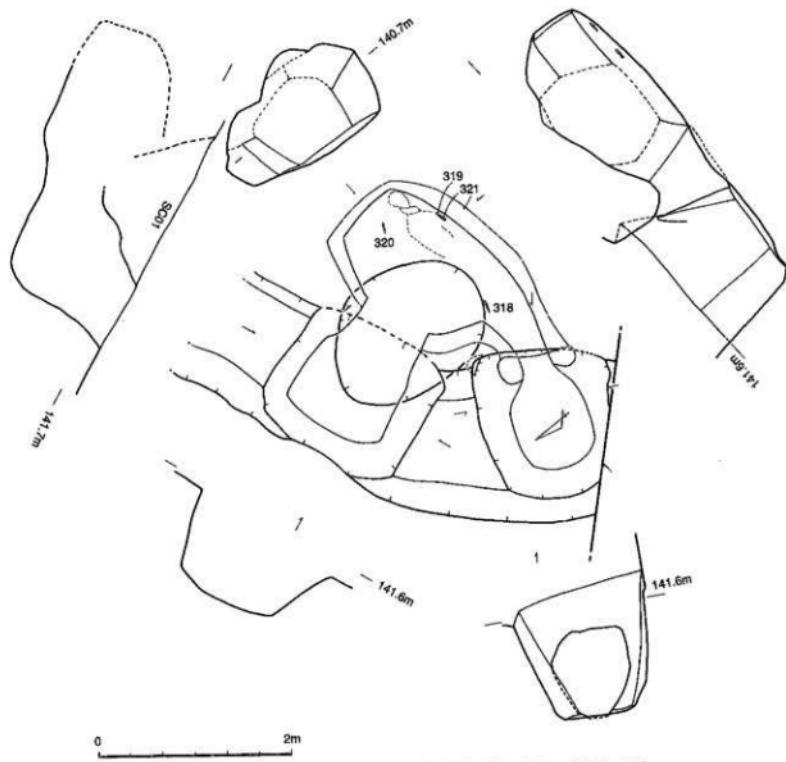
第36図 染池遺跡第3次調査(Tk2002)遺構分布図



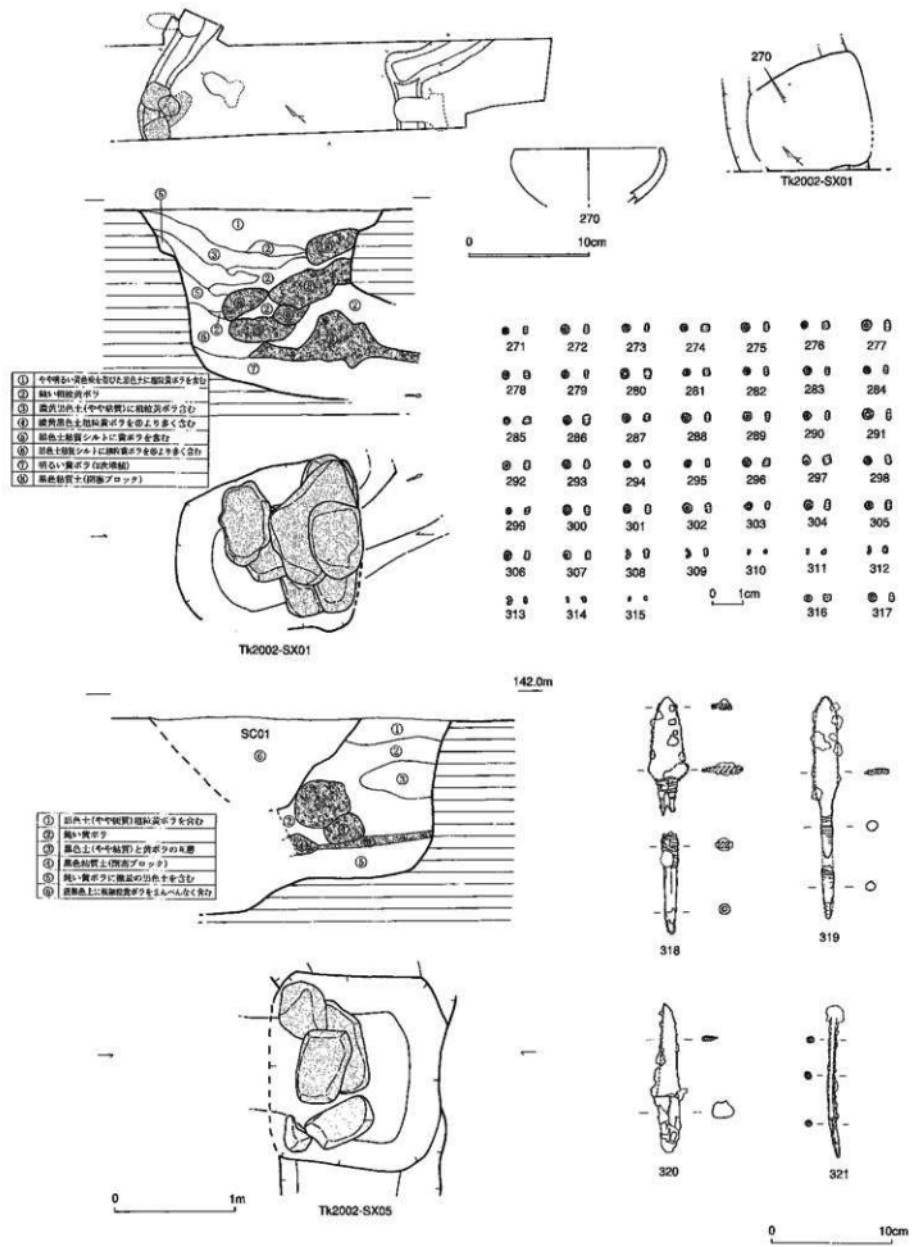
第37図 築池遺跡第3次調査 (Tk2002) 東側調査区



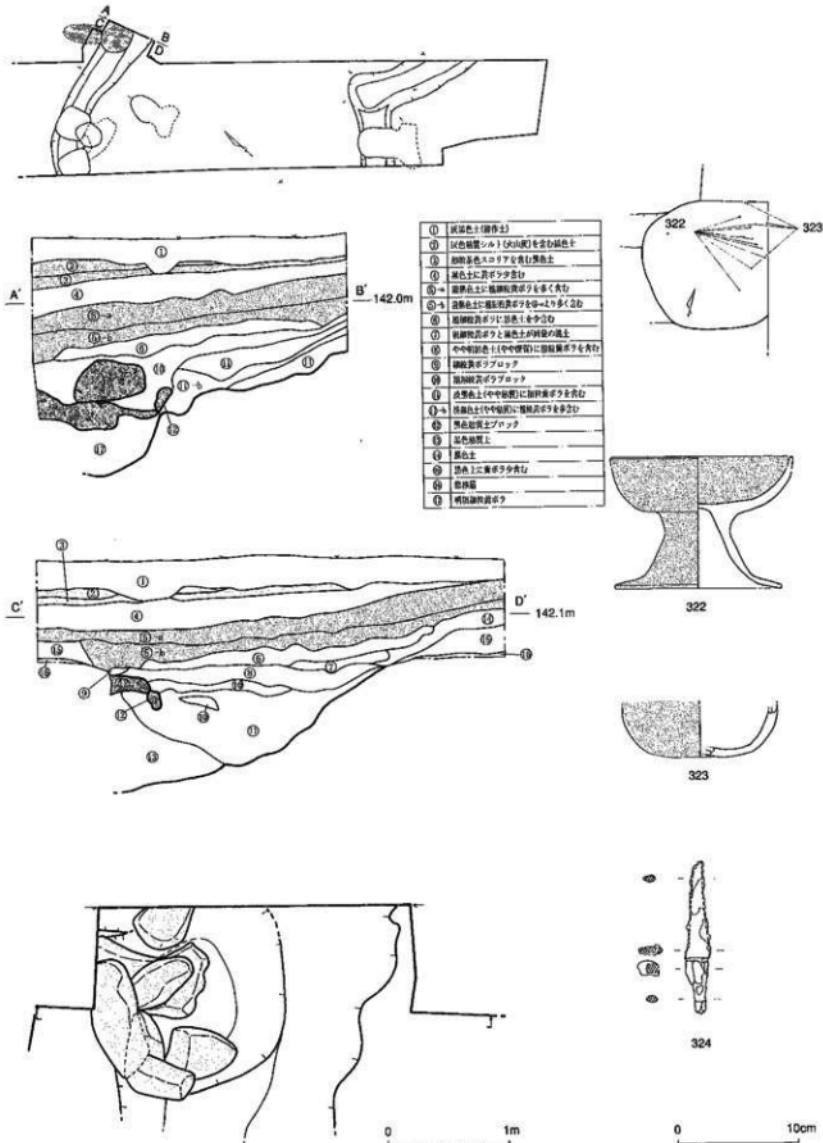
第38図 Tk2002-1, 2号溝 (Tk2002 - SD01, 02) 内出土遺物



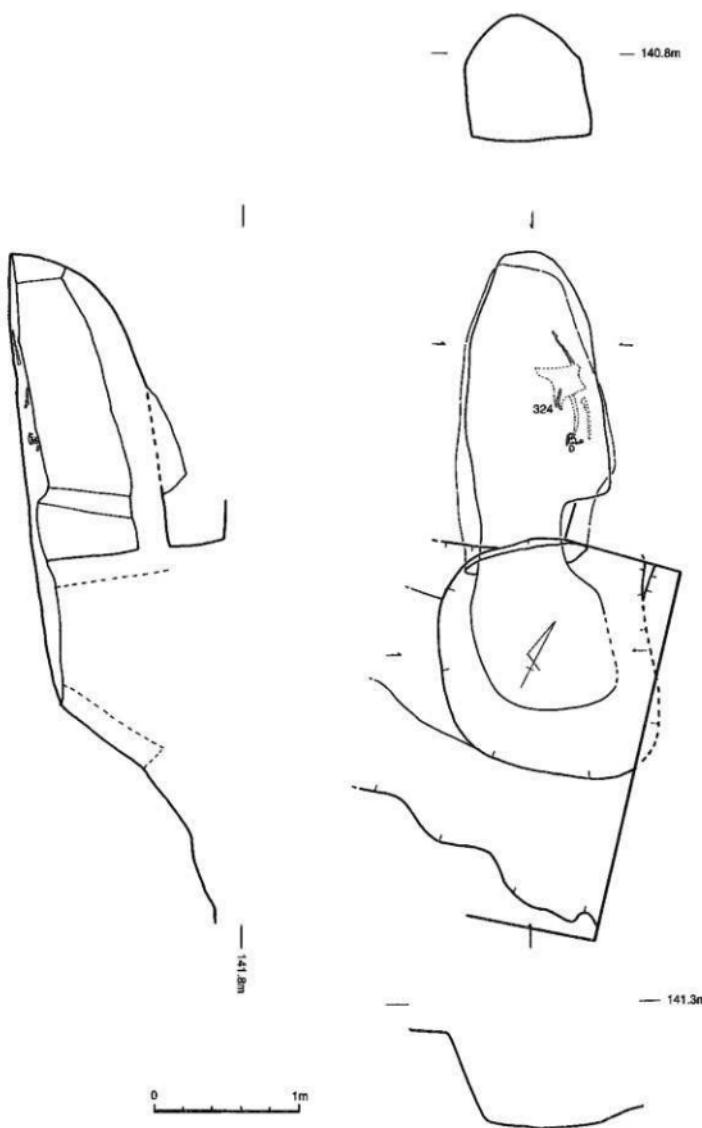
第39図 Tk2002-1, 5号地下式横穴墓 (Tk2002-SX01, 05)



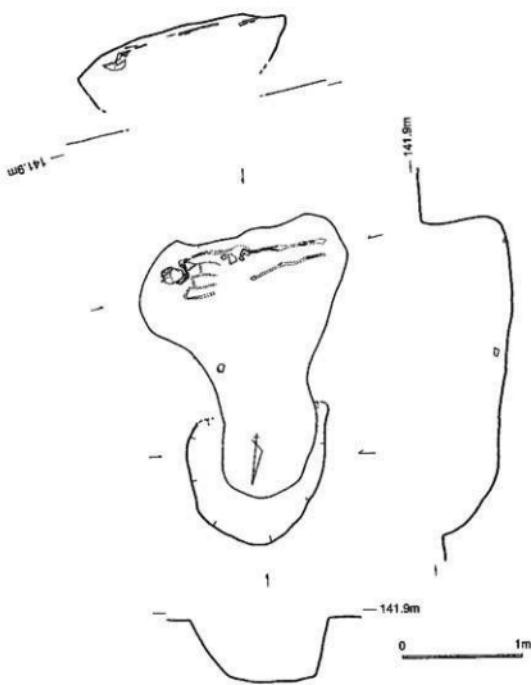
第40図 Tk2002-1, 5号地下式横穴墓 (Tk2002-SX01, 05) 内出土遺物実測図



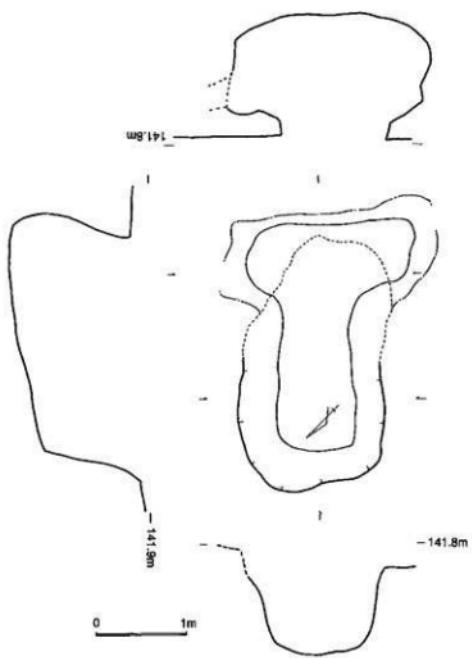
第41図 Tk2002 - 2号地下式横穴墓 (Tk2002 - SX02) 土層断面図および整坑内出土遺物実測図



第42図 Tk2002-2号地下式横穴墓 (Tk2002-SX02)



第43图 Tk2002-3号地下式横穴墓 (Tk2002-SX03)



第44図 Tk2002・4号地下式横穴墓 (Tk2002・SX04)

然堆積では存在しないことから何らかの行為によるものである。地ドレーダーでは地下式横穴墓の反応がなかったところで、北側調査区外に地下式の存在が予見される。この円形に堆積している粗粒黄ボラを含む黒色土層から須恵器が散発的に出土する。提瓶（325）は肩部に把手を付し、体部片面が平坦で片方が張り出し手持ちカイメを施す。底部を欠損している。（326、327）は坏身、（328、329、331）は坏蓋である。（335）は小型の壺（土師器）で肩に浅い沈線を複数本施しているが内外器面とも磨耗が激しい。

#### Tk2002-7・8号地下式横穴墓（Tk2002-SX07・08）検出前（第45・46図）

Tk2001-4、7号地下式横穴墓検出前風景と同様で7、8号地下式横穴墓の堅坑検出面より20~30cmほど上の黒色土層中で粗粒黄ボラが円形状に散在し、5cmコンタでは西がやや低く東に向かいや高まりをみせる。さらに、西側の粗粒黄ボラ堆積際で土師器坏（333・模倣土師）が天地を逆さまにほぼ水平に出土している。（332）は坏身、（334）は壺の底部と思われる。

#### Tk2002-7号地下式横穴墓（Tk2002-SX07）（第48~51図）

黒色土層中で粗粒黄ボラが円形状に散在した範囲の20~30cm下で、北側調査壁際にSX07の堅坑を検出した。SX07は玄室に対し縦長の大型方形の堅坑（長辺2.3m×短辺2.1m）をもち、深度は中央付近1.2m、羨門で1.7m弱を測り、羨門付近が半円形状に落ち込む。堅坑の埋土は特異的で羨門付近は検出面から羨門閉塞で用いている黒色粘質土ブロックが堅坑全体を覆い尽くしている。堅坑内遺物は検出面中央付近からの出土である。（342）は高坏（須恵器）の脚部で上位に方形の透かしをもつ。（343）は坏身（須恵器）、（344）は坏身（模倣土師）である。羨門は壁面中央に位置し、羨道は1mほどで、玄室との境に段差がある。この段差の際に鉄鏃が3点出土している。（350、351）は方頭鏃で鎌身體が長い、（352）は長三角形鏃である。玄室は長辺2.8m短辺1.3mほどの方形で、天井は高さ1.2~1.3mで断面箱型を呈すると思われる。人骨らしき有機質を2ヶ所確認した。奥壁側には有機質内に刀子（360）、手前側では鉄鏃7本が出でている。鉄鏃（353~359）はすべて片刃の長頭鏃である。副葬品の位置や人骨（有機質）片等から最低1回は追葬されていると思われる。

#### Tk2002-8号地下式横穴墓（Tk2002-SX08）（第48~51図）

7号同様粗粒黄ボラが円形状に散在した東南側端部に位置し、堅坑検出状況も同様である。玄室に対し縦長のやや大型方形の堅坑（長辺1.8m×短辺1.5m）をもち、深度は中央付近1.45m、羨門で1.6m弱を測り、堅坑中央付近から羨門付近が長半円形状に落ち込む。羨門は壁面やや西に位置し閉塞は黒色粘質土ブロックで、羨道は0.8m弱である。玄室は両袖型の平入りタイプで、長辺1.85m短辺1.2m高さは側壁際0.4m中央付近で推定1m弱を測る。玄室内遺物は3ヶ所に分かれ、365は無茎鏃で、鏃身（11cm）は長身化し鎌身體中央で1対の透かし孔をもつ。逆刺はやや外開きする。（366）は片刃の長頭鏃である。（367、368）は刀子である。また、堅坑上位より坏身（339~341）と蓋（337、338）が出土している。副葬品の出土状況から複数回の追葬の可能性がある。

#### Tk2002-2号土坑（Tk2002-SC02）（第52図）

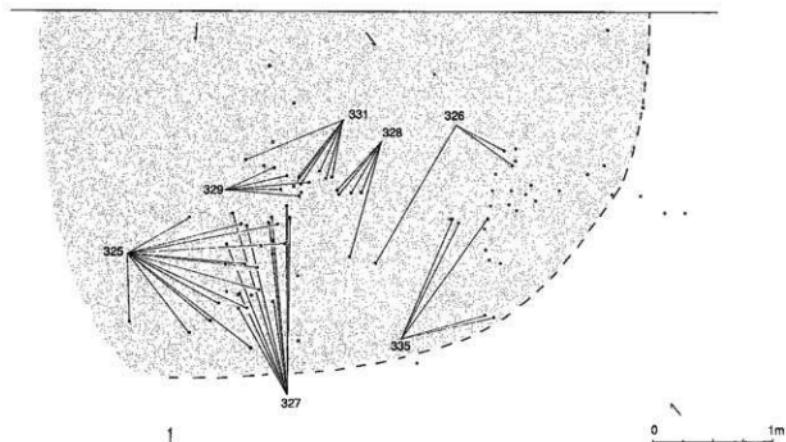
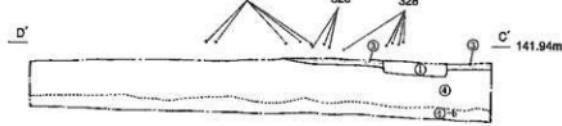
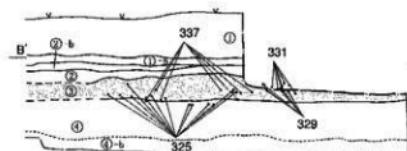
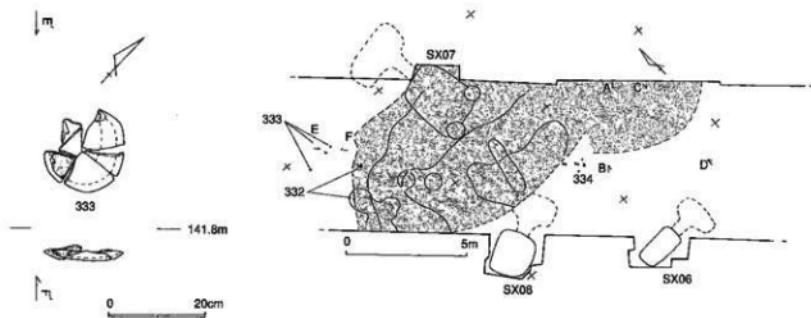
Tk2002-SX06の東、風倒木痕の北東に位置する。長辺1.45m短辺0.9mの隅丸方形を呈し、検出面（ベルト）より深さ0.8mを測る。埋土は第2層を基調とした濃黒色土である。土坑下場は部分的に御池ボラが赤色化している。埋土の状況から古墳時代のものと思われる。

#### Tk2002-3号土坑（Tk2002-SC03）（第52図）

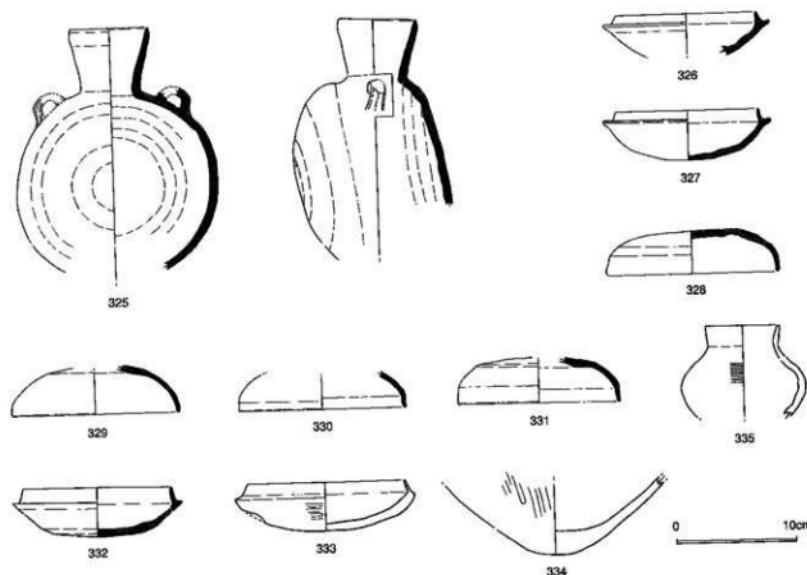
Tk2002-SC02の東南に位置する。長辺1.65m短辺1.0mの方形を呈し、検出面より深さ0.35mを測る。埋土は第2層を基調としたやや粘質の濃黒色である。土坑下場は部分的に御池ボラが赤色化している。埋土の状況から古墳時代のものと思われる。

#### Tk2002-1号掘立柱建物跡（Tk2002-SB01）（第52図）

Tk2002-SX08の玄室上に位置する。1×1間の掘立柱建物跡で柱穴間は東西南北とも1.3mである。柱穴は検出面で径10~15cm深さ10~20cmほどである。埋土は黒色土で、時期については不明である。



第45図 Tk2002-6, 7, 8号地下式横穴墓(Tk2002-SX06, 07, 08)付近遺物出土状況

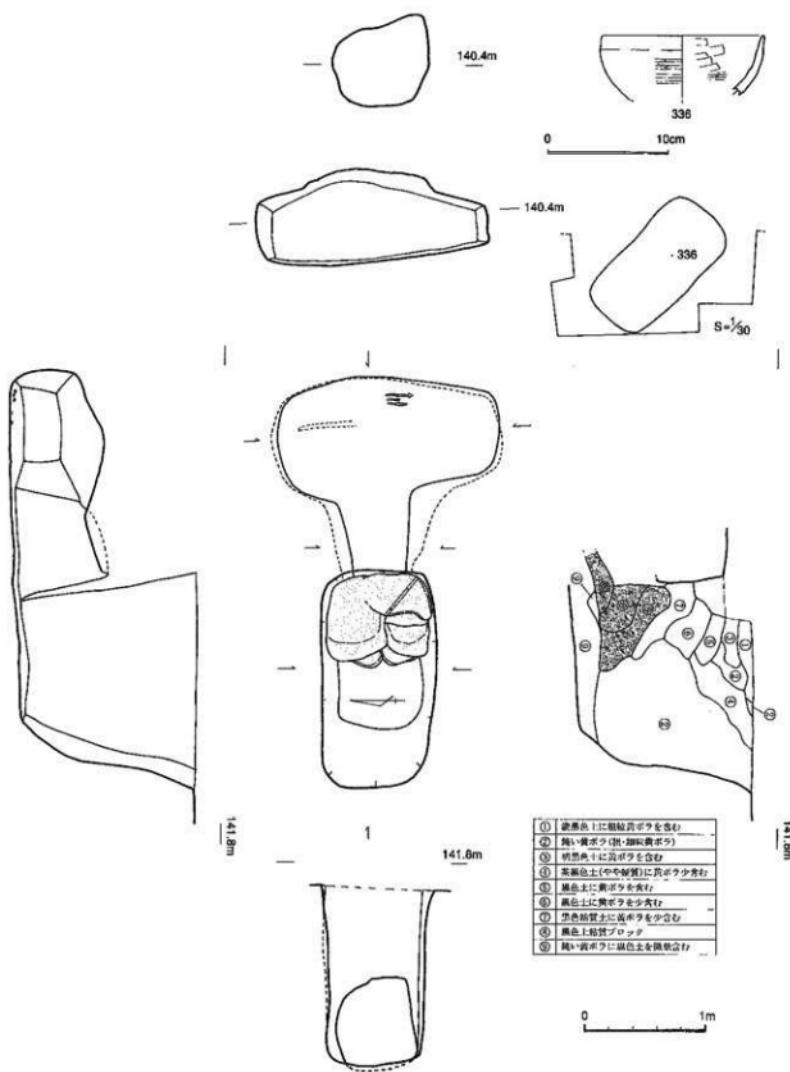


第46図 Tk2002-6, 7, 8号地下式横穴墓 (Tk2002-SX06, 07, 08) 付近出土遺物実測図

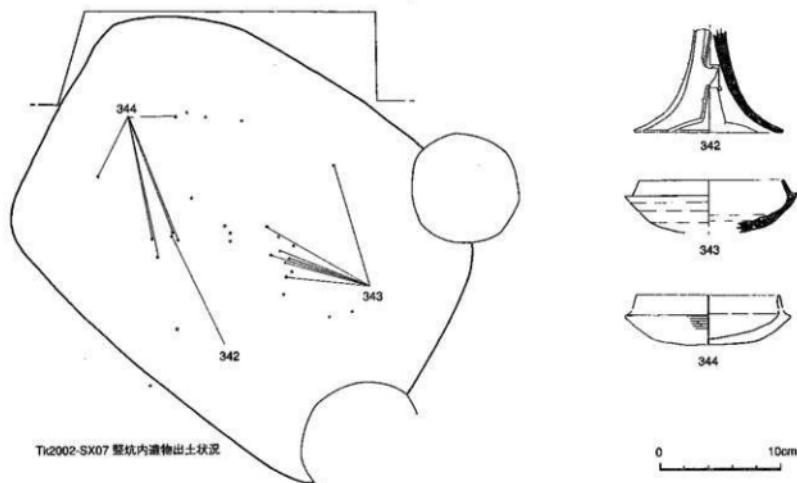
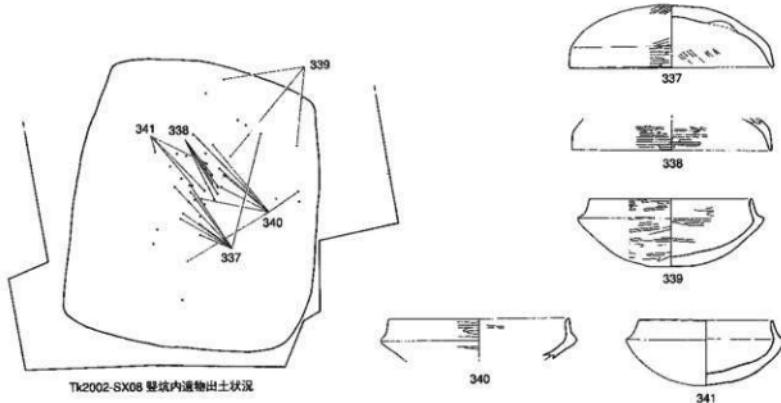
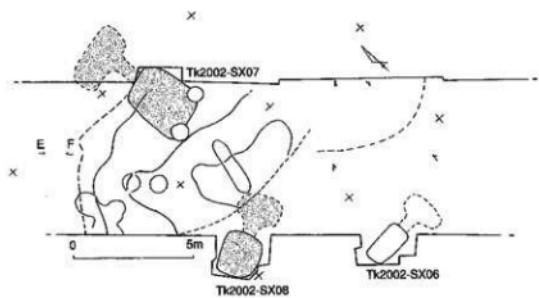
※环身の法蓋は左から口径、底径、器高とする

掲載番号	年度 遺構名	種別部位	法 量 (cm)			胎土・特徴	調 整 等
			口 径	底 径	高 さ		
337	Tk2002 SX08	环蓋 土師器	16.8	—	5.3	3mm以下の砂粒を含む	外、内-ミガキ
338	Tk2002 SX08	环蓋 土師器	(16.8)	—	—	微小の砂粒を含む	外、内-ミガキ
339	Tk2002 SX08	环身 土師器	13.5	15.5	5.6	微小の砂粒を含む	外、内-ミガキ
340	Tk2002 SX08	环身 土師器	(16.8)	(18.2)	—	3mm以下の砂粒を含む	外、内-ミガキ
341	Tk2002 SX07	环身 土師器	11.0	13.2	5.5	3mm以下の砂粒を含む	外、内-ミガキ
342	Tk2002 SX07	高坏 狹底器	—	(12.1)	—		
343	Tk2002 SX07	环身 狹底器	12.0	14.5	—	微小の砂粒を含む	外、内-ロクロナデ
344	Tk2002 SX07	环身 土師器	(11.8)	(13.8)	(4.2)		外、内-ロクロナデ
369	Tk2002	环蓋 狹底器	13.4	—	4.1	3mm以下の砂粒を含む	外、内-ミガキ
370	Tk2003 SD01	堀 土器	(25.4)	—	—	7mm以下の砂粒を含む	外、内-ナデ
371	Tk2003 SD01	堀 土器	(23.0)	—	—	5mm以下の砂粒を含む	外、内-ナデ

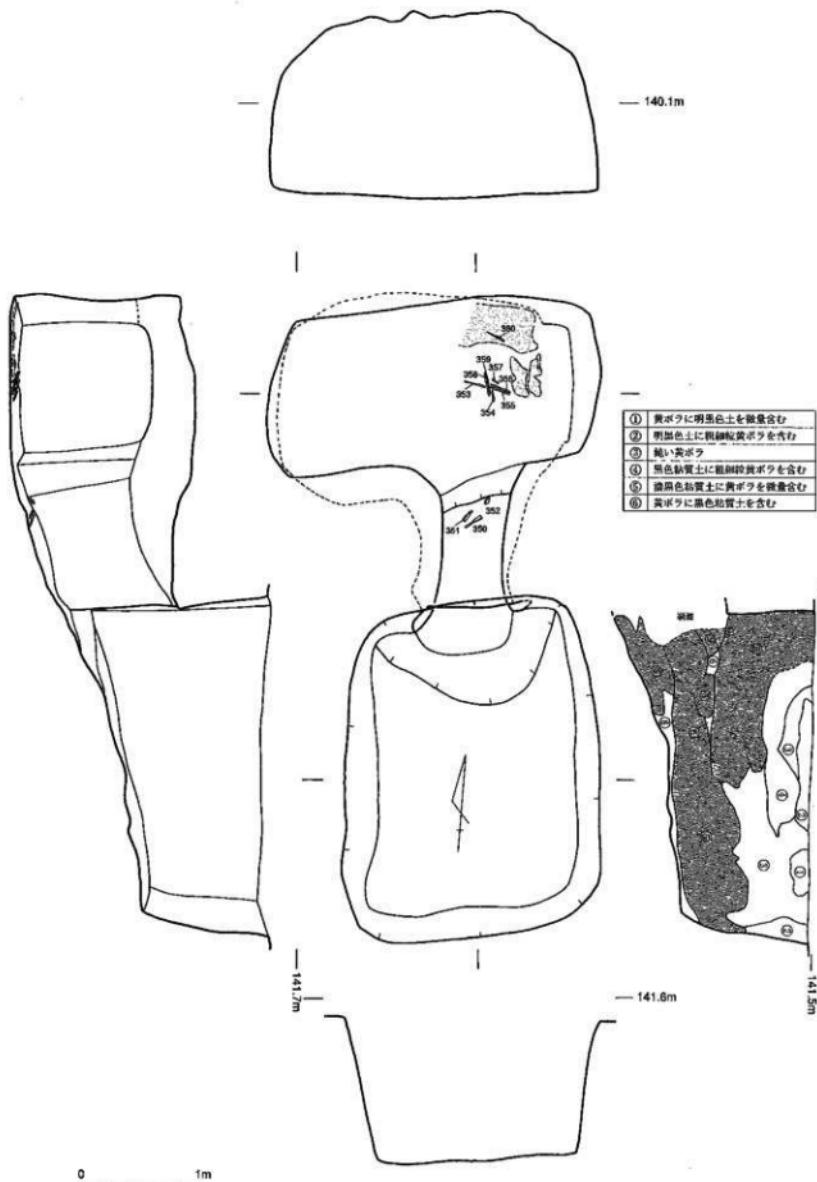
第8表 出土遺物観察表-8



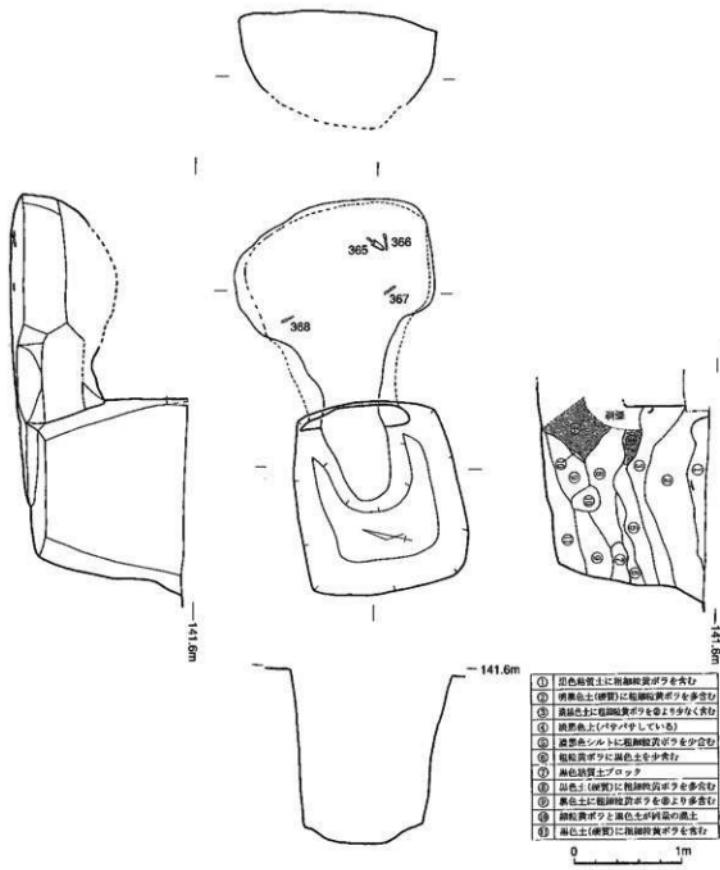
第47図 Tk2002-6号地下式横穴墓 (Tk2002-SX06)



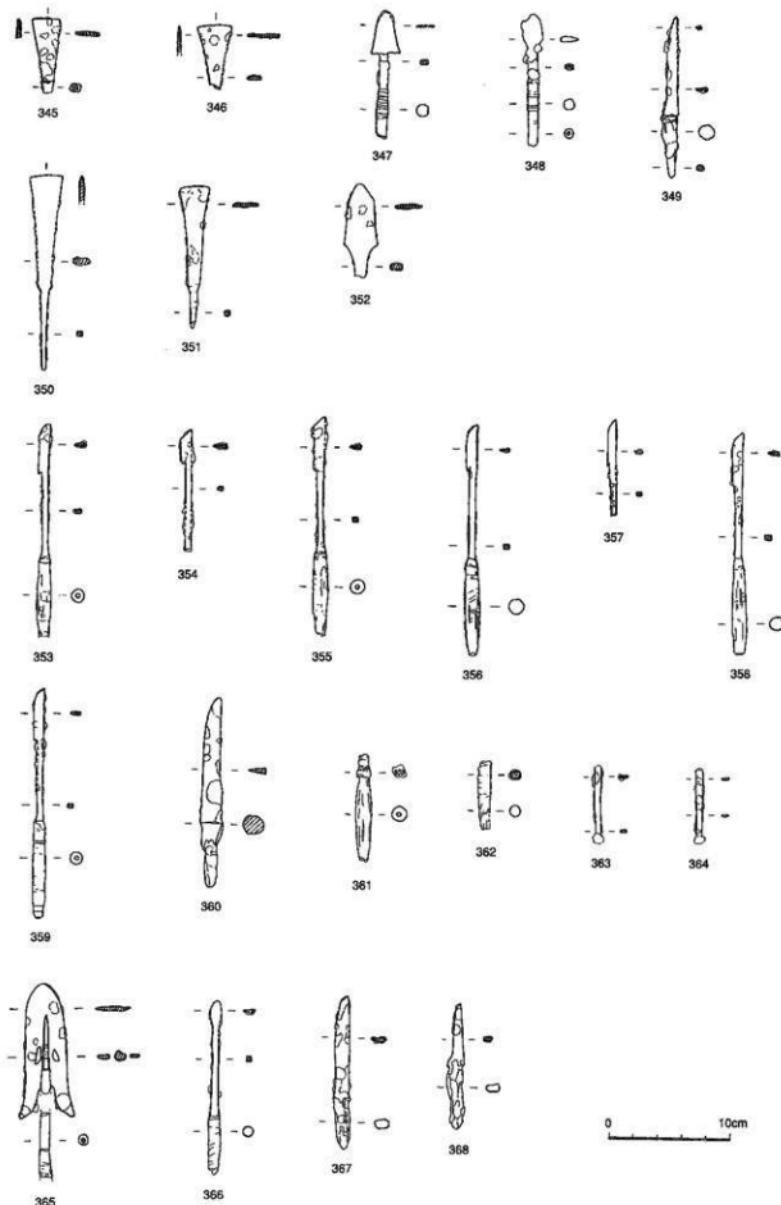
第48图 Tk2002-7, 8号地下式横穴墓 (Tk2002-SX07, 08) 坑内出土遗物实测图



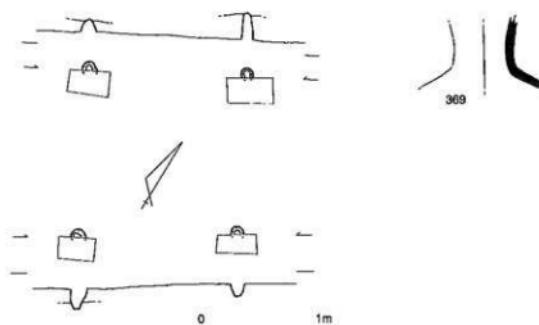
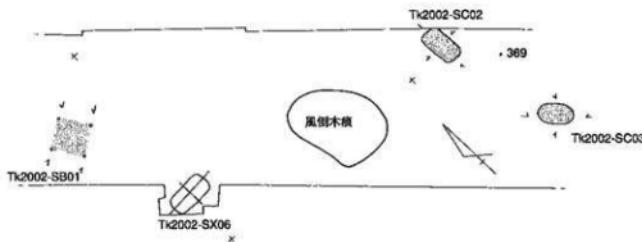
第49図 Tk2002 - 7号地下式横穴墓 (Tk2002 - SX07)



第50図 Tk2002 - 8号地下式横穴墓 (Tk2002 - SX08)

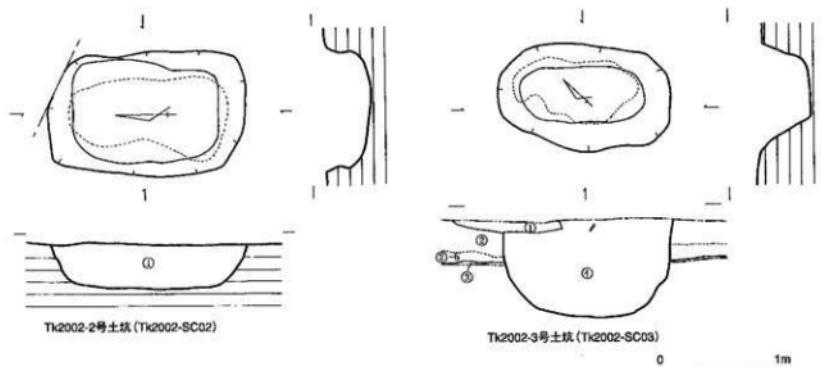


第51図 Tk2002-6, 7, 8号地下式横穴墓 (Tk2002-SX06, 07, 08) 内出土遺物実測図



①	灰褐色土(イモ穴)
②	黑色土
③	b 黒色土で下部黄ボラ含む
④	搬移層
⑤	調査色土(黄ボクをまばらに方塊なく含む)

① 深褐色土(やや粘質)で黄ボクをまばらに方塊なく含む



第52図 その他の遺構

#### 4 築池遺跡第4次調査 (Tk2003)

昨年度に引き続き四角より西側150mほどを調査した。今回は調査区溝地に複数民家がありその出入りの確保等のため調査できないところが生じた。

古墳時代

##### Tk2003-1号溝 (Tk2003-SD01) (第54図)

西側民家入口付近で調査区を横切るかたちで検出した。SD01は検出面で幅1.0~1.2m、深さ0.3mほどを測る。埋土は濃黒色土黄ボラをまばらに万遍なく含み、溝内外から土器片がまとまって出土している。369は溝の東側際よりまとまって出土した。器形は推定であるが直口する口縁をもち若干膨らみながらすぼむ壺形土器と思われる。器壁は脆弱である。370は溝内より出土し、口縁がやや外反しながら短く立ち上がる壺と思われる。

##### Tk2003-1号地下式横穴墓 (Tk2003-SX01) (第54図)

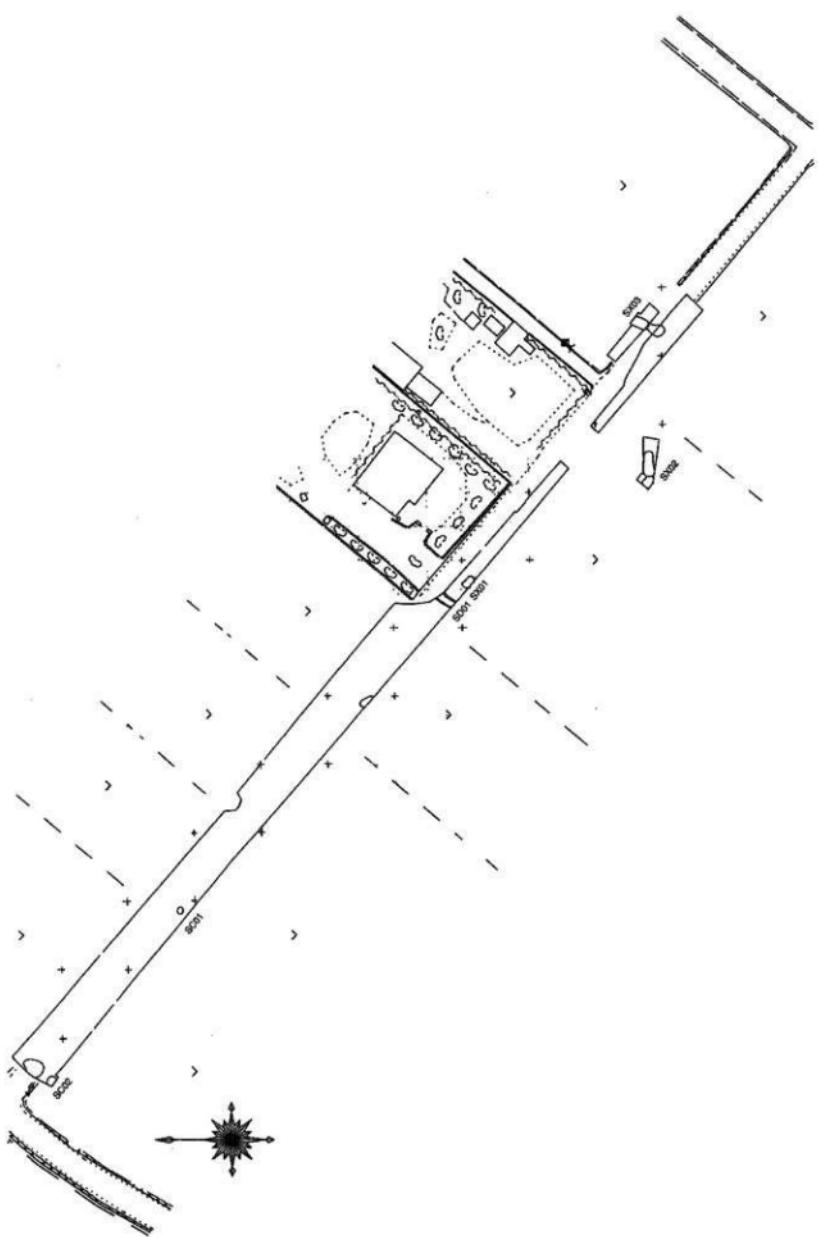
SD01の3mほど東に位置する。玄室のみの調査で両袖の平入り型と思われる。玄室天井は崩落し黒色土や黄ボラブロックが堆積していた。堆積土除去後、茶系の有機質を一部確認し刀子(372)が切先を東に向かって、このほか管玉(373)も1点出土している。玄室は床面奥壁の両サイドがやや円弧状に抉れてい る。

##### Tk2003-3号地下式横穴墓 (Tk2003-SX03) 付近 (第55図)

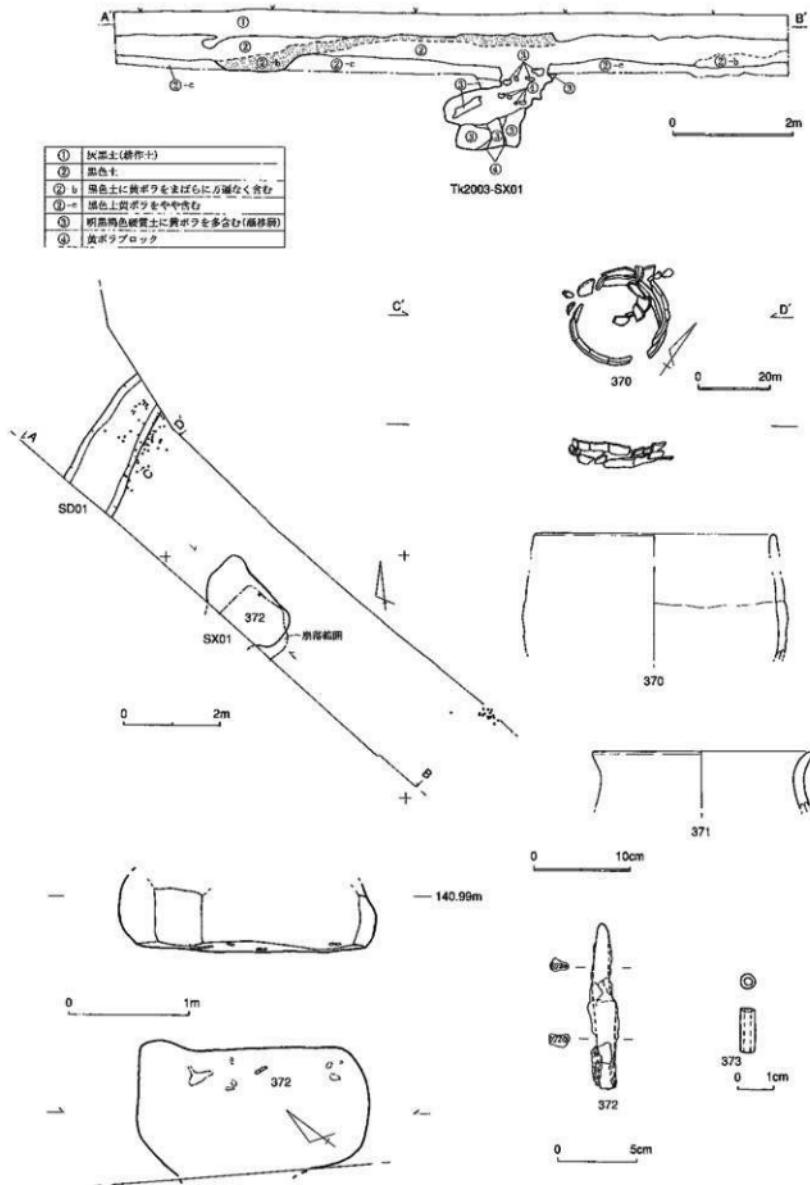
調査区東側部分で、Tk2003-SX03の竪坑検出前の遺物出土状況である。地下レーダー探査で2ヶ所に地下式横穴墓の反応がでており、一つはSX03もう一方は376、383付近である。後者は民家の進入道路確保のため調査できなかった。土層断面では粗細粒黄ボラ混じりの黒色土が帶状に確認でき、平面上でも粗細粒黄ボラ混じりの黒色土が一面を覆っていた。高坏(378)は脚部を欠損し、坏部下位に凹線と突帯を設けその突帯間にヘラによる斜めの浅い刺突を施している。坏部と脚部と接合直下に細長い方形の透かしを3個配している。(374、379~381)は坏身(須恵器)で、374は外面体部にX字状の刻み(ヘラ記号)を施している。(375~377、382、383)は坏蓋で、383は一字文字状に浅い刻み(ヘラ記号)を施している。

##### Tk2003-3号地下式横穴墓 (Tk2003-SX03) (第56~58図)

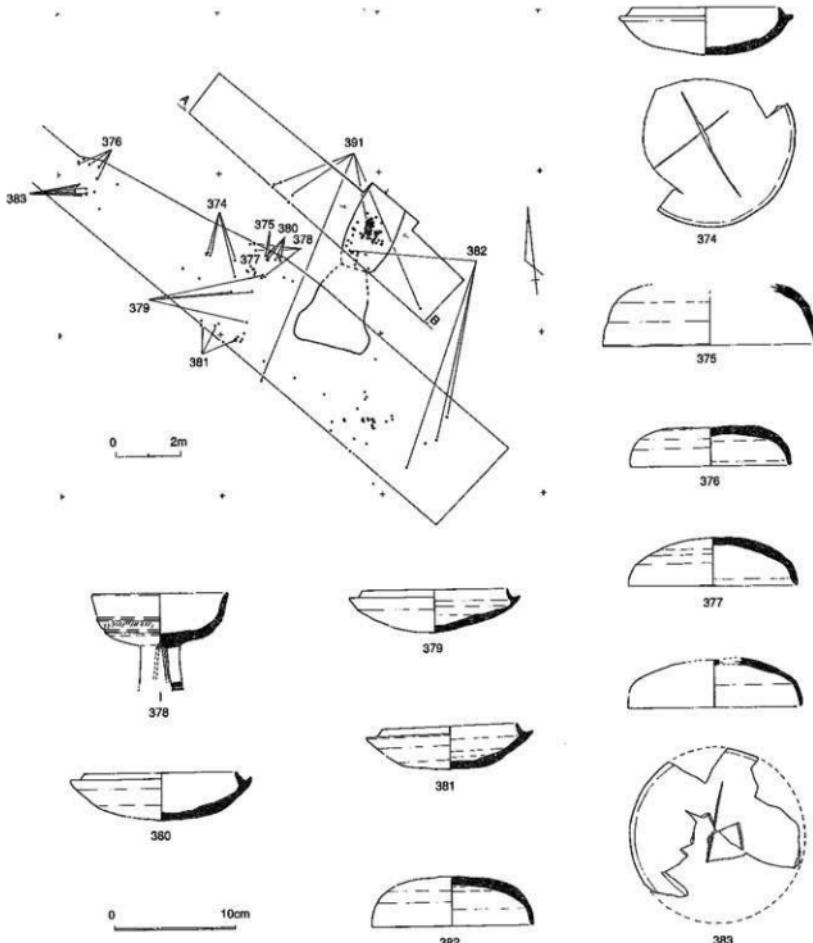
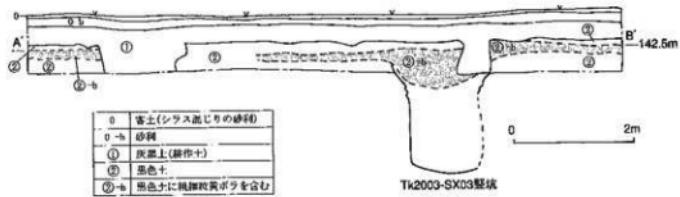
調査区東端に位置する。民家の侵入路を確保するため玄室と竪坑部分を別々に調査し、狭門・羨道および竪坑の一部を調査することができなかった。竪坑は玄室に対し縱長の長方形をなし、長辺推定3.0m前後短辺1.5m深さ1.6~1.7mを測る。検出面付近②層よりまとまった形で須恵器と土師器が出土している。また、(392、393)は出土部位が下位である。391は須恵器窓の脛部で竪坑周辺出土と接合する。外面は平行タタキのちナデ、内面は同心円のあて具痕を残す。高坏が3点、脚部に方形の透かしをもつ(384)、もたない(385)と脚部の短い土師器(386)が出土している。坏身(387)と坏蓋(388~390)が4点出土し、蓋は口径が14cm前後で天井が丸みをもつもの(388)と平らなもの(389、390)とに分けられる。(392、393)は鉢具と思われる。狭門は黒色粘質土ブロックによる閉塞で、羨道は壁面の崩落による広がりを考慮してもやや幅広く前室的な空間をもつ。玄室は両袖の平入り型で死床面は1次面と2次面がある。1次面は羨道に対し僅かに段差をもつ。また、1次床面の奥壁両サイドがやや抉れている。副葬品は鉄鎌16本、直刀1振、刀子2点、鏡4点、台付長頸壺1点、轡1点、耳環1点である。鎌は東側側壁際にまとまって出土している。鉄鎌は長三角形鎌(394~397)が4点、小型の主頭鎌(398~409)が12点、轡(418)が東側奥壁際に重なり合うように出土している。直刀(417)は西側奥壁手前に切先を東に向かって抜身の可能性がある。全長84cm反りではなく鐔と鎬が遺存し、刃区は長く棟区は短い。茎は14cmで目釘孔を1



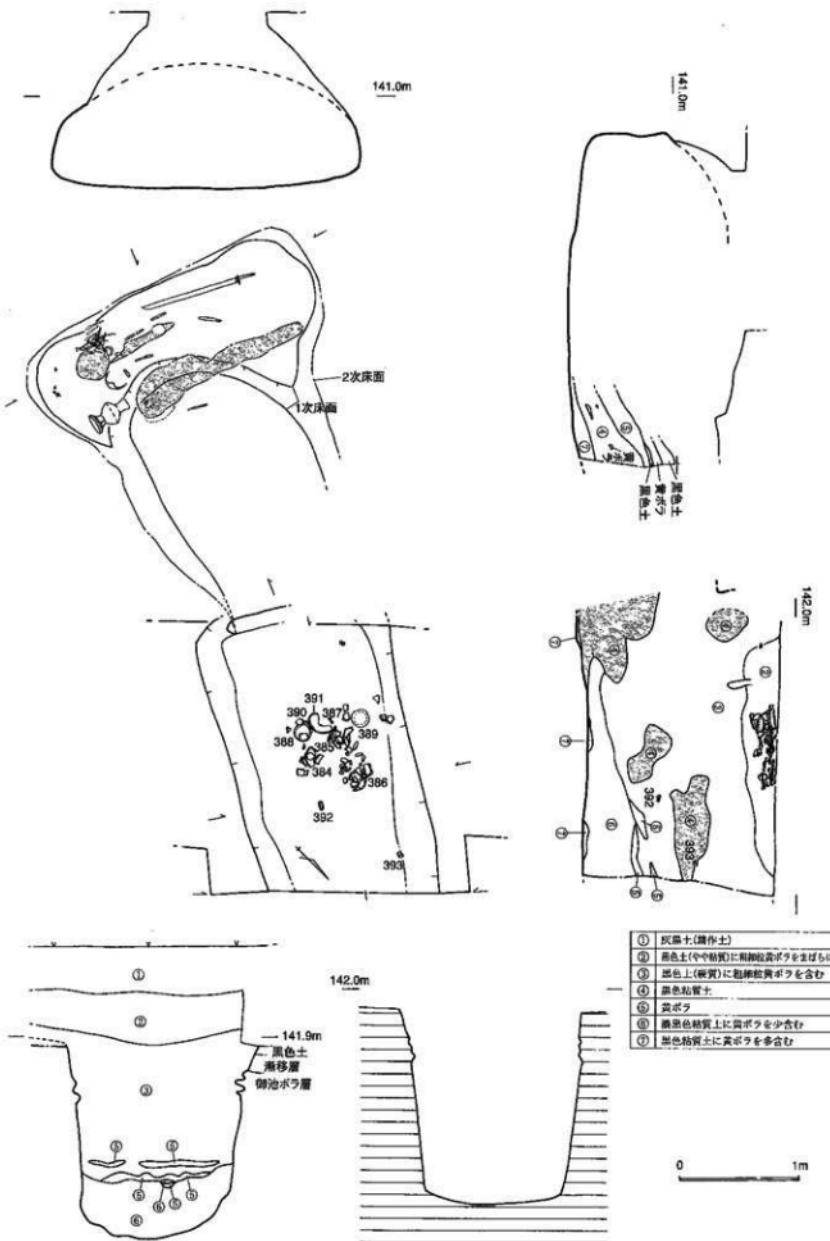
第53図 染池遺跡第4次調査(Tk2003)遺構分布図



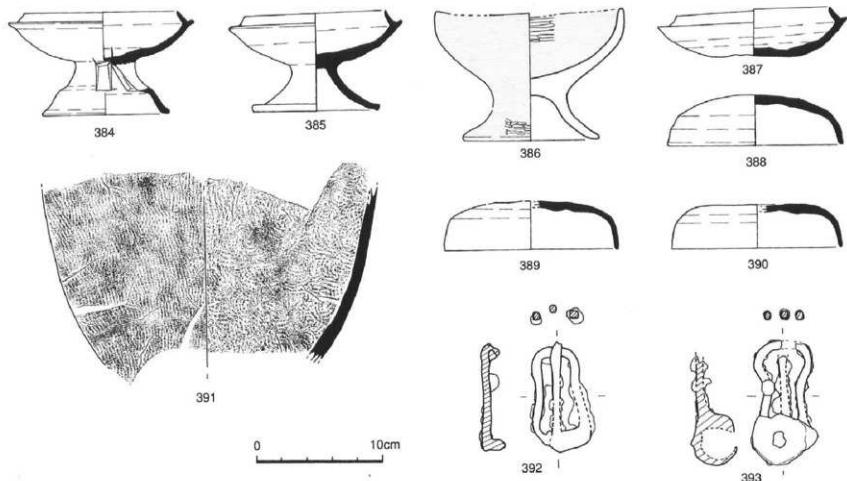
第54図 Tk2003-1号溝(Tk2003-SD01)、TK2003-1号地下式横穴墓(Tk2003-SX01)および同内遺物実測図



第55図 Tk2003 - 3号地下式横穴墓 (Tk2003 - SX03) および周辺遺物出土状況



第56図 Tk2003 - 3号地下式横穴墓 (Tk2003 - SX03)

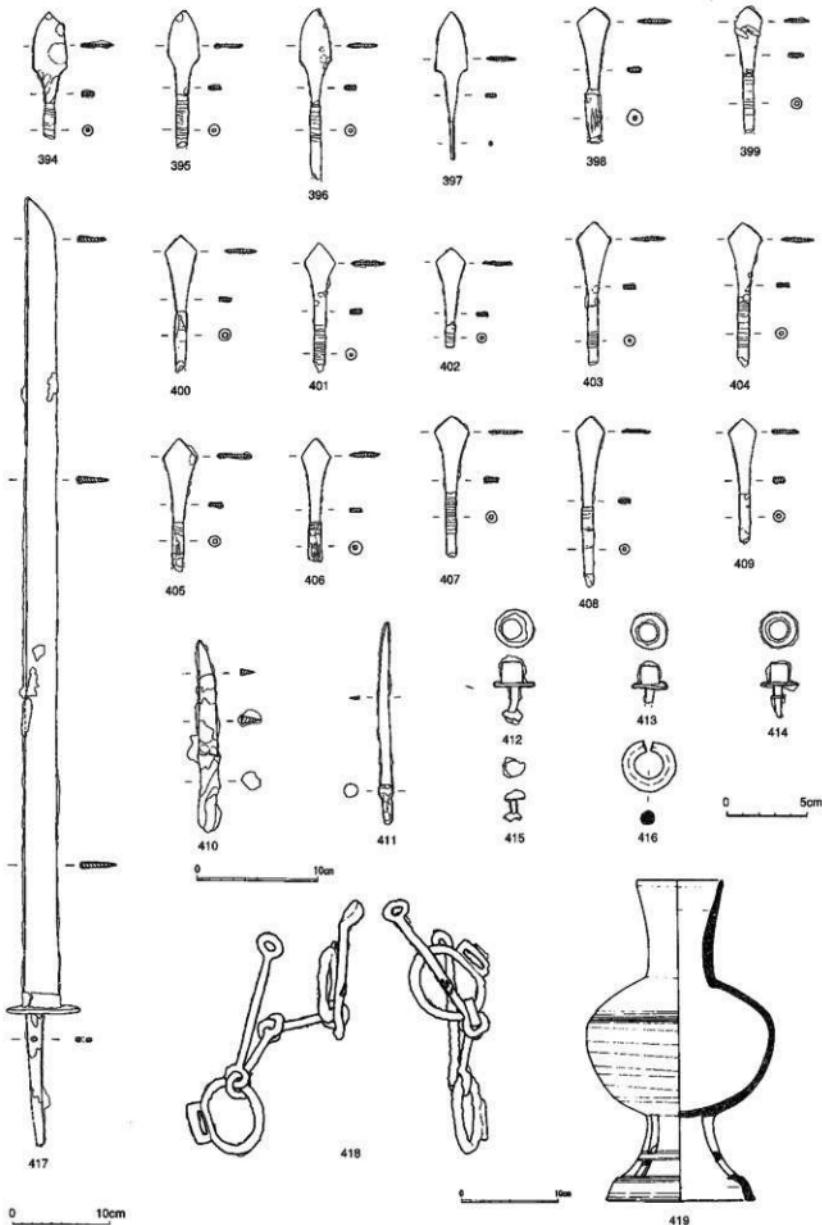


第57図 Tk2003-3号地下式横穴墓 (Tk2003-SX03) 竪坑内出土遺物実測図

\*環身の法量は左から口径、底径、器高とする

掲載番号	年度 遺構名	種別部位	法量(cm)			胎土・特徴	調整等
			口径	底径	高さ		
374	Tk2003	环身 須恵器	12.4	14.6	3.9	体部にX字状のヘラ記号	外、内-ロクロナデ
375	Tk2003	环蓋 須恵器	18.0	-	-		外、内-ロクロナデ
376	Tk2003	环蓋 須恵器	13.4	-	3.4		外、内-ロクロナデ
377	Tk2003	环蓋 須恵器	14.3	-	4.0		外、内-ロクロナデ
378	Tk2003	高环 須恵器	(11.4)	-	-	脚部方形透かし3個	外-ヘラ状工具による斜め刺突
379	Tk2003	环身 須恵器	11.3	13.9	3.5		外、内-ロクロナデ
380	Tk2003	环身 須恵器	12.7	15.1	4.0		外、内-ロクロナデ
381	Tk2003	环身 須恵器	12.1	14.2	3.6		外、内-ロクロナデ
382	Tk2003	环蓋 須恵器	13.4	-	4.1		外、内-ロクロナデ
383	Tk2003	环身 須恵器	14.6	-	4.0	体部に一字状のヘラ記号	
384	Tk2003 SX03	高环 須恵器	12.4	10.3	8.2	脚部方形透かし3個	外、内-ロクロナデ
385	Tk2003 SX03	高环 須恵器	11.4	10.0	7.8		外、内-ロクロナデ
386	Tk2003 SX03	高环 土師器	14.9	11.0	10.5	微小の砂粒を含む	外、内-ミガキ 丹塗り
387	Tk2003 SX03	环身 須恵器	12.4	15.3	3.7		外、内-ロクロナデ
388	Tk2003 SX03	环蓋 須恵器	14.2	-	4.0		外-ロクロナデ
389	Tk2003 SX03	环蓋 須恵器	14.0	-	3.9		外-ロクロナデ
390	Tk2003 SX03	环蓋 須恵器	13.8	-	3.5		外-ロクロナデ
391	Tk2003 SX03	壺 須恵器	-	-	-		外-平行タタキ 内一同心円あて具痕
419	Tk2003 SX03	台付長颈壺 須恵器	8.9	13.3	33.3	脚部に2段に方形透かし	

第9表 出土遺物観察表-9



第58図 TK2003-3号地下式横穴墓(TK2003-SX03)玄室内出土遺物実測図

箇所ある。鐸は梢円形状（ $8 \times 6$  cm）で棟区側が丸みを帯び刃区側がやや先細る。刀子は（410）が中央付近、（411）が直刀の近くで、耳環（416）は玄室入口の頭蓋側頭部から出土している。台付長頭壺（419）は口径8.9cm脚部径13.3cm器高33.3cm胴部最大径19.4cmを測る。胴部最大径直線上に2条の浅い凹線を施す。胸部は2段3列の切り口が粗い上段が長い方形の透かしを配置する。壺（418）は環状鏡付替で矩形の立縫を造りつけている。鏡板は長軸が8cmほどの梢円形を呈し、引手は引手壺をくの字に曲げ、鏡板と転結している環は曲げていない。2連の銘は一つが同方向に環を、他方を90°捻り環を造る。埋葬人骨は有機質が扁平に広がりをみせる程度で3個体分の人骨と思われる。

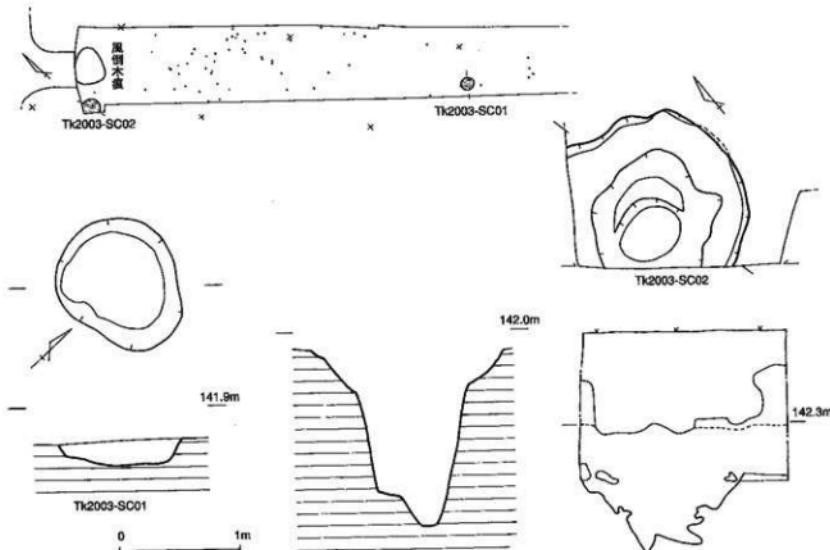
その他の遺構（第59図）

#### Tk2003-1号土坑（Tk2003-SC01）

調査区に西側に位置する。長軸1.15m短軸1.0m深さ0.2mを測る梢円形状の土坑である。理土は第2層黒色土である。

#### Tk2003-2号土坑（Tk2003-SC02）

調査区西側端部に位置する。円形のプランで深さ1.5mほど底より25cm上位で三日月状のテラスをもうける。埋土は黒色粘質土で黄ボラをまばらに含んでいる。



第59図 その他の遺構

番号	年度	遺構名	堅坑(幅×横×深さ)	長軸	袋門・浜道	玄室(高さ×側面×高さ)	人骨	副葬品等
1	2000	SX01	方形 (1.3)×1.87×0.9	2.45	黒色土ブロック	平入り、両袖2.1×0.75×1.2	1男 壮年	鉄錠?
2	2001	SX02	方形 1.2×2.2×0.9	(2.45)	黒色土ブロック	平入り、片袖2.2×0.8×0.8	1 女	小玉(右手首) 133
3	2001	SX03	方形 2.45×1.95×1.4	4.15	黒色土ブロック	平入り、片袖2.2×1.25×1.2	1 壮女	四角-高环1 玄室-鉄錠3、鉄剣1、骨組6
4	2001	SX04	方形 (1.8)×1.0×0.75	2.7	黒色土ブロック	平入り、両袖1.9×0.8×(0.7)		鉄錠2
5	2001	SX05	方形 1.75×1.1×1.2	3.75	黒色土ブロック	平入り、片袖1.9×0.9×0.75	1	マリ1、貝輪1、刀子1
6	2001	SX06	未調査	不明	黒色土ブロック	平入り、片袖1.9×1.4×1.0	2 男女	直刀1、鐵錠10、朱王?
7	2001	SX07	正方形 1.5×1.5×1.15	3.0	黒色土ブロック	平入り、両袖1.25×1.2×0.9		堅坑- 高环2、マリ形1、針1 玄室-刀子1、針1
8	2001	SX08	方形 (2.9)×2.5×2.45	-		平入り、片袖(3.0)×1.75×(?)	1 ?	堅坑上部-ハソウ2
9	2001	SX09	方形 (1.4)×(2.4)×(2.0)	-		平入り? (?)×(1.1)×1.0		直刀1、刀子1、管玉1、 高环4、マリ形1、蓋1
10	2001	SX10	方形 1.6×1.2×(1.1)	-	黒色土ブロック	平入り? (?)×(0.9+@)×(?)		
11	2002	SX01	方形 1.6×1.35×1.1	-	黒色土ブロック	平入り、片袖 1.65×1.05×1.1		鉄錠1 ?
12	2002	SX02	隅丸方形1.7×1.45×0.7	3.6	黒色土ブロック	平入り、片袖 1.7×0.95×0.9	1 ?	堅坑-高环1 玄室-刀子1
13	2002	SX03	不定形(半円)1.15×1.1×0.55	2.55		平入り、両袖1.3×0.9×(0.7)		
14	2002	SX04	ほぼ正方形(1.5)×1.6×1.0	2.9	黒色土ブロック	平入り、両袖1.3×0.75×1.15		
15	2002	SX05	方形 (1.4)×1.6×0.9	2.75	黒色土ブロック	平入り、両袖(1.65)×1.1×1.0		刀子1、鉄錠2、 ガラス玉47
16	2002	SX06	方形 1.8×0.95×1.45	3.4	黒色土ブロック	平入り、両袖1.85×0.95×0.8		堅坑-环身1 玄室-鉄錠34
17	2002	SX07	方形 2.7×2.1×1.2	5.25	黒色土ブロック	平入り、両袖2.75×1.3×(1.5)	2追葬?	堅坑-环身1、 玄室-刀子1、鉄錠?
18	2002	SX08	方形 1.8×1.5×1.2		黒色土ブロック	平入り、両袖1.85×1.2×(1.0)	2追葬?	刀子2、鉄錠2
19	2003	SX01	未調査	-	未調査	平入り、未完形		刀子1、管玉1
20	2003	SX02	長方形3.65×1.6×1.1	5.5	黒色土ブロック	平入り、2.1×1.5×1.1	1 or 2 追葬	平瓶1、刀子1 耳環2
21	2003	SX03	委長方形 (2.6+@)×1.5×1.6~1.7	5.9?	黒色土ブロック	平入り、両袖 2.45×1.1×1.5	2 or 3 追葬	堅坑- 高环3(鉛-土)、杯身2、 杯蓋2、蓋1、鏡具2 玄室-台付長鏡ぬ、骨、鏡4、 鉄錠16、刀子2、直刀、耳環1

\*Tk2003-SX02については桑畑氏よりご教示

第10表 地下式横穴墓観察表

## 5 まとめ

築池遺跡は、從来から周知されていた古墳時代の墓域のほかに今回縄文および弥生時代の堅穴住居跡（集落跡）が確認され縄文から古墳時代の複合遺跡であることが判明した。

縄文時代の遺構はTk2001 - SA01の堅穴住居跡1基とTk2001 - SC01、02の土坑2基である。SA01は小型円形プランで、出土遺物は黒色磨研の精製深鉢形土器のみである。胴屈曲部から口縁に立ち上がる形態で2分できるが、口縁端部が内傾するものではなく、胴屈曲部の沈線も浅い。また、底部は小さく上げ底状である。後期末から晩期初頭と思われる。堅穴住居のプランについては横尾原遺跡で晩期後半ではあるが隅丸方形（2.8×2.4m）の小規模なものが出土している。

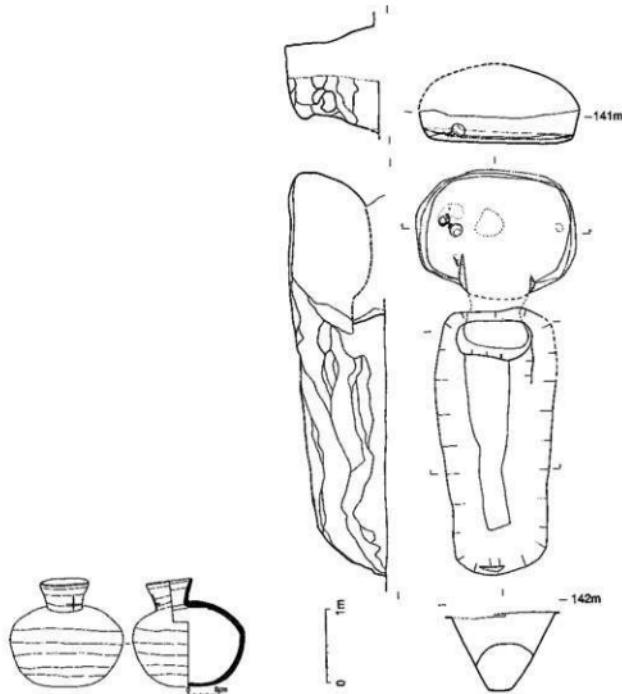
弥生時代の遺構はTk2001 - SA02、03、04の堅穴住居跡で、後期後半ごろに位置づけたい。分布域をみると当丘陵台地の県道より東側に密度はあまり高くなく点在すると思われる。

今回の調査の主体である古墳時代の遺構は地下式横穴墓20基が発見され、現時点でのほか35基が調査されており築池遺跡内で都合55基が確認されている。4次の調査成果としてTk2001 - SX08、09、10とTk2002 - SX01、05で切り合いをもつ地下式横穴墓が出土したこと。また、Tk2001 - SX03、06等の大型の地下式横穴墓に周溝状遺構が伴う可能性があること。Tk2001 - 04、07やTk2002 - SX06、07、08でみられる6世紀代の地下式横穴墓は複数基で群を構成し、堅坑以外の構成範囲に須恵器や土師器を散布させる（Tk2003 - SX03）ことなどが挙げられる。具体的にみていくと、Tk2000 - SX01は主頭鐵2点と長頸鐵<sup>22)</sup>5点、Tk2001 - SX03も主頭鐵2点長頸鐵1点は和田編年を援用するとIV期に該当する（TK216～TK208）。Tk2001 - SX04の主頭鐵2点は刃部幅が2.5cm以上あり刃部の折れが発達している。Tk2001 - SX06は長頸鐵のみ、Tk2002 - SX01は三角形鐵1点、Tk2002 - SX02の柳葉鐵（1点）は古墳時代の前・中期に存在し身7.5cm前後で鉢からふくらむを直線的に開部に至るものである。Tk2002 - SX06の方頭鐵（2点）三角形鐵（2点）は古墳時代後期を中心として存在する。Tk2002 - SX07は淡道より方頭鐵（2点）三角形鐵（1点）、玄室より長頸鐵（7点）が出土しやはり後期を中心と思われる。Tk2002 - SX08の無茎鐵（365）は鐵身體が11cm前後と大型である。Tk2003 - SX03の主頭鐵（12点）は刃部端の形状から2つに分類（398, 399, 402, 406, 408, 409と400, 401, 403, 404, 405, 407）できそうである。和田編年では主頭鐵の前者が2類で後者が3類aに各々近い。三角形鐵（4点）はその形態から中後期（6世紀後半）に位置づけられると思われる。他の出土品ではTk2001 - SX02とTk2002 - SX05からガラス玉等が出土しているが材質では前者に滑石製と色調では黄色や緑色のものが含まれることから相対的に後者が古く前者を中期中頃以降と思われる。Tk2003 - SX03の耳環は銅芯製で後期（6世紀前半～後半）ごろに位置づけたい。巻は矩形立間系の環状鏡板付巻から6世紀後半と思われる。土師器・須恵器からみるとTk2001 - SD01の高坏（207）は5世紀後半、Tk2001 - SX04堅坑内の高坏片（237～239）は同一個体ではなく流れ込みの可能性がある。237の坏部は浅くやや外反気味に開き、239は外反する脚裾である。Tk2001 - SX07堅坑内の高坏（245, 246）は6世紀前半ほどに位置づけたい。Tk2001 - SX08堅坑内の蟲（251）は5世紀中ごろ、Tk2001 - SX09玄室内の高坏（255, 256, 257, 258）は坏部が深く中位に稜線がなく口縁がやや外開きすることや脚裾から6世紀前半くらいでおさえたい。Tk2002 - SX02堅坑内の高坏（322）は6世紀前半、Tk2002 - SX07、SX08堅坑内の須恵器坏身（343）や模倣坏身（344, 339, 340, 341）坏蓋（337, 338）等6世紀後半、Tk2002 - SX06, SX07, SX08付近の須恵器等（325～333）もほぼ同時期と思われる（TK43相当）。また、Tk2003 - SX03付近および堅坑・玄室内出土須恵・土師器も6世紀後半～末ぐらいにおさまると思われる。整理すると、Tk2000 - SX01は5世紀中ごろ、Tk2001 - SX02は後期ごろ、Tk2001 - SX03は鉄畿から5世紀中ごろ、Tk2001 - SD01の高坏（207）から5世紀後半、Tk2001 - SX04の高坏片は流れ込みの可能性があり坏部はやや古手の様相を示している。Tk2001 - SX06は

鉄器から5世紀後半から末、Tk2001-SX07は6世紀前半、Tk2001-SX08は5世紀中まで、Tk2001-SX09は6世紀前半、Tk2002-SX02は6世紀前半、Tk2002-SX03、04とTk2003-SX01は玄室奥壁の抉れから古墳時代後半、Tk2002-SX05は中期ごろ、Tk2002-SX06、SX07、SX08とTk2003-SX03は須恵・土師器から6世紀後半、鉄器からは5世紀中ごろである。次に、地下式横穴墓の特に玄室に対する豊坑の形態で分類する。豊坑のプランは基本的には方形で、玄室（長軸方向）に対する豊坑の形という視点からみると、横長・正方形・縦長に3分類できる。T-1（横長型）、T-2（正方形型）、T-3（縦長型）と便宜上分けると、T-1はTk2000-SX01、Tk2001-SX02、09、Tk2002-SX03、04、T-2はTk2002-SX01、02、05、T-3はTk2001-SX03、04、05、07、08、10、Tk2002-SX06、07、08、Tk2003-SX03となる。また、長辺ないし一辺が2mを越えるものを大型とするT-1、T-2ではなし、T-3ではTk2001-SX03、Tk2002-SX06、07、08、Tk2003-SX03となる。これに玄室形態が妻入りないし平入り型と組み合わせる。また、玄室は新しくなると奥壁側床面両サイドがやや抉れてくるようである（Tk2002-SX03、Tk2003-SX01、03）。以上をまとめたのが別表である。Tk2001-SX08とTk2001-SX09の切り合いについては半世紀以上の時期差があり、地下式横穴墓築造者に断絶が生じているか異系統の可能性がある。また、第60回掲載のTk2003-2号地下式横穴墓（Tk2003-SX02）は豊坑が墓道状に断面V字型となり玄室内出土の平瓶から7世紀前半ほどに比定されるようである。

豊坑	規模	玄室形態	地下式横穴墓	年代（土師器・須恵器等）	鉄器（和田編年）等
T-1 (横長型)	1 小型	a 妻入り	Tk2002-SX01 Tk2002-SX02	6世紀前半	
		b 平入り	Tk2000-SX01 Tk2001-SX02 Tk2001-SX09 Tk2001-SX10 Tk2002-SX03	後期ごろ 6世紀前半 TK2001-SX09以降 6世紀後半	IV期（TK216～TK208）
		a 妻入り			
		b 平入り			
		a 妻入り	Tk2001-SX07	6世紀前半	
	2 大型	b 平入り	Tk2002-SX05	中崩中頃以前	
		a 妻入り			
		b 平入り			
		a 妻入り	Tk2001-SX05		
		b 平入り	Tk2001-SX04 Tk2002-SX06 Tk2002-SX08	6世紀後半 6世紀後半	IV期
T-3 (縦長型)	1 小型	a 妻入り	Tk2001-SX08 Tk2001-SX06	5世紀後半	V期
		b 平入り	Tk2001-SX03	5世紀後半	VI期
		a 妻入り	Tk2002-SX07 Tk2003-SX03	6世紀後半 6世紀後半	VI期〔玄室内〕（TK47～） VI期相当か 中後期（6世紀後半）
	2 大型	b 平入り			

以上から地下式横穴墓の大まかな流れを考えると、5世紀中ないし後半に大型の妻・平入り型（周溝状遺構を伴うものあり）や横長の堅坑をもつ小型の平入り型が存在し、6世紀代に平入り型は群構成し堅坑は縦長化が進む。妻入り型は小型化する。6世紀後半くらいから横穴墓の影響を受け平入り型の堅坑は縦長化が顕著になり7世紀前半には堅坑が墓道状に断面V字型となるようである。妻入り型は6世紀後半を下限とし、Tk2001-SX07の副葬内容やTk2001-SX06の被葬者埋葬方法等によりその特異性が伺える。また、分布域についても県道をはさみ東側から西側へ延びTk2003-SX01付近が分布の西端になると思われる。



第60図 Tk2003-2号地下式横穴墓 (Tk2003-SX02)<sup>注3)</sup>

注1) 宍戸泰氏よりご教示

注2) 和田理啓「日向の堆下式横穴」『第4回九州前方後円墳研究大会 九州の横穴墓と地下式横穴墓』2001

注3) 来嶋光博氏より図面提供

#### 参考文献

岡光光彦「いわゆる「奈良の巣」について」『日本古代文化研究創刊号』1984

杉山秀宏「古墳時代の鐵鎌について」『櫛原考古学研究所論集8』1988

『古墳時代中・後期の土師器』発表要旨資料 第5回九州前方後円墳研究会2002

『山崎上ノ原第2遺跡、山崎下ノ原第1遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター2003

「6 土師器と須恵器」『古墳時代の研究』堀山潤

『宮崎考古代16号』宮崎考古学会1998

「古代日向2」『えとのす32』新日本教育図書

『横尾原遺跡』都城市文化財調査報告書第16集1992

『東北・九州における古墳文化の受容と変容に関する比較研究』鹿児島大学2000

『山ノ田第1遺跡』宮崎県教育委員会1996



TK2000 発掘前全景



TK2000 周溝稼出状況



TK2000 周溝内土器 (70,71) 出土状況



TK2000 周溝



TK2000-SX01 完掘



TK2000-SX01 玄室内人骨出土状況 (上半身)



TK2000-SX01 玄室内人骨出土状況 (下半身)



TK2000-SX01 玄室内遺物出土状況



Tk2001 周溝検出状況（西から）



Tk2001 周溝検出状況（東から）



Tk2001-SA02 完掘



Tk2001 周溝完掘（東より）



Tk2001-SA01 遺物出土状況



Tk2001-SA01 完掘



Tk2001-SX02 完掘



Tk2001-SX02 玄室内人骨出土状況



Tk2001-SD01 掘出状況



Tk2001-SD01 掘出状況



Tk2001-SX03 竪坑検出状況



Tk2001-SX03 竪坑兼門閉塞状況



Tk2001-SX03 完掘



Tk2001-SX03 人骨等出土状況



Tk2001-SX03 人骨等出土状況（拡大）



Tk2001-SX06 玄室内遺物出土状況



Tk2001-SX06 検出状況



Tk2001-SX06,SD02



Tk2001-SX06 玄室内（奥壁側より）



Tk2001-SX06 玄室内直刀（236）出土状況



Tk2001-SX06 玄室奥壁側朱玉鉢鏡出土状況



Tk2001-SX04,07 壁坑検出前黄ボラ堆積状況



Tk2001-SX07 壁坑検出状況



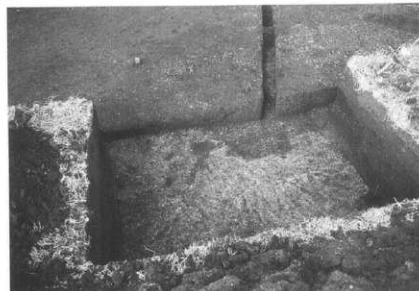
Tk2001-SX07 壁坑半サイ状況



Tk2001-SX07 肄坑内遺物出土状況 (拡大)



Tk2001-SX07 人骨出土状況



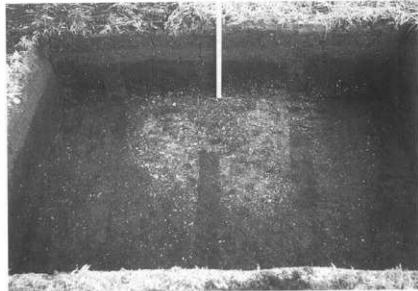
Tk2001-SX04 肄坑検出状況



Tk2001-SX04 完掘



Tk2001-SX04 玄室内遺物出土状況



Tk2001-SX05 肄坑検出状況



Tk2001-SX05 肄坑閉塞状況



Tk2001-SX05 完掘



Tk2001-SX05 玄室内



Tk2001-SX08,09,10 竪坑検出状況



Tk2001-SX08 竪坑最上位遺物出土状況 鏡(251,252)



Tk2001-SX08,09 竪坑



Tk2001-SX08,09,10 竪坑



Tk2001-SX010 竪坑より



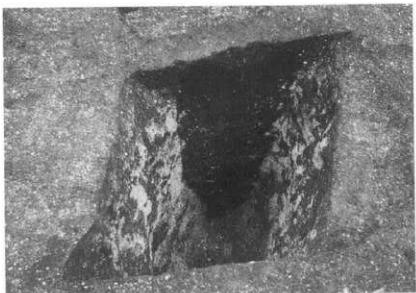
Tk2001-SX10 竪坑黒色粘質土ブロック



Tk2001-SX08 玄室



Tk2001-SX09 玄室内出土遺物



Tk2001-SD03



Tk2001-SA03 遺物出土状況



Tk2001-SA03 完掘



Tk2001-SA04 遺物出土状況



Tk2001-SA04 完掘



Tk2001-SC01 半サイ状況



Tk2001-SC01 完掘



Tk2002-SD01,02 検出状況（遠景）



Tk2002-SD01 完掘状況（南より）



Tk2002-SD02 検出状況（南より）



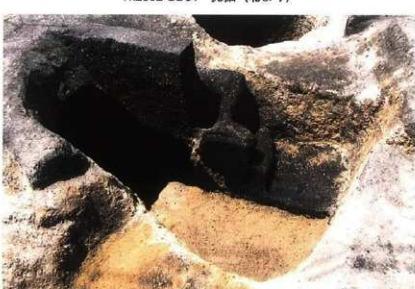
Tk2002-SD01 完掘（南より）



Tk2002-SD01 完掘（北より）



Tk2001-SX01 肇坑羨門閉塞状況



Tk2002-SX05,SC01 半サイ状況



Tk2002-SX01,05 完掘



Tk2002-SX02 肄坑棲出状況



Tk2002-SX02 完掘



Tk2002-SX02 人骨出土状況



Tk2002-SX04 完掘



Tk2002-SX03 全景



Tk2002-SX03 人骨出土状況



Tk2002-SX06付近黄ボラ・遺物棲出状況



Tk2002-SX06付近黄ボラ堆積状況（拡大）

Tk2002 SX07,08検出前,SX06 写真図版10



Tk2002-SX07,08 検出前黄ボラ堆積状況（西から）



Tk2002-SX07,08 検出前黄ボラ堆積状況（南から）



Tk2002-SX07（手前）と黄ボラ面掘り下げ状況



Tk2002环身（333）出土状況



Tk2002-SX06 豊坑検出状況



Tk2002-SX06 美門閉塞状況



Tk2002-SX06 完掘



Tk2002-SX06 玄室内遺物出土状況



Tk2002-SX07 整坑検出状況



Tk2002-SX07 整坑検出面遺物出土状況



Tk2002-SX07 整坑半サイ状況



Tk2002-SX07 整坑内黒色粘質土出土状況



Tk2002-SX07 完掘



Tk2002-SX07 整坑より玄室



Tk2002-SX07 玄室内出土状況



Tk2002-SX07 玄室側壁



Tk2002-SX03 壁坑半サイ状況



Tk2002-SX08 壁坑完掘



Tk2002-SX08 玄室内



Tk2002-SC02 完掘



Tk2002-SC01 完掘



Tk2002-SB01 出土状況



Tk2002-SB01 柱穴断ちわり



Tk2003-SC02 完掘



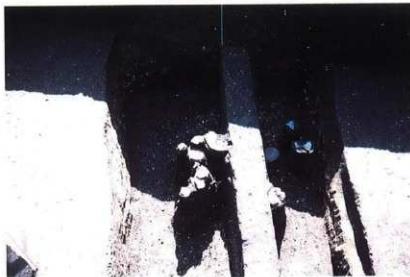
TK2003-SD01 土器 (370) 検出状況



TK2003-SX01 全景



TK2003-SX01 玄室内



TK2003-SX03 竪坑内遺物出土状況



TK2003-SX03 竪坑



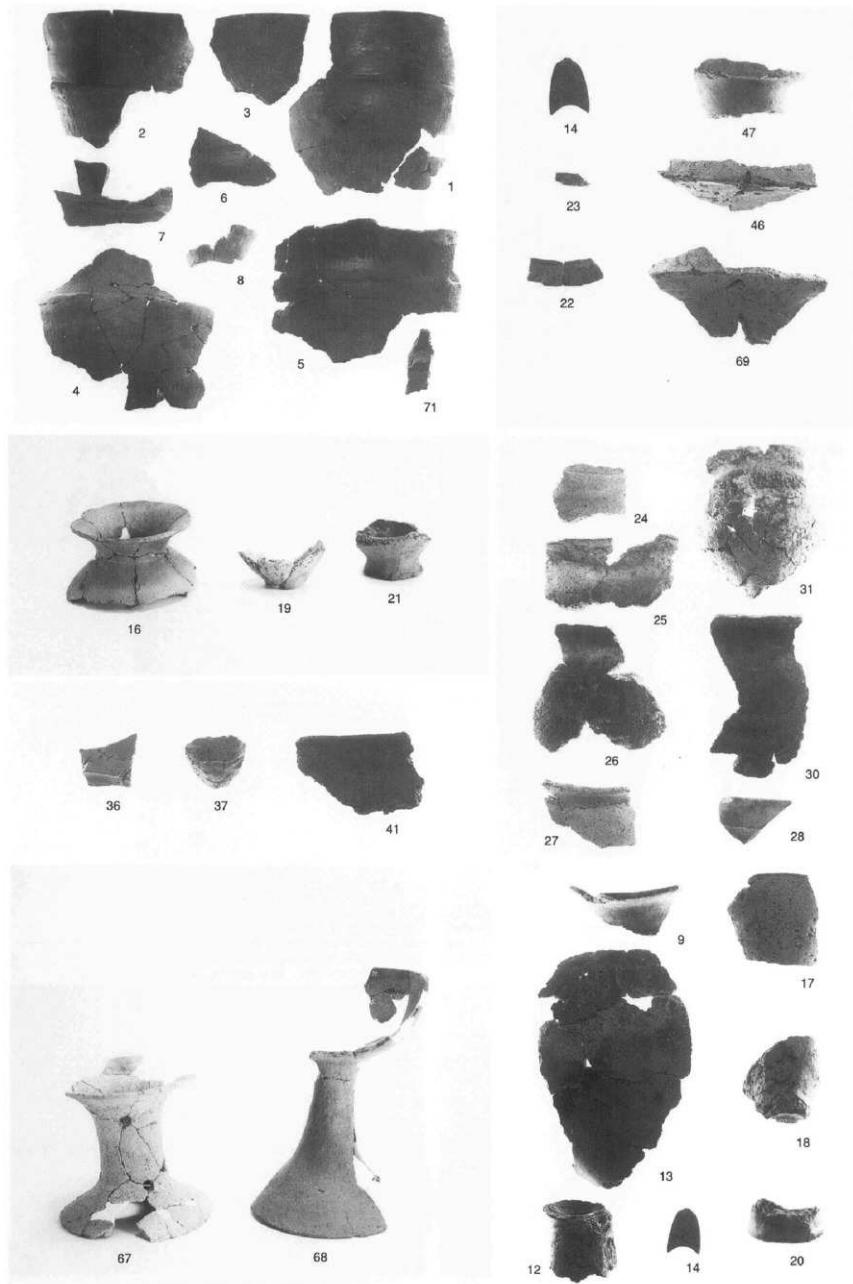
TK2003-SX03 竪坑北側セクション

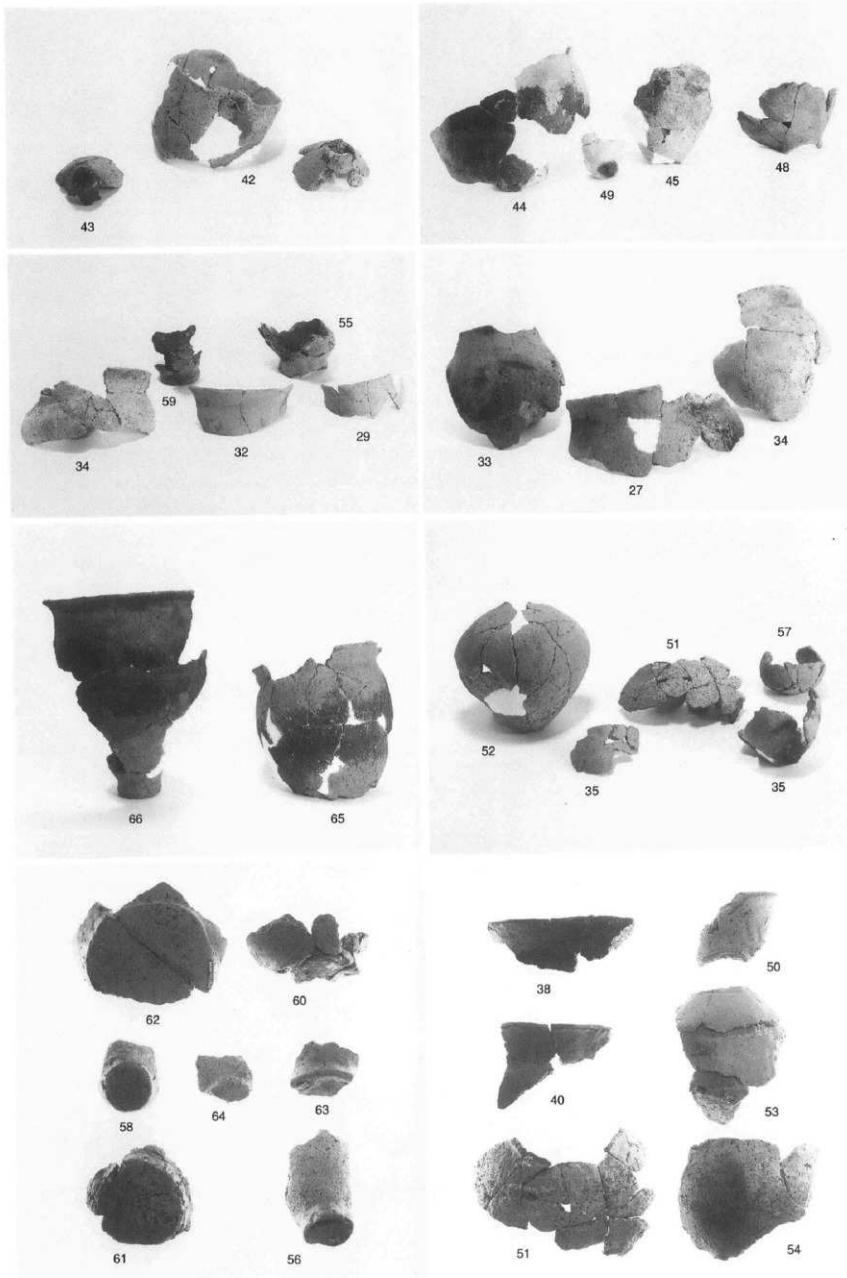


TK2003-SX03 玄室内全景



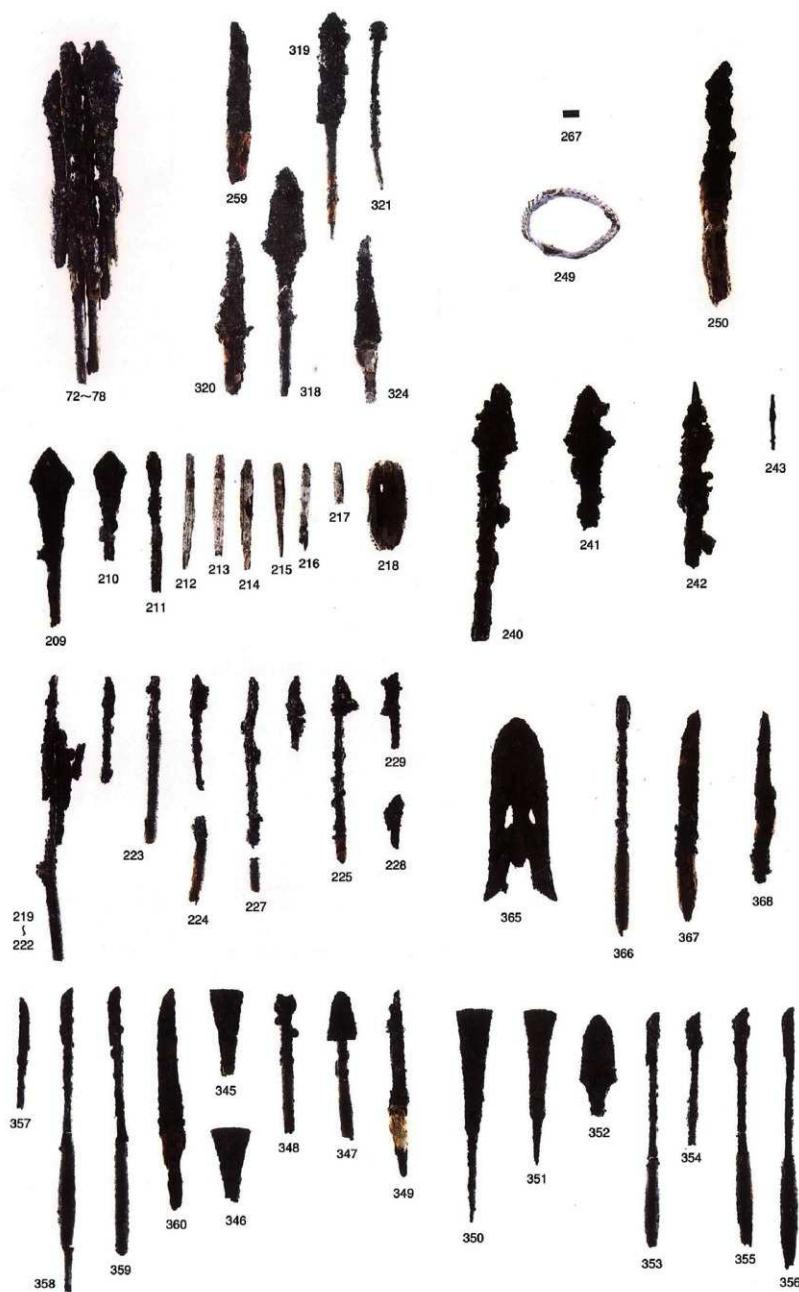
轡・鐵鎌出土状況

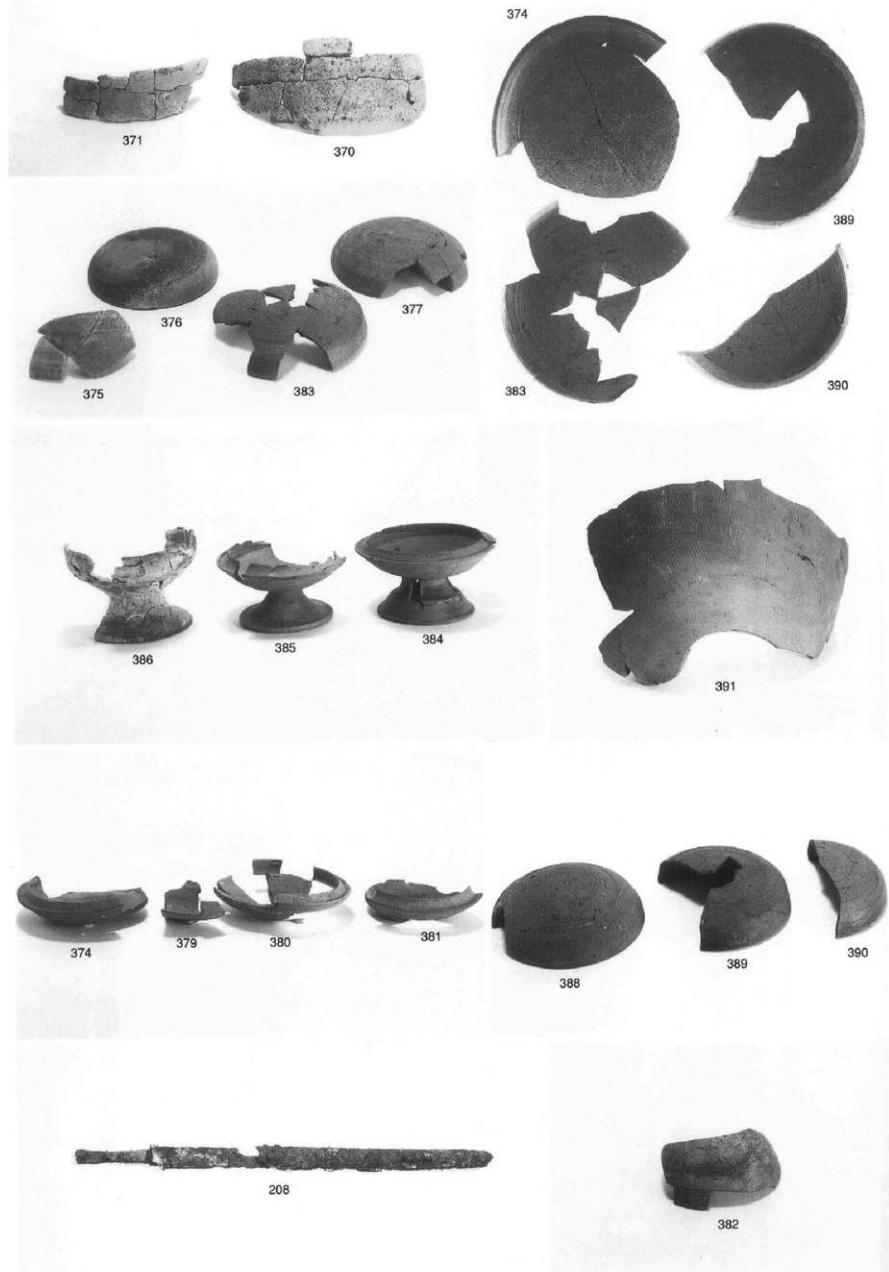


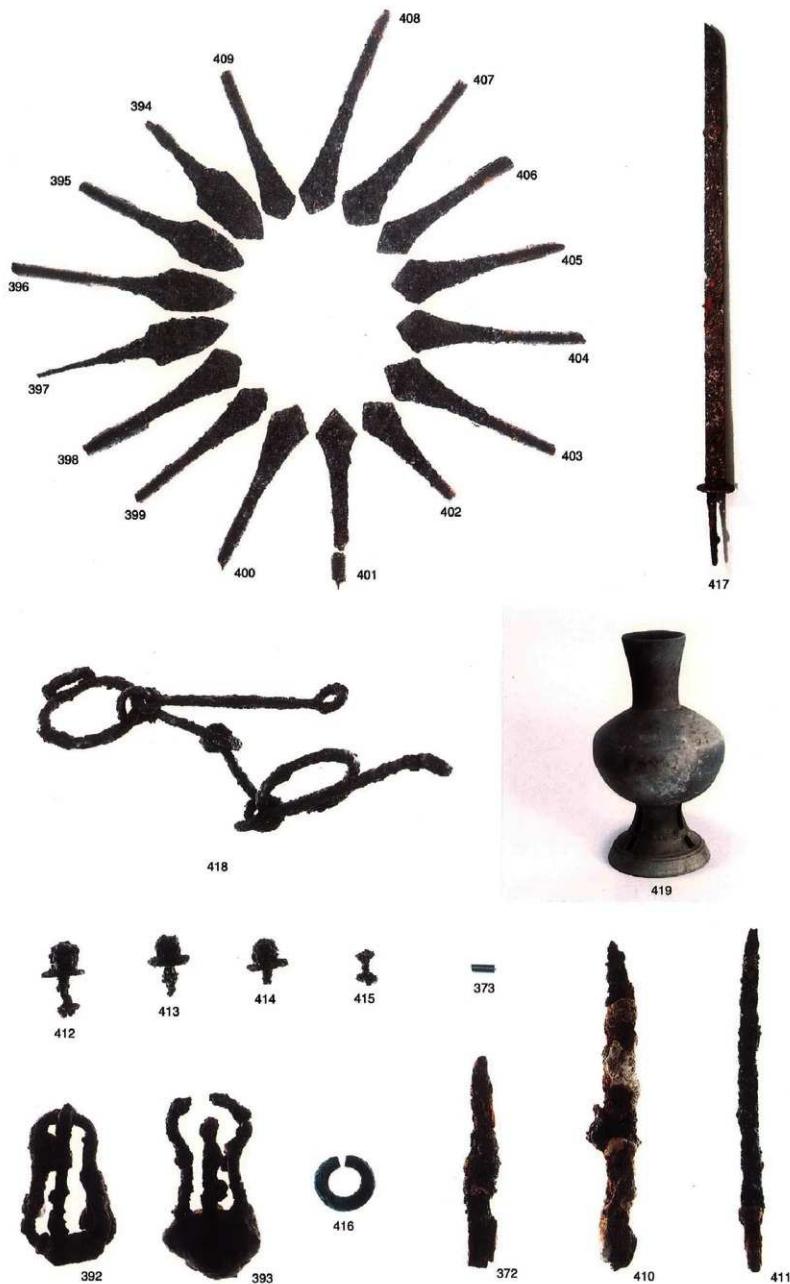












### III 人骨編

# 宮崎県都城市築池地下式横穴墓群2000-1号墓出土の古墳時代人骨

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科

竹中正巳

2000年6月、宮崎県都城市志和池5号墳の周溝が調査され、地下式横穴墓が発見された。高塚墳の周溝を掘り込んで地下式横穴を造る例は、現在までに宮崎平野部や大隅半島部で確認されている。都城盆地では初例であり、高塚墳と地下式横穴墓の被葬者の関係を考える上でも貴重な資料になる。この志和池5号墳と地下式横穴墓は築池地下式横穴墓群の中にあり、今回発見された地下式横穴墓は築池地下式横穴墓群2000-1号墓と名付けられた。所属年代は、考古学的所見から古墳時代中期と考えられる。この墓から1体の仰臥伸展葬の人骨が出土した。

人骨はほぼ全身の骨格が遺存しているが、保存状態は悪く、計測可能な部位は歯を除いてない。人骨には赤色顔料が付着しており、腰部から大腿骨にかけての範囲に付着している。性別は右側頭骨の乳様突起が大きいことから男性と判定した。年齢は、上下顎とも第3大臼歯まで萌出していること、歯の咬耗の程度がMartinの1度が多いことから、壮年前期と判定した。歯の計測値は表1に、頭蓋形態小変異の出現の有無は表2に示す。左右の外耳孔の後壁に、外耳道骨瘤が認められる(図1)。

歯式は以下の通りである。

· · · · ·	8 7 6 5 4 3 2 1	1 2 3 4 5 6 7 8	· : 遊離歯
· · · · ·	8 7 6 5 4 3 2 ×	× × 3 4 5 6 7 8	
· · · · ·			

う歯は認められない。エナメル質減形成が3本の歯に認められた。

築池地下式横穴墓群は前方後円墳や円墳と共存する。都城盆地は南九州の内陸部で唯一前方後円墳が分布する地域として知られ、古墳文化の南九州内陸部への伝播・浸透を考える上で重要な地域である。築池地下式横穴墓群に埋葬された人々が、どのような形質を持ち、どのような生活を送っていたのか解明するには、なによりも保存良好な人骨資料が出土する必要がある。今回、出土した人骨から明らかにできた情報はわずかなものであった。今後、築池地下式横穴墓群から保存良好な人骨資料が出土し、その資料から築池を営んだ人々に関する様々な情報が得られることに期待したい。

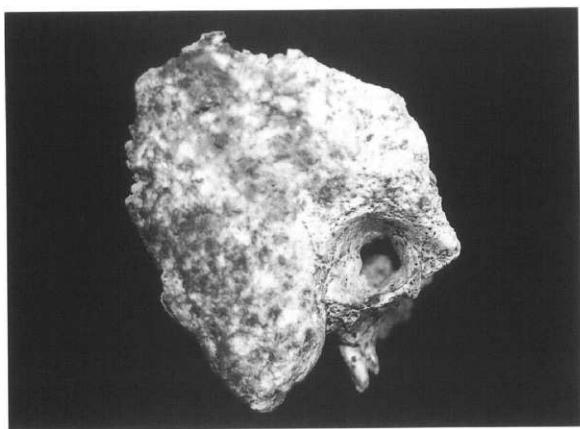


图1 築池地下式横穴墓群2000-1号墓出土人骨 外耳道骨瘤（右侧颞骨）

表1 築池2000-1号墓人骨 歯の計測値(mm)

	右	左
UI1	—	8.25
UI2	6.87	7.03
UC	7.44	7.35
UP1	6.83	6.88
UP2	6.82	6.51
UM1	10.38	10.75
近	UM2	9.50
遠	UM3	9.13
心	LI1	—
径	LI2	—
	LC	6.67
	LP1	6.91
	LP2	7.05
	LM1	11.62
	LM2	10.55
	LM3	10.91
	UI1	6.34
	UI2	6.44
	UC	7.80
	UP1	9.22
	UP2	9.06
	UM1	11.56
頬	UM2	11.48
舌	UM3	11.54
添	LI1	—
	LI2	—
	LC	—
	LP1	7.37
	LP2	8.31
	LM1	11.17
	LM2	10.29
	LM3	9.77
	UI1	—
	UI2	11.30
	UC	14.00
	UP1	—
	UP2	—
	UM1	10.85
歯	UM2	11.02
根	UM3	12.84
長	LI1	—
	LI2	—
	LC	—
	LP1	—
	LP2	12.49
	LM1	—
	LM2	11.18
	LM3	12.02

— 計測不能

表2 築池2000-1号墓人骨 頭蓋形態小変異の出現の有無

	右	左
舌下神経管二分	—	—
外耳道骨瘤	+	+
フュケ孔	—	—
ペサリウス孔	—	—
卵円孔形成不全	—	—

# 宮崎県都城市築池地下式横穴墓群出土の古墳人骨

松下孝幸\*

キーワード：宮崎県、古墳時代人骨、地下式横穴墓、保存不良、低身長

## はじめに

宮崎県都城市下水流町にある築池地下式横穴墓群は菴子野地下式横穴墓群と並んで、都城市では地下式横穴墓が密集する地域のひとつである。築池地下式横穴墓群から出土した人骨については、筆者も1991年に出土した人骨の報告をおこなっている（松下、1992）。その後、1996年以降98年までに6基の地下式横穴墓が見つかっている。

次いで、1999年10月に1基の地下式横穴墓が1基発見されたのを皮切りに、2002年までに10基の地下式横穴墓が調査された。

宮崎県や鹿児島県の大隅半島などには古墳時代に南九州で特異的に出現する地下式横穴墓が盛行する。筆者は、この独特の埋葬施設に葬られた古墳人の形質的特徴を明らかにし、古代において熊襲・隼人と呼称された人々の形質的解明をおこなうために、以前から南九州地域から出土する古入骨の発掘調査とその研究をおこなってきた。総論的な見通しをたてるために必要な体数が確保できた時点で、その概要をまとめたことがある（松下、1989）。

この研究では、山間部と平野部で形質的な差異が認められたので、山間部タイプと平野部タイプに分け、さらに平野部タイプをIとIIに細分した。山間部タイプは低・広顔、低身長で、西北九州タイプの弥生人にきわめて近く、形質的には純文人の特徴を継続していると考えられる特徴を有していたが、平野部Iタイプは、高顔、高身長を特徴とし、北部九州タイプの弥生人や畿内の古墳人に近い特徴を示していた。平野部IIタイプは、頭の高さが低く、眼窩の高径も低く、周辺地域に同じ様な特徴を示す例が今のところ存在しない。

その後も南九州では地下式横穴墓から人骨が出土しているが、人骨はかれらの系譜を系統的に追究できるほどの量にはまだ達していない。

今回報告するのは、2001年から2002年までの間の農道拡幅工事に伴って検出された地下式横穴墓出土人骨であるが、人骨の保存状態は1体を除いてあまりよくない。しかし、性別の推定や推定身長を推測することができたので、その結果を報告しておきたい。

## 資料

2001年と2002年の発掘調査で、人骨が出土した地下式横穴墓は表2に示すとおりである。また人骨の性別・年齢なども表2に示した。

表1、2に示しているように7基の地下式横穴墓から8体の人骨が出土した。6基の地下式横穴墓では単体埋葬であるが、そのうち平入りは4基、妻入りは2基である。また、8体のうち男性は1体であるが、女性は5体で、今回は女性の占める割合が高かった。

\* Takayuki MATSUSHITA

The Doigahama Site Anthropological Museum [土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム]

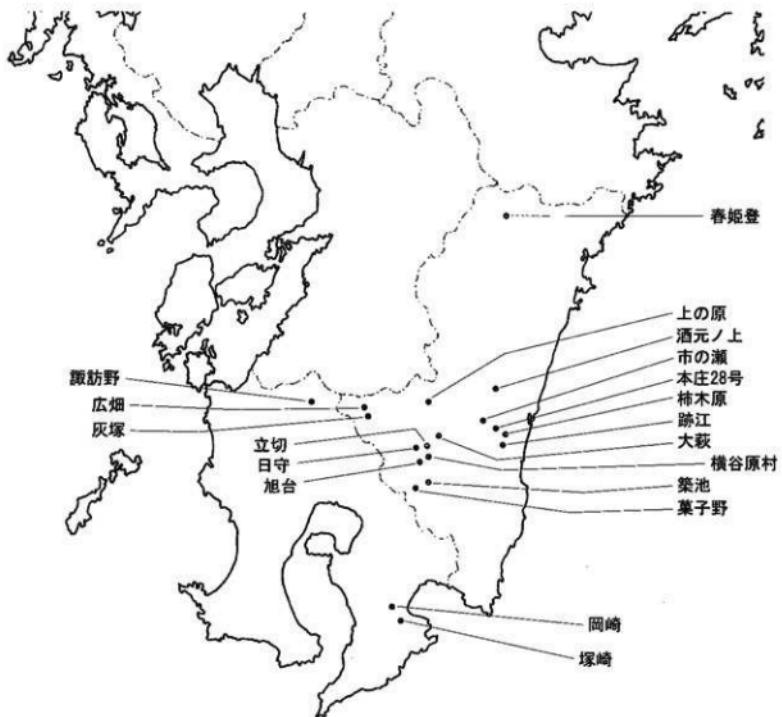
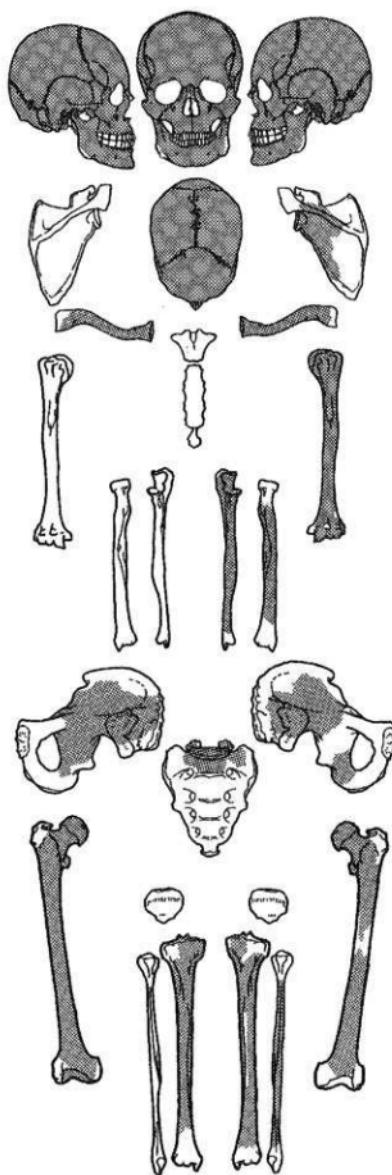


図1 遺跡の位置 (1/25,000) (Fig.1 Location of the Chikuike tunnel tumuli with underground chamber, Miyakonojo City, Miyazaki Prefecture)



築池2001-3（女性・壮年）

図2 人骨の残存部、アミかけ部分

(Fig. 2. Regions of preservation of the skeleton. shaded areas are preserved.)